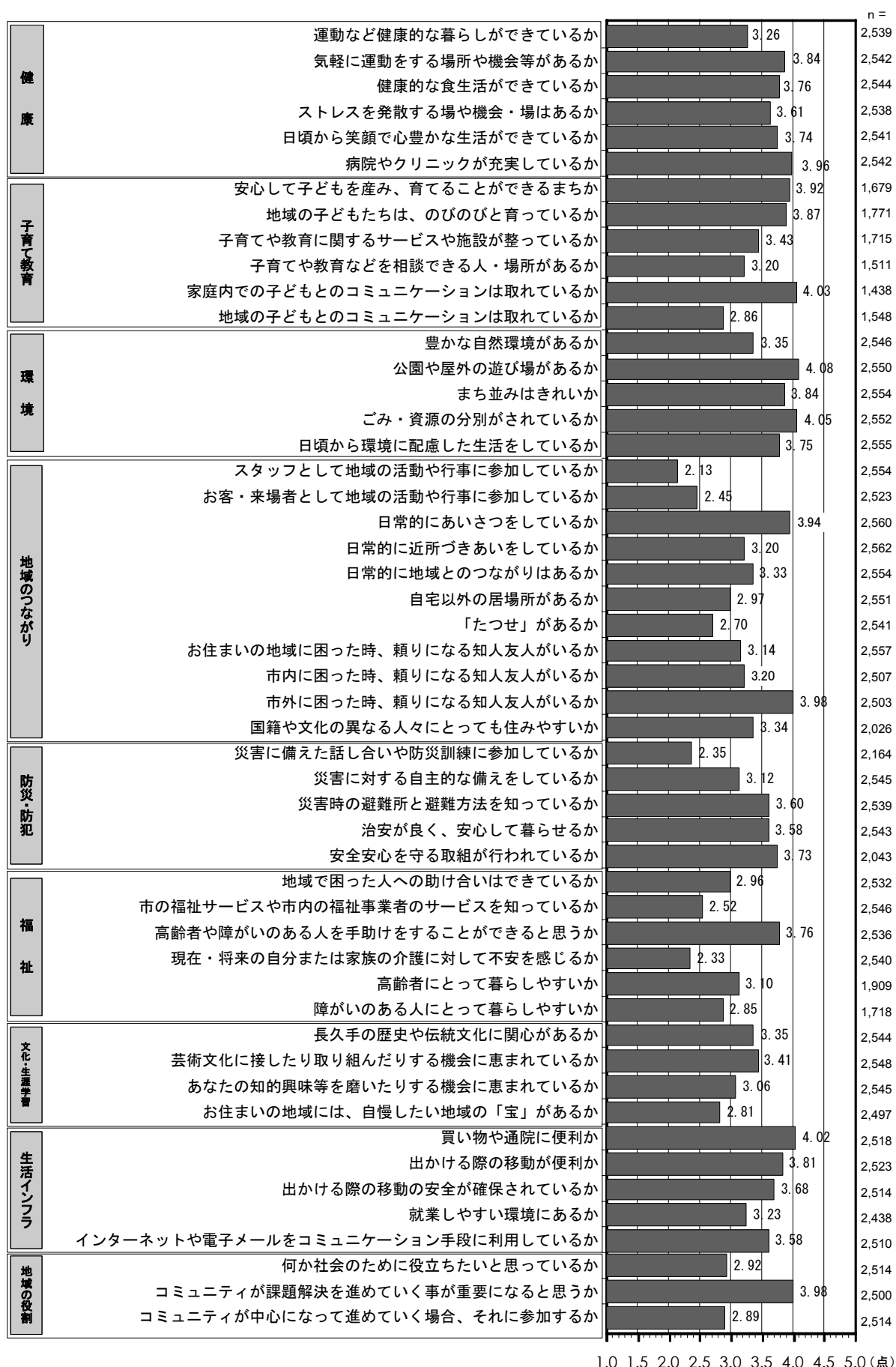


第4章 暮らしやお住まいの地域（生活実感）について

図4-0-1 暮らしやお住まいの地域（生活実感）について（評点一覧）



1.0 1.5 2.0 2.5 3.0 3.5 4.0 4.5 5.0(点)

図 4-0-2 暮らしやお住まいの地域（生活実感）について（評点一覧）

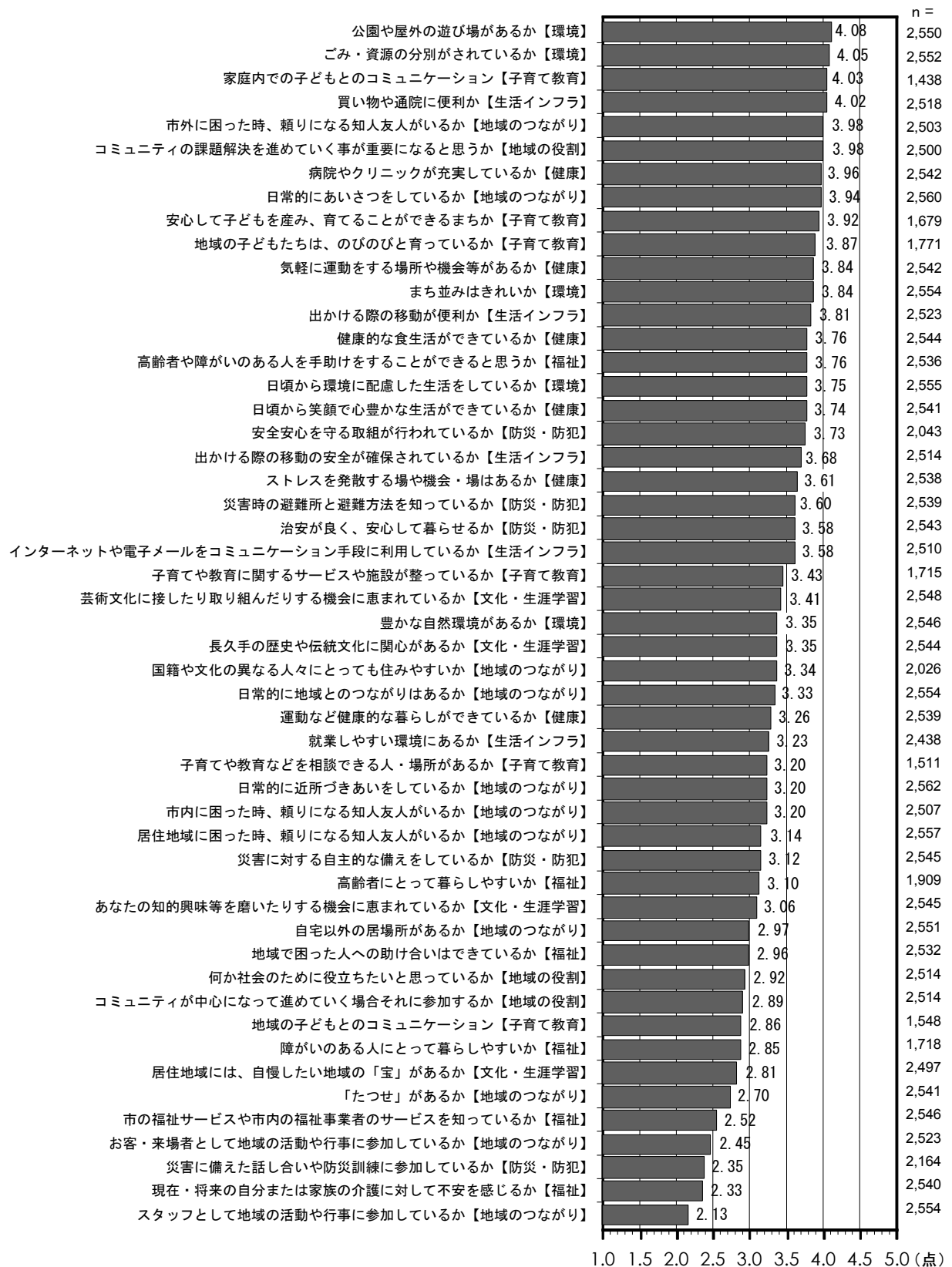


図 4-0-3 暮らしやお住まいの地域（生活実感）について（評点：前回比較）

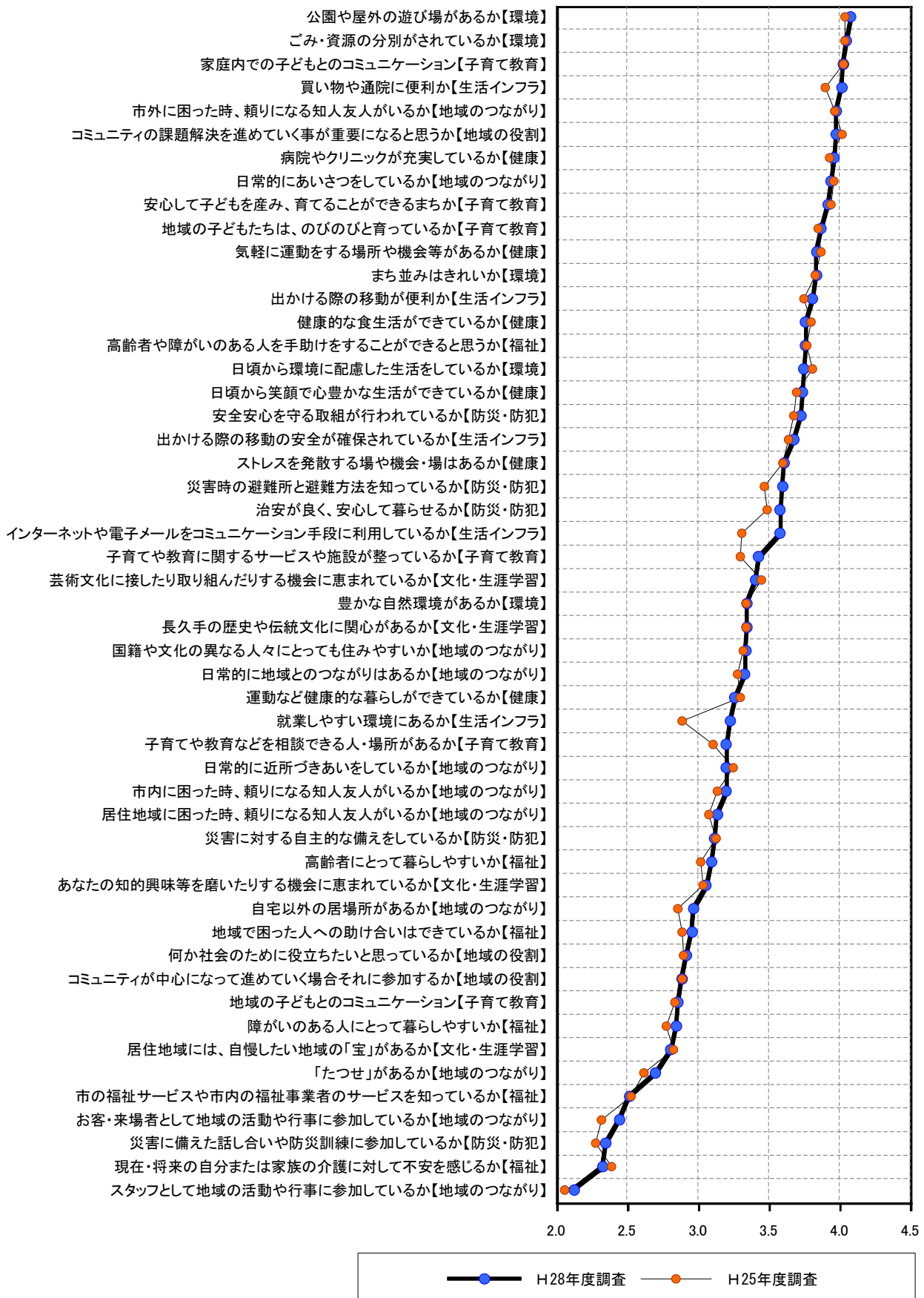
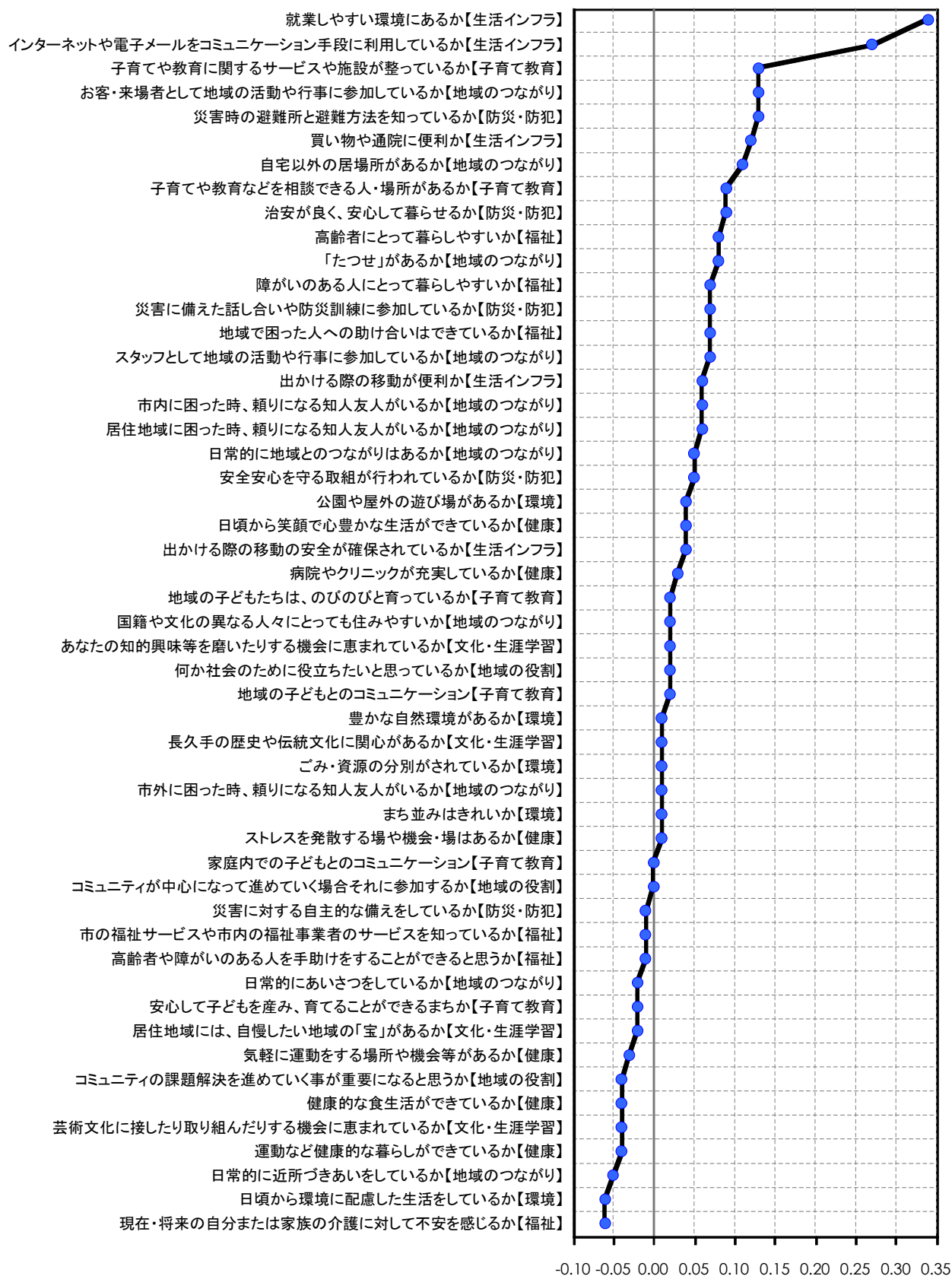


図 3-0-9 暮らしやお住まいの地域（生活実感）について（評点差分：H28-H25）



要点

「病院やクリニックが充実していると思うか」の評点が最も高く、他の項目の評点も比較的高い水準にある一方で、「（体を動かしたり運動したりと）健康的な暮らしができていると思うか」の評点が、他の項目に比べて若干目立って低くなっています。

「（体を動かしたり運動したりと）健康的な暮らしができていると思うか」については、若い世代の評点が低くなっている一方で、70歳代や60歳代の評点が高くなっていることが特徴としてみられます。

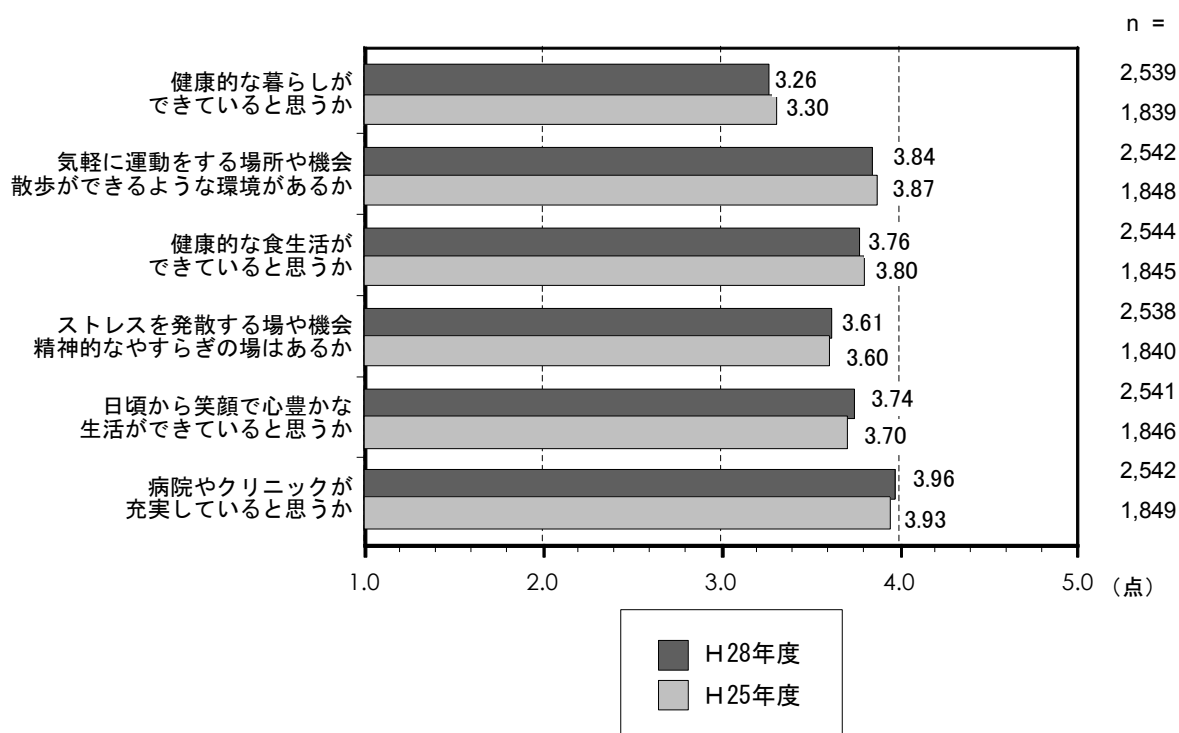
全体

○健康に関する6項目のうち、「病院やクリニックが充実していると思うか」の評点が3.96と最も高く、次いで「気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境があるか」（3.84）、「健康的な食生活ができていると思うか」（3.76）の順となっています。

○一方、「（体を動かしたり運動したりと）健康的な暮らしができていると思うか」は、3.26と他の項目に比べて評点が低くなっています。

○このように、運動する場所や機会、環境が恵まれていると実感し、健康的な食生活ができているという人の割合に比べて、体を動かしたりするといった健康的な暮らしが実践できているという実感は低い水準にとどまっています（図4-1-1）。

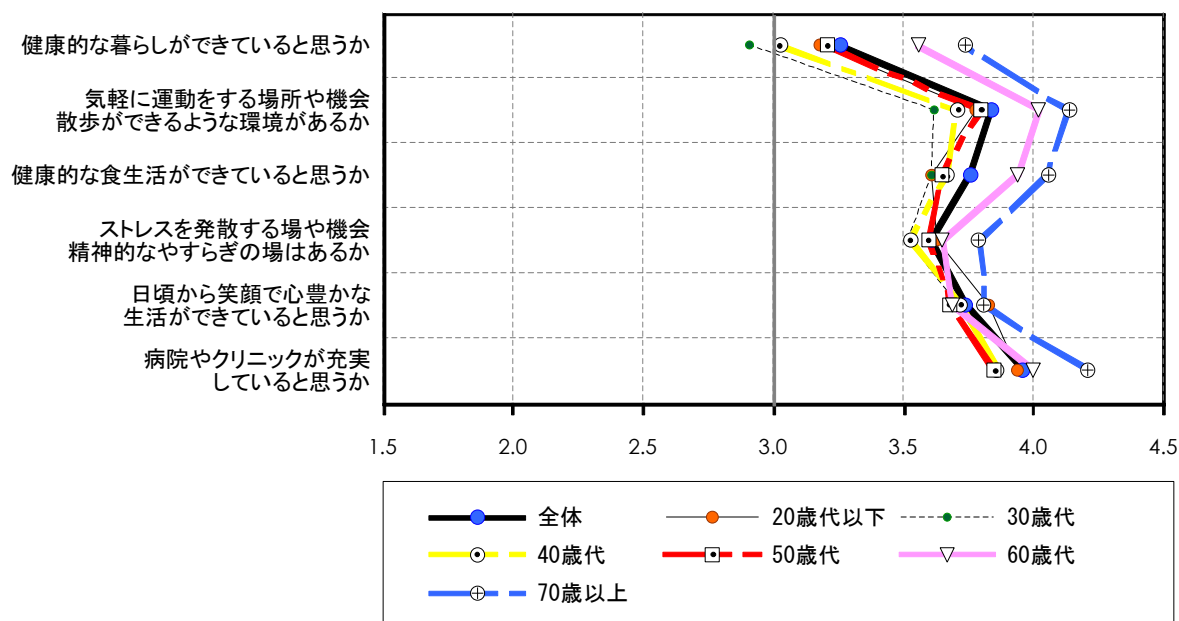
図4-1-1 健康について（評点：前回比較）



年齢別

- 年齢別にみると、「(体を動かしたり運動したりと) 健康的な暮らしができていると思うか」において年齢差がみられます。比較的時間に余裕のある年齢層の70歳代(3.74)や60歳代(3.56)の評点が高くなっており、若い年齢層に比べると運動を実践しているような状況がうかがえます。
- 加えて、70歳代では、「日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思うか」を除く残りの5項目の評点が他の年齢層と比べて最も高くなっており、健康的な暮らしや運動環境、医療施設の充実度などを実感している年齢層であるといえます(図4-1-2)。

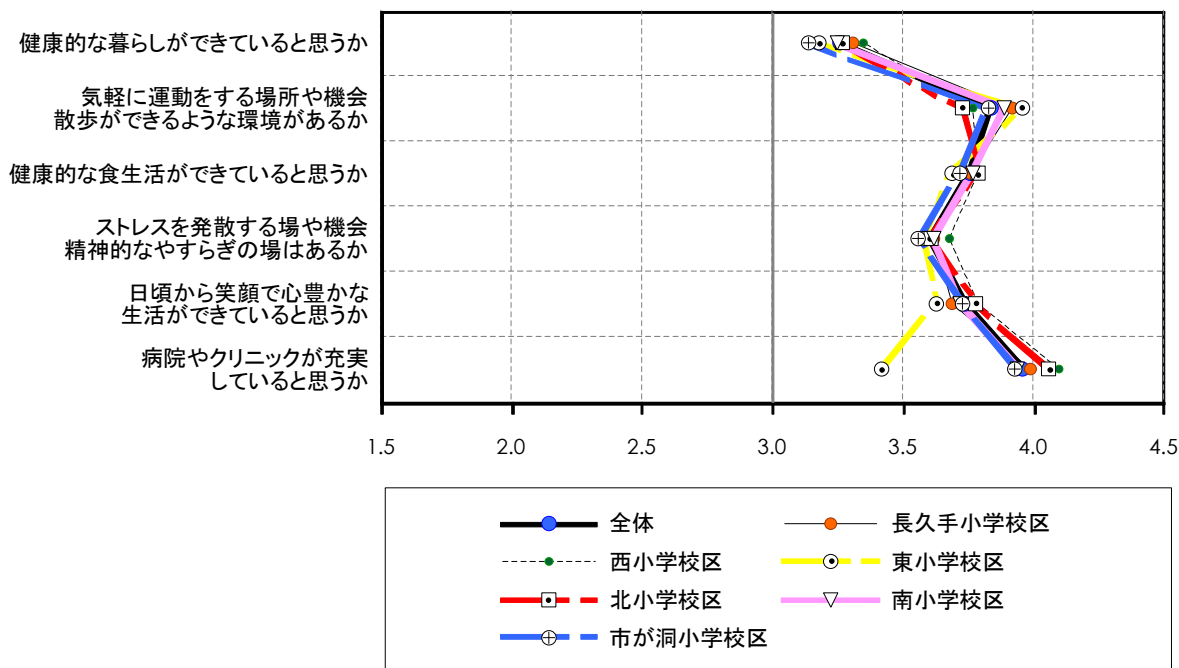
図4-1-2 年齢 「健康について(評点)」



小学校区別

- 小学校区別にみると、「病院やクリニックが充実していると思うか」については、東小学校区の評点が低くなっています。
- 「病院やクリニックが充実していると思うか」以外の項目については、小学校区の違いによる差はほとんどみられません(図4-1-3)。

図4-1-3 小学校区 「健康について(評点)」



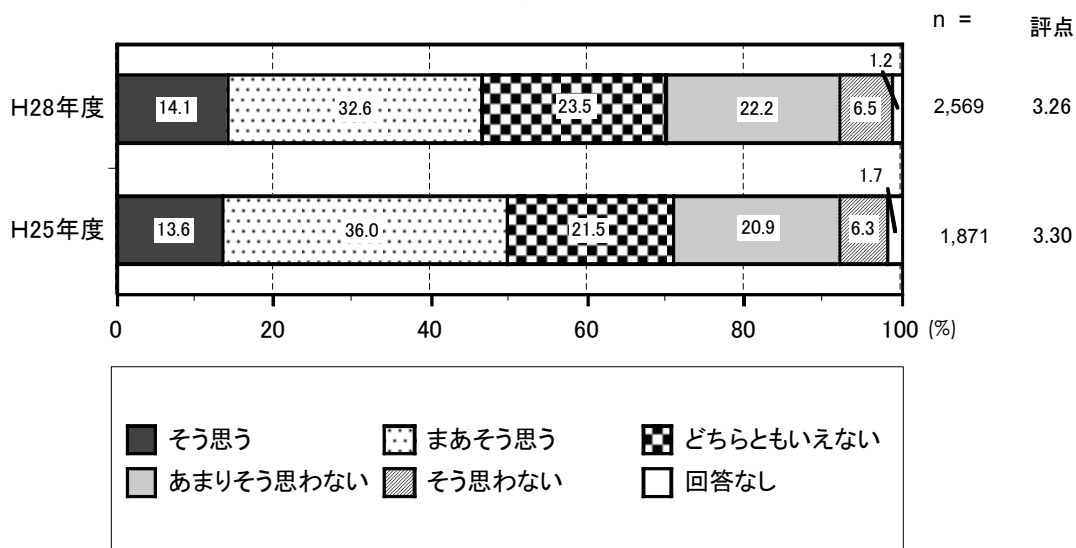
(1) 健康的な暮らし (問8 (1))

問8 (1) 体を動かしたり運動したりと健康的な暮らしができていると思いますか。【〇は1つ】

○「(体を動かしたり運動したりと) 健康的な暮らしができていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は46.7%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(28.7%)を18.0ポイント上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-1-4)。

図4-1-4 健康的な暮らし (前回比較)



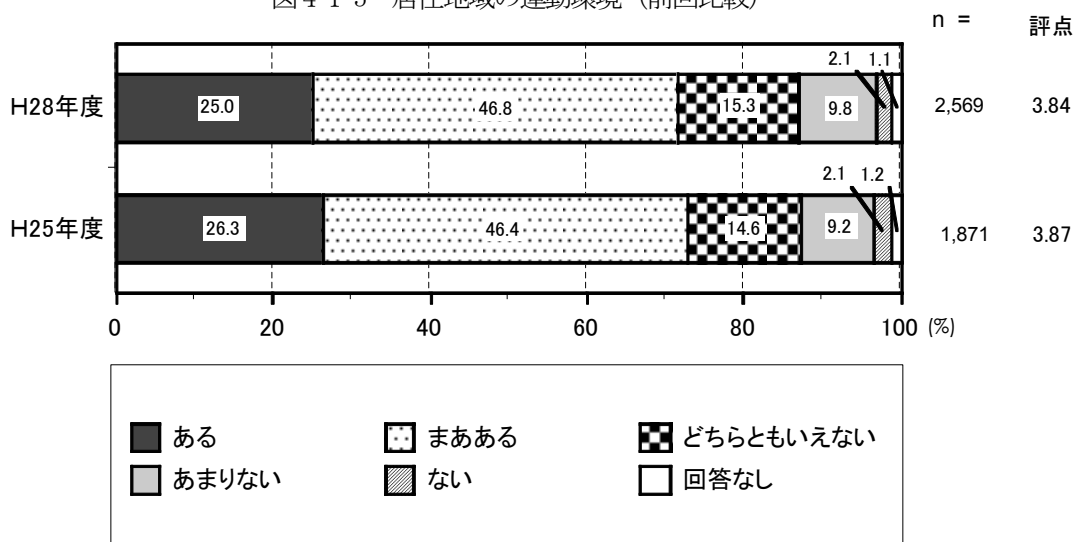
(2) 居住地域の運動環境 (問8 (2))

問8 (2) お住まいの地域では、気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境がありますか。【〇は1つ】

○「気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境があるか」について、「ある」と「まあある」を合わせた割合は71.8%となっており、「あまりない」と「ない」の合計(11.9%)を59.9ポイントも上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-1-5)。

図4-1-5 居住地域の運動環境 (前回比較)



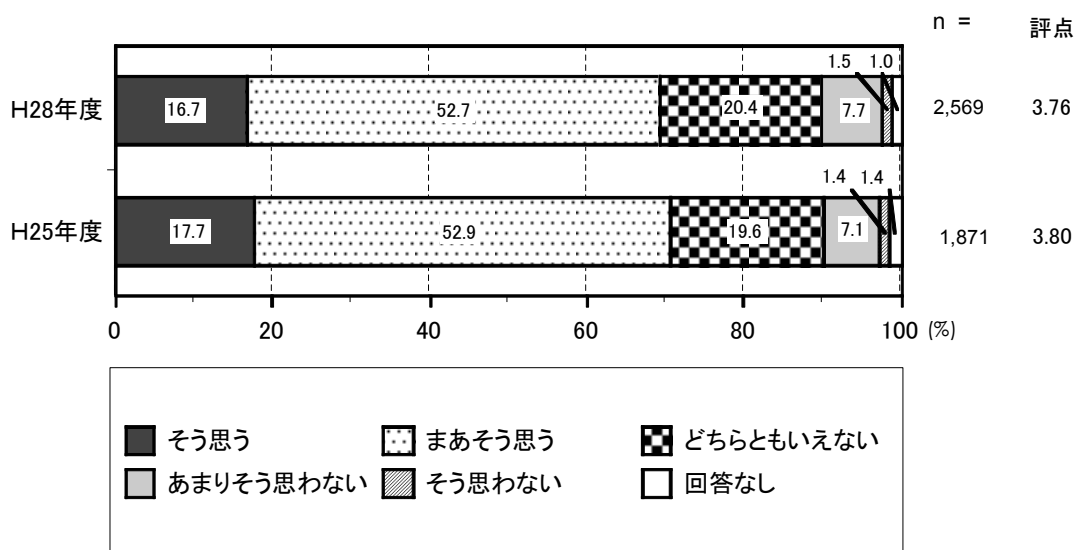
(3) 健康的な食生活 (問8 (3))

問8 (3) 健康的な食生活ができていると思いますか。【〇は1つ】

○「健康的な食生活ができていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は69.4%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(9.2%)を60.2ポイントも上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-1-6)。

図4-1-6 健康的な食生活 (前回比較)



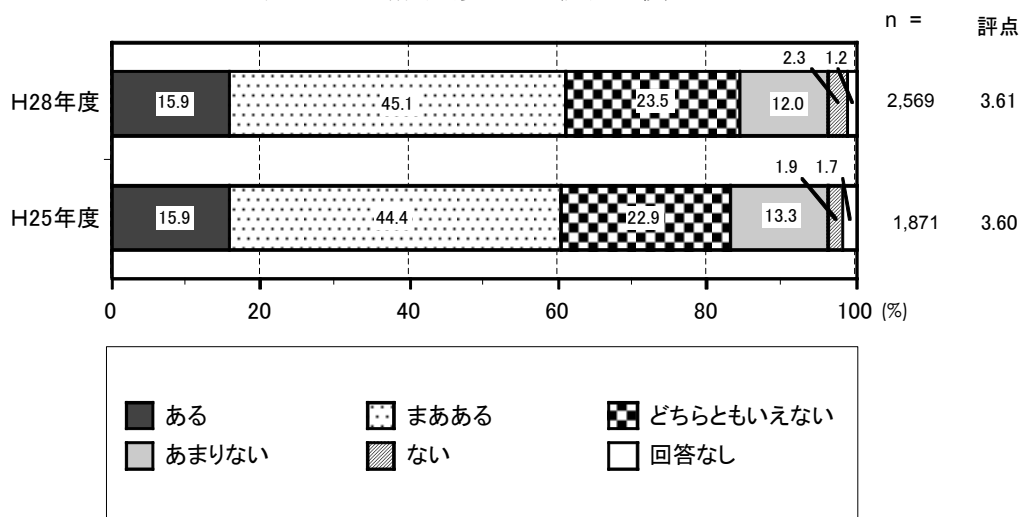
(4) 精神的安らぎ (問8 (4))

問8 (4) ストレスを発散する場や機会、精神的なやすらぎの場はありますか。【〇は1つ】

○「ストレスを発散する場や機会、精神的な安らぎの場があるか」について、「ある」と「まあある」を合わせた割合は61.0%となっており、「あまりない」と「ない」の合計(14.3%)を46.7ポイント上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-1-7)。

図4-1-7 精神的安らぎ (前回比較)



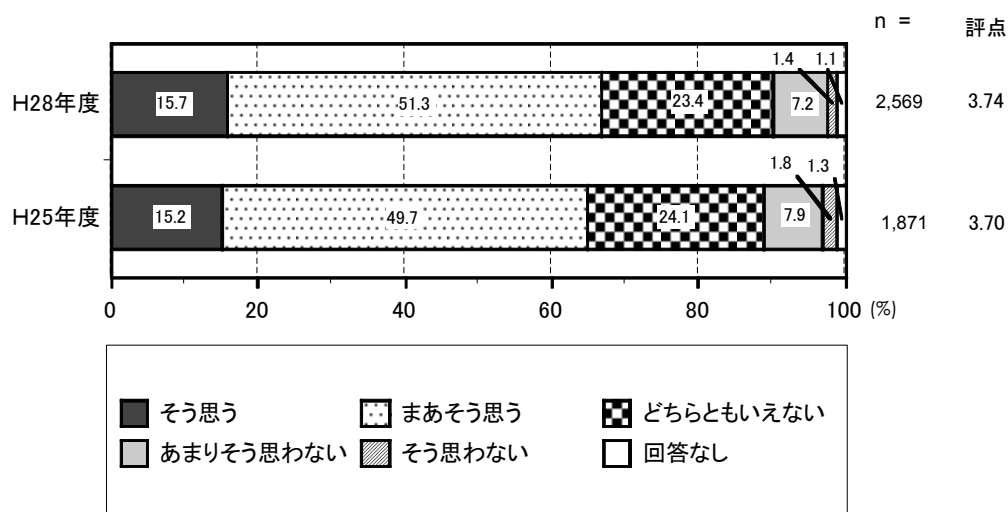
（５）心豊かな生活（問８（５））

問８（５） 日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思いますか。【○は１つ】

○「日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は67.0%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計（8.6%）を58.4ポイントも上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-1-8）。

図4-1-8 心豊かな生活（前回比較）



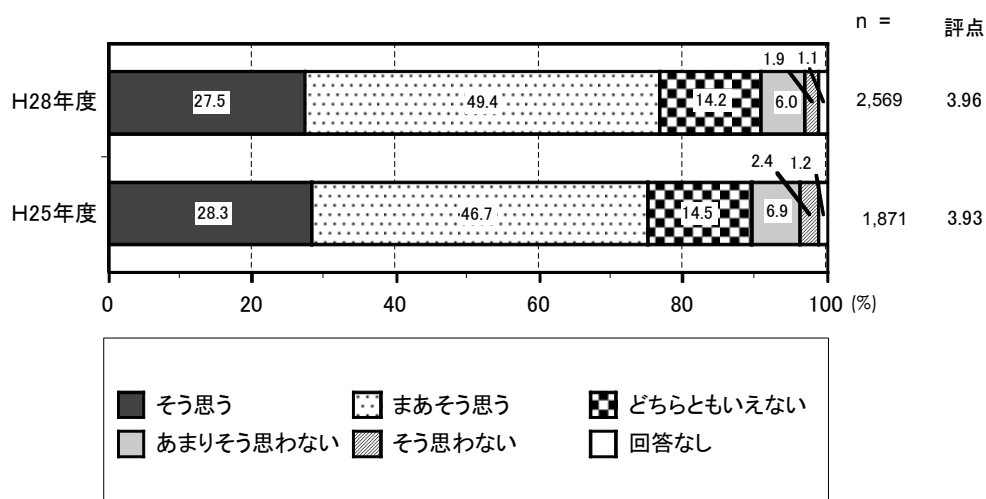
（６）病院等の充実度（問８（６））

問８（６） お住まいの地域では、病院やクリニックが充実していると思いますか。【○は１つ】

○「（お住まいの地域では）病院やクリニックが充実していると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は76.9%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計（7.9%）を69.0ポイントも上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-1-9）。

図4-1-9 病院等の充実度（前回比較）



要点

「家庭内での子どもとのコミュニケーション」については比較的十分取れているようですが、「居住地域の子どもとのコミュニケーション」についてはあまり十分ではないようです。

また、安心して子どもを産み育てられることができるまちや、地域の子どもたちがのびのび育っているまちとしての評点に比べて、子育て・教育などについて相談できる人・場所についての評点が低い状況が見受けられます。

全体

○子育て・教育に関する6項目のうち、「家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」の評点が4.03と最も高くなっています。その一方で、「お住まいの地域の子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」の評点は2.86と最も低くなっています。

○子どもとのコミュニケーションについて、家庭内での子どもとのコミュニケーションは比較的十分であるが、地域の子どもとのコミュニケーションについてはあまり十分でない状況であるといえます。

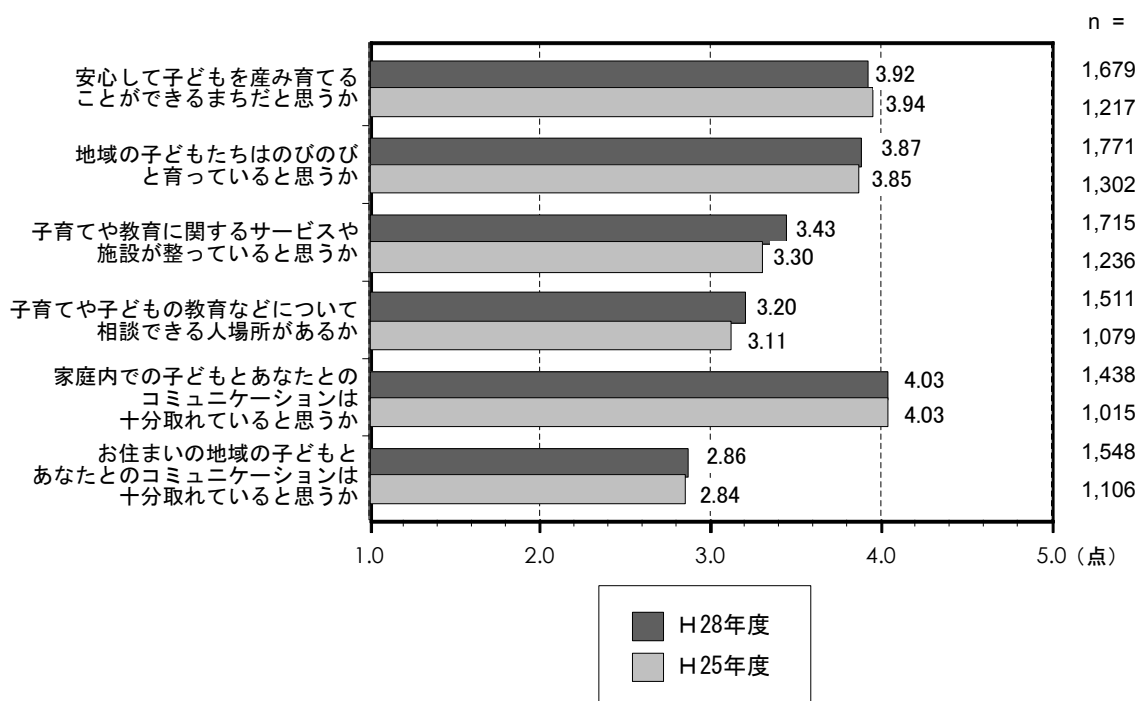
○「家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」（4.03）に次いで「安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思うか」（3.92）と「地域の子どもたちは、のびのびと育っていると思うか」（3.87）の評点が高くなっています。

○一方、「子育てや子どもの教育などについて相談できる場所があるか」（3.20）と「子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか」（3.43）の評点は上記の3項目に比べて低くなっています。

○このように、長久手は、安心して子どもを産み育てられるまちや地域の子どもたちがのびのび育っていることについての評点に比べて、子育て・教育に関するサービスや施設、相談できる人・場所の評点は十分な評点が得られていないといえます。

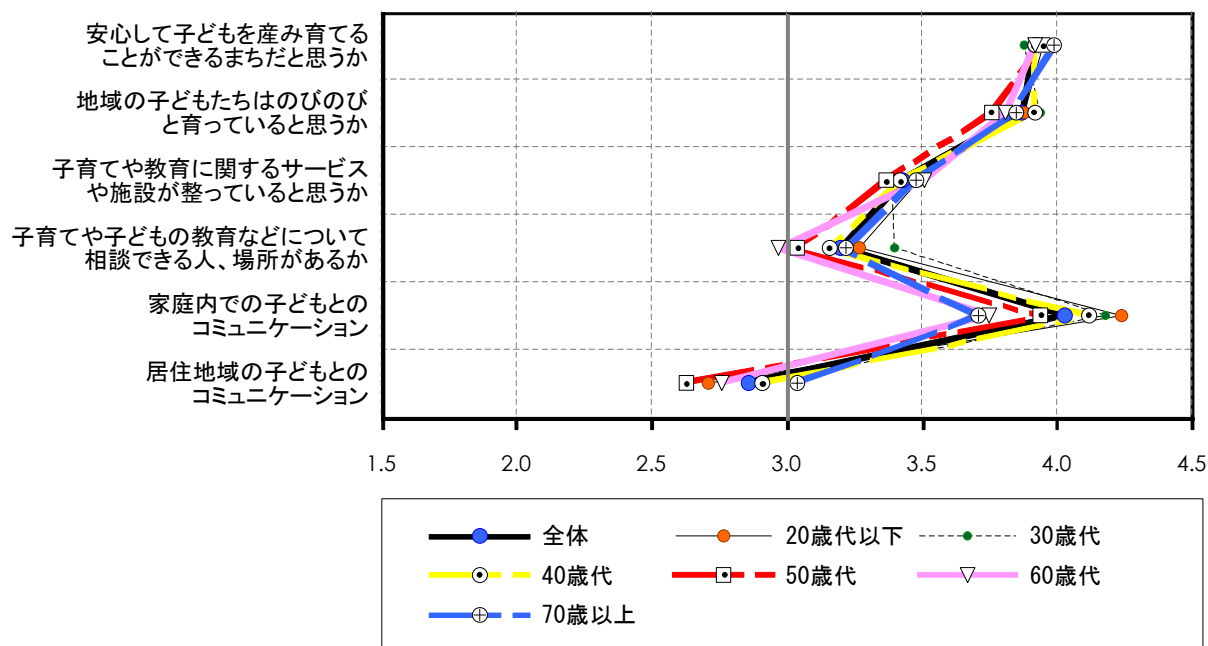
○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-2-1）。

図4-2-1 子育て・教育について（評点：前回比較）



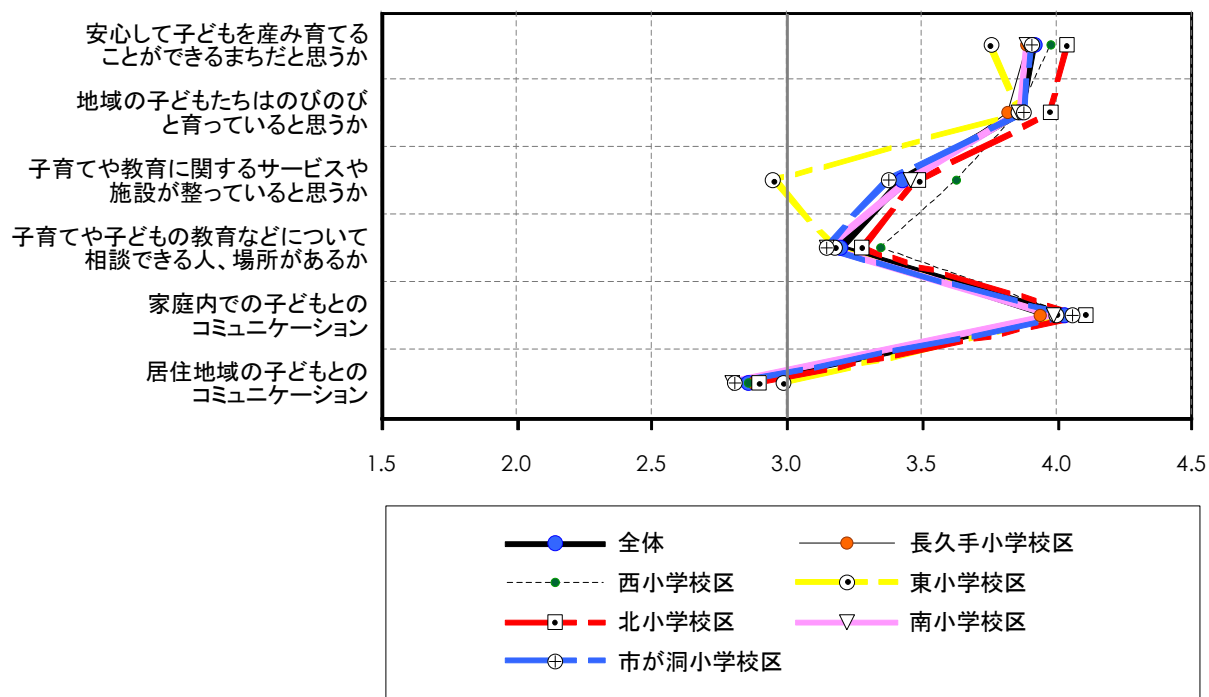
○年齢別にみると、「家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」については、20歳代以下（4.24）の評点が高くなっている一方で、70歳代以上（3.71）や60歳代（3.75）、50歳代（3.94）といった、子育て世代ではない中高年層における評点が全体よりも低くなっています（図4-2-2）。

図4-2-2 年齢 「子育て・教育について（評点）」



○小学校区別にみると、東小学校区では「子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか」(2.95)と「安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思うか」(3.76)が他の小学校区に比べて若干低くなっています(図4-2-3)。

図4-2-3 小学校区 「子育て・教育について(評点)」



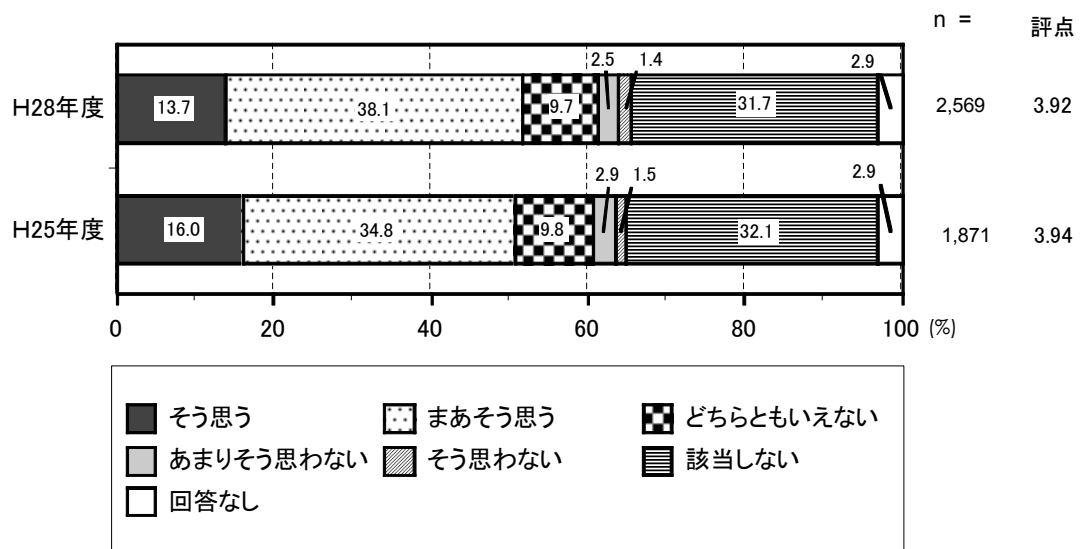
(1) 出産・育児 (問9 (1))

問9 (1) 長久手市は、安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思いますか。【〇は1つ】

○「安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思うか」について、「そう思う」(13.7%)と「まあそう思う」(38.1%)を合わせた割合は51.8%となっていますが、「該当しない」(31.7%)を除けば75.8%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(「該当しない」を除けば5.7%に相当)を70.1ポイントも上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-2-4)。

図4-2-4 出産・育児 (前回比較)



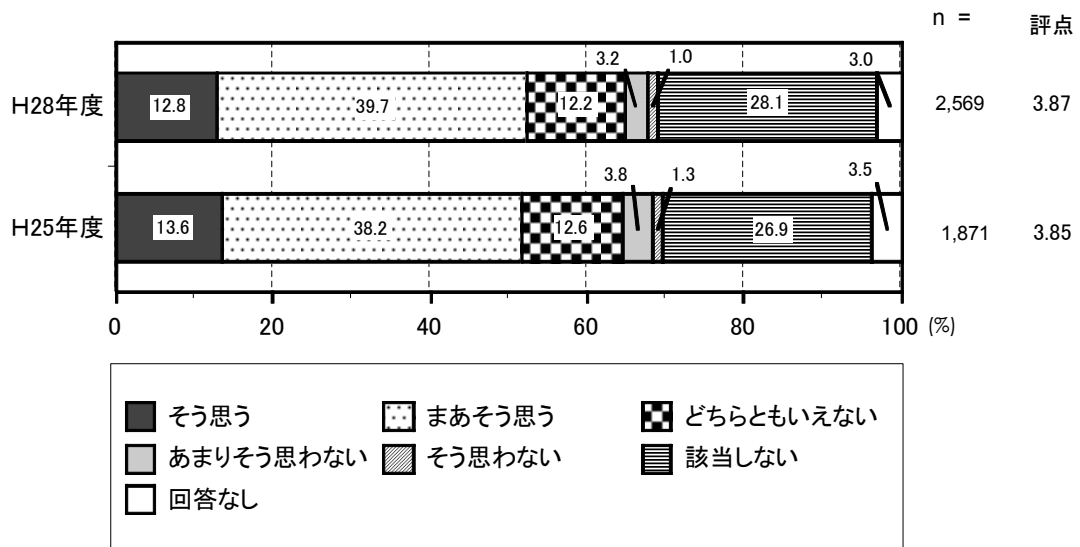
（２）地域における子どもの成長（問９（２））

問９（２） お住まいの地域の子どもたちは、のびのびと育っていると思いますか。【○は１つ】

○「地域の子どもたちは、のびのびと育っていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は52.5%となっていますが、「該当しない」（28.1%）を除けば73.0%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計（「該当しない」を除けば5.8%に相当）を67.2ポイントも上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-2-5）。

図4-2-5 地域における子どもの成長（前回比較）



(3) 地域における子育て環境（問9（3））

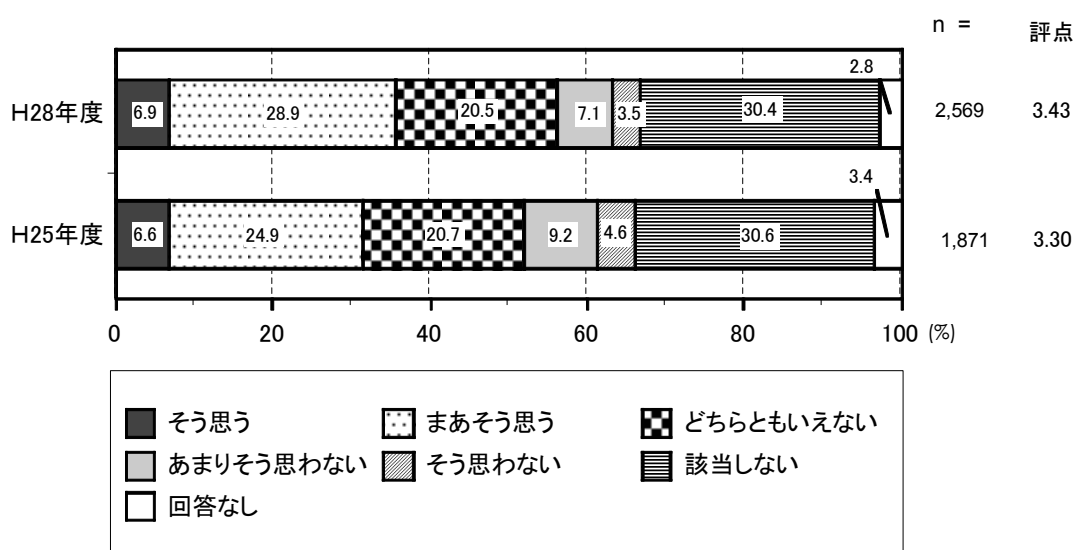
問9（3） お住まいの地域には、子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思いますか。

【〇は1つ】

○「子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は35.8%となっていますが、「該当しない」（30.4%）を除けば51.4%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計（「該当しない」を除けば15.2%に相当）を36.2ポイント上回っています。

○平成25年度調査結果と比べて、「まあそう思う」の割合が4.0ポイント高くなっており、わずかながら子育てや教育環境に関するサービスが整っていると感じる人が増えています（図4-2-6）。

図4-2-6 地域における子育て環境（前回比較）



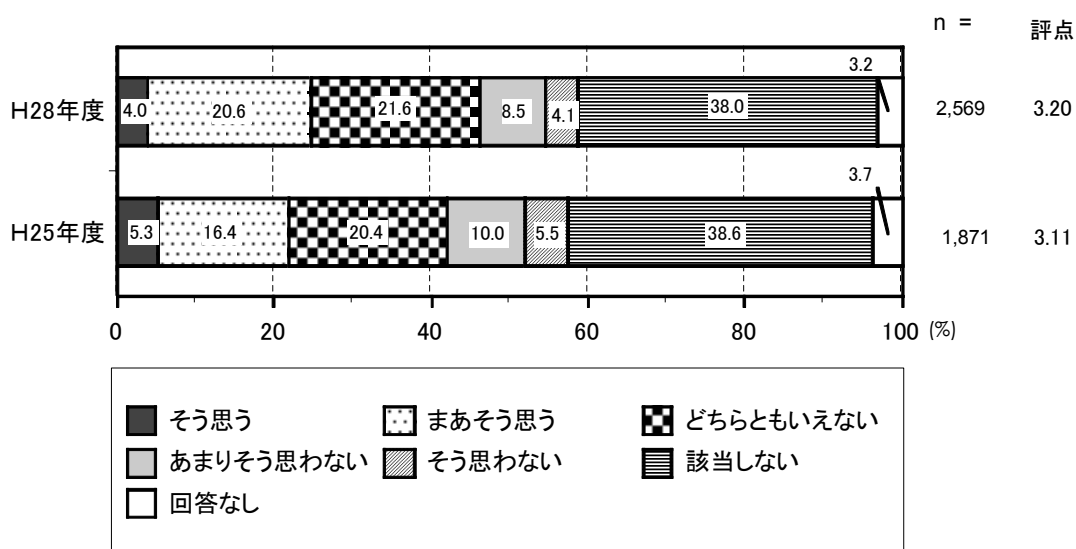
(4) 子育て・教育に関する相談（問9（4））

問9（4） お住まいの地域には、子育てや子どもの教育などについて相談できる人がいる、あるいは、相談できる場所がありますか。【〇は1つ】

○「子育てや子どもの教育などについて相談できる人、相談できる場所があると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は24.6%となっていますが、「該当しない」（38.0%）を除けば39.7%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計（「該当しない」を除けば20.3%に相当）を19.4ポイント上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-2-7）。

図4-2-7 子育て・教育に関する相談（前回比較）



(5) 家庭内における子どもとのコミュニケーション (問9 (5) -1)

問9 (5) 子どもとのコミュニケーションは十分取れていると思いますか。【〇は1つ】

①家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーション

(6) 地域における子どもとのコミュニケーション (問9 (5) -2)

問9 (6) 子どもとのコミュニケーションは十分取れていると思いますか。【〇は1つ】

②お住まいの地域の子どものコミュニケーション

○「家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は45.3%となっていますが、「該当しない」(41.1%)を除けば76.9%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(「該当しない」を除けば4.2%に相当)を72.7ポイントも上回っています(図4-2-8)。

○「お住まいの地域の子どものコミュニケーションが取れていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は17.8%となっていますが、「該当しない」(36.8%)を除けば28.2%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(「該当しない」を除けば32.1%に相当)を3.9ポイント下回っています(図4-2-9)。

○このように、家庭内での子どもとのコミュニケーションに比べて、地域の子どものコミュニケーションについては十分でない状況がうかがえます。

○なお、平成25年度調査結果と比べて双方ともほとんど変化はみられません。

図4-2-8 家庭内における子どもとのコミュニケーション (前回比較)

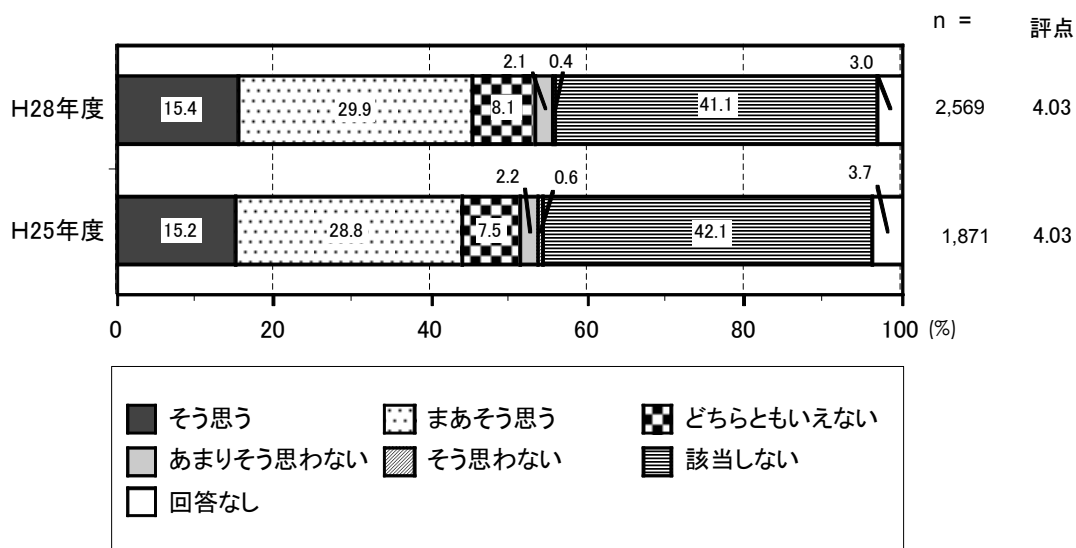
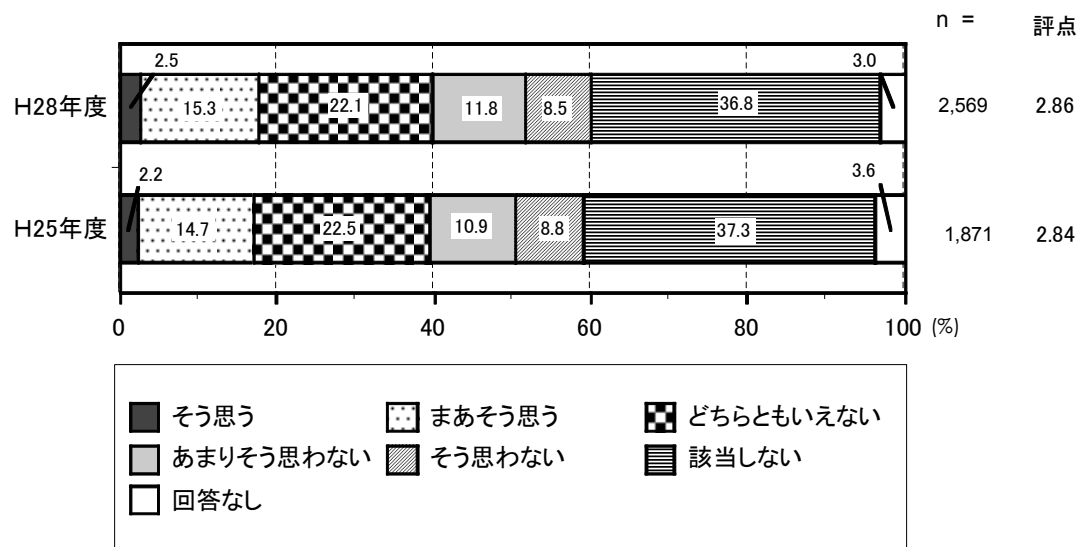


図 4-2-9 地域における子どもとのコミュニケーション（前回比較）



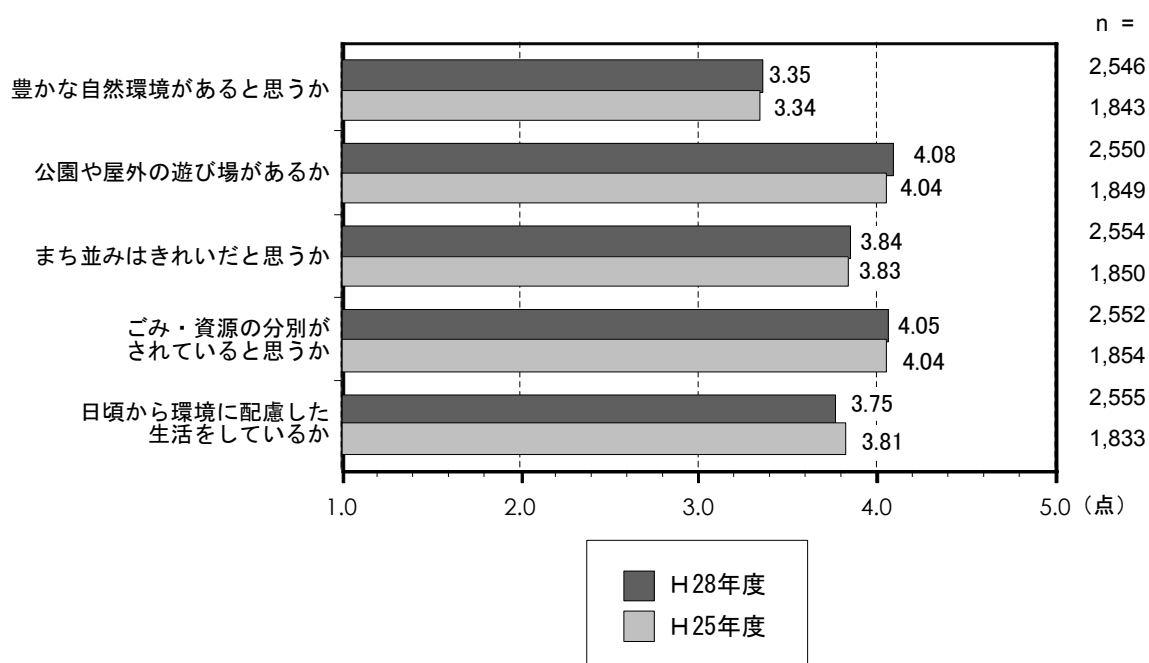
要点

公園や屋外の遊び場、ごみ・資源の分別の実践に対する実感は比較的高くなっています。その一方で、自然の生き物（動植物）に触れ合うことができるなど豊かな自然環境があるという実感は、他の項目に比べて低くなっています。

全体

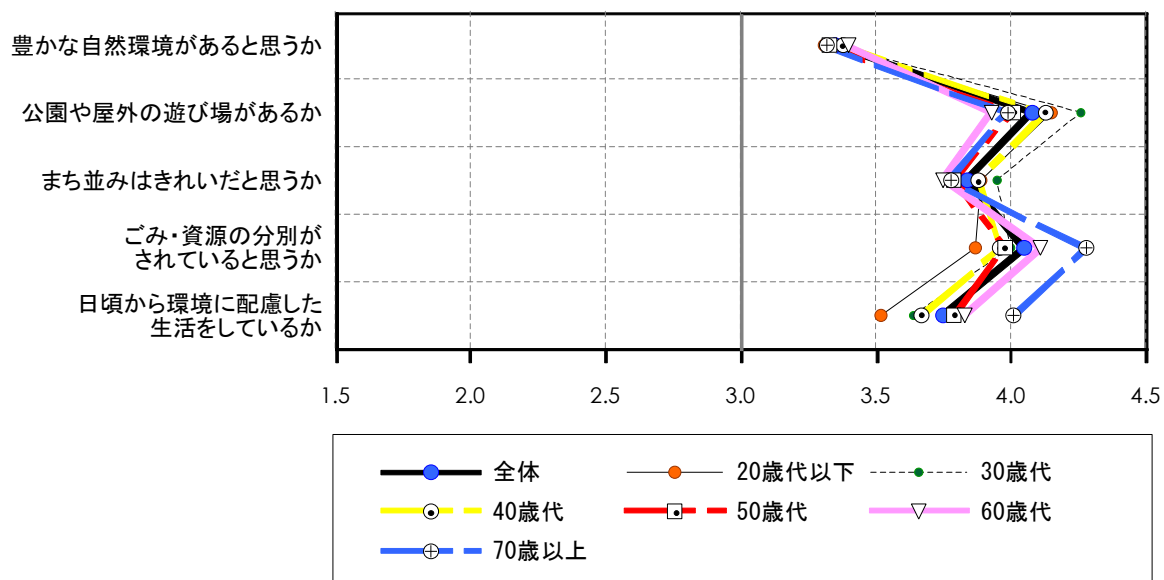
- 自然やごみなどの環境に関する5項目のうち、「公園や屋外の遊び場があると思うか」の評点が4.08と最も高く、次いで「ごみ・資源の分別がされていると思うか」が4.05と高くなっています。
- 一方、「（自然の生き物（動植物）に触れ合うことができるなど）豊かな自然環境があると思うか」の評点は3.35と、他の項目に比べて低くなっています。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-3-1）。

図4-3-1 自然やごみなどの環境について（評点：前回比較）



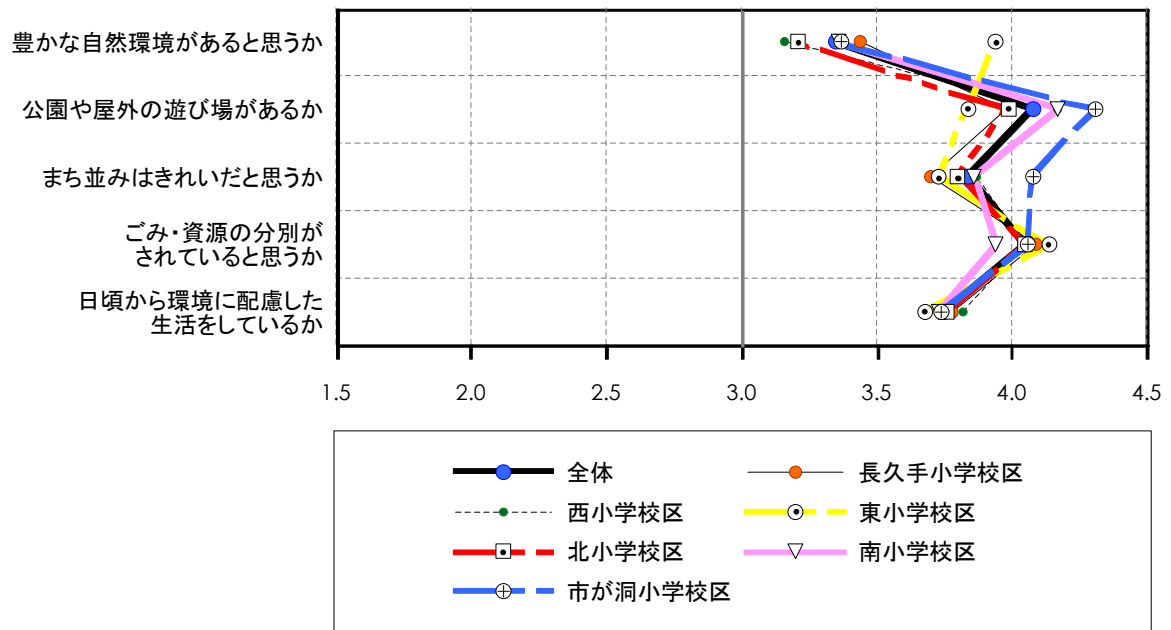
○年齢別にみると、「ごみ・資源の分別がされていると思うか」、「日頃から環境に配慮した生活をしているか」については、70歳以上で高く、20歳代以下で低くなっています。また、「公園や屋外の遊び場があるか」については、30歳代の評点が高くなっています（図4-3-2）。

図4-3-2 年齢 「自然やごみなどの環境について（評点）」



- 小学校区別にみると、「(自然の生き物(動植物)に触れ合うことができるなど) 豊かな自然環境があると思うか」の評点は、東小学校区 (3.94) が他の小学校区に比べて高くなっていることが特徴としてみられます。
- 「公園や屋外の遊び場があると思うか」の評点は、市が洞小学校区 (4.31) や南小学校区 (4.17) 及び西小学校区 (4.17) で高く、東小学校区 (3.84) で若干低くなっています。
- 「まち並みはきれいだと思うか」についても、市が洞小学校区において4.08 と高くなっています(図4-3-3)。

図4-3-3 小学校区 「自然やごみなどの環境について(評点)」



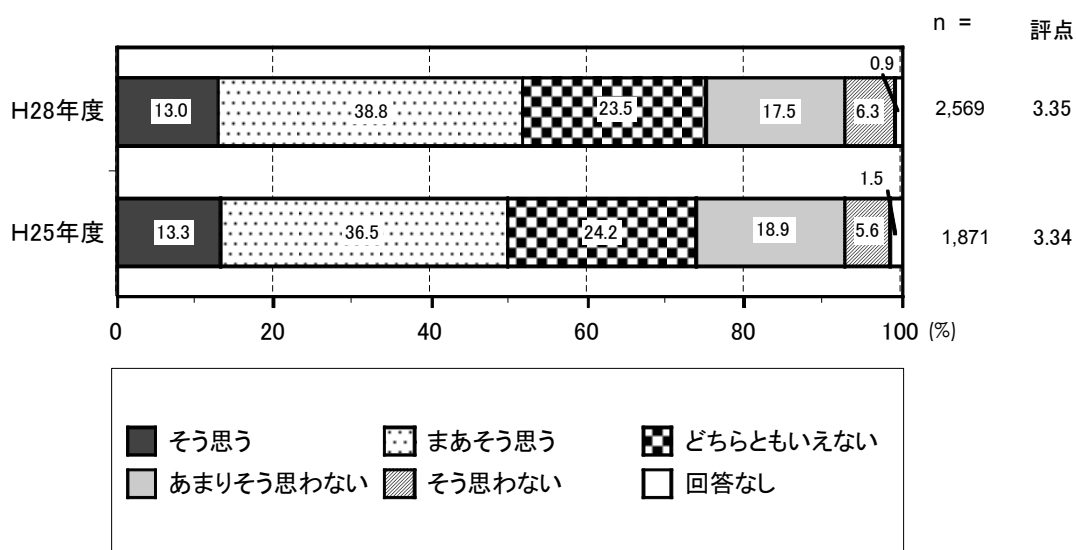
(1) 豊かな自然環境 (問 10 (1))

問 10 (1) お住まいの地域では、自然の生き物（動植物）に触れ合うことができるなど、豊かな自然環境があると思いますか。【○は1つ】

○「(自然の生き物（動植物）に触れ合うことができるなど) 豊かな自然環境があると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は51.8%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計 (23.8%) を28.0 ポイント上回っています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません (図 4-3-4)。

図 4-3-4 豊かな自然環境 (前回比較)



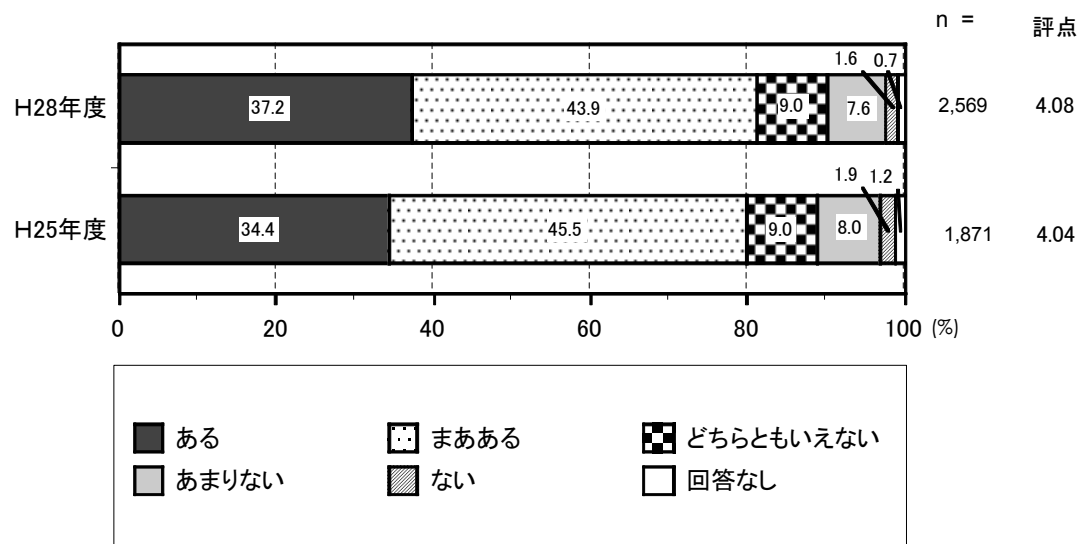
(2) 公園や遊び場 (問 10 (2))

問 10 (2) お住まいの地域には、公園や屋外の遊び場がありますか。【○は1つ】

○「公園や屋外の遊び場があると思うか」について、「ある」と「まあある」を合わせた割合は81.1%となっており、「ない」と「あまりない」の合計 (9.2%) を71.9 ポイントも上回っています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません (図 4-3-5)。

図 4-3-5 公園や遊び場 (前回比較)



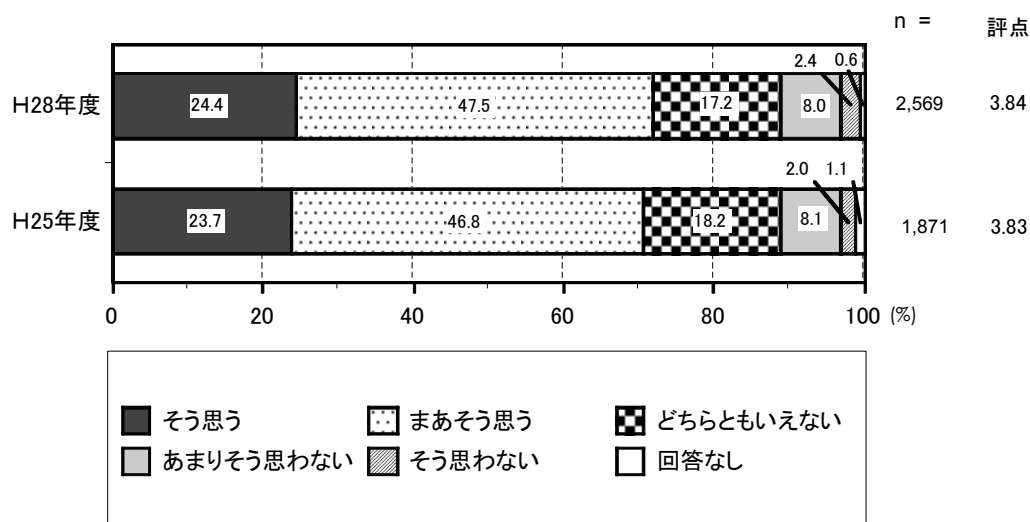
(3) 街並み（景観・風景）（問 10 (3)）

問 10 (3) お住まいの地域のまち並み（景観・風景）はきれいだと思いませんか。【〇は 1 つ】

○「まち並み（景観・風景）はきれいだと思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は 71.9% となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計（10.4%）を 61.5 ポイントも上回っています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-3-6）。

図 4-3-6 街並み（前回比較）



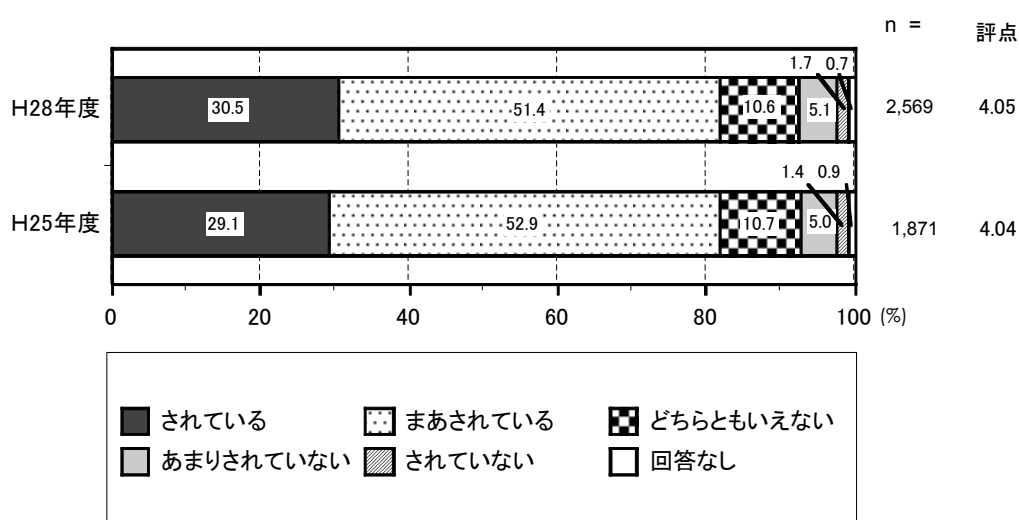
(4) ごみの分別（問 10 (4)）

問 10 (4) お住まいの地域では、ルールにしたがって、ごみ・資源の分別がされていると思いませんか。【〇は 1 つ】

○「ルールにしたがってごみ・資源の分別がされていると思うか」について、「されている」と「まあされている」を合わせた割合は 81.9% となっており、「あまりされていない」と「されていない」の合計（6.8%）を 75.1 ポイントも上回っています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-3-7）。

図 4-3-7 ごみの分別（前回比較）

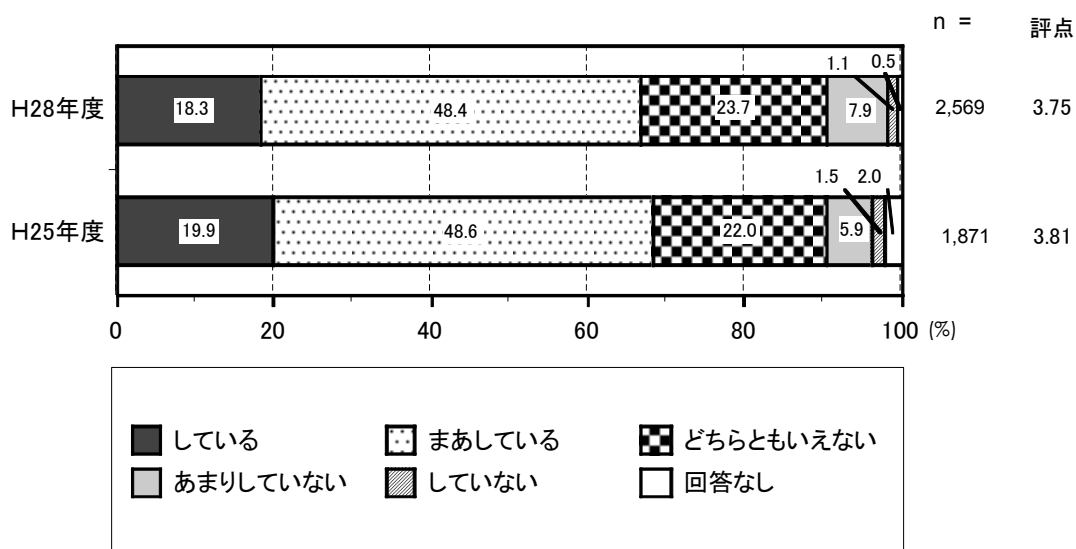


（５）環境に配慮した生活（問 10（５））

問 10（５） 節電や節水、環境に配慮した製品の購入など、日頃から環境に配慮した生活をしていますか。【○は１つ】

- 「節電や節水、環境に配慮した製品の購入など日頃から環境に配慮した生活をしていると思うか」について、「している」と「まあしている」を合わせた割合は66.7%となっており、「あまりしていない」と「していない」の合計（9.0%）を57.7ポイントも上回っています。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-3-8）。

図 4-3-8 環境に配慮した生活（前回比較）



4-4 人や地域のつながりについて（問 11）

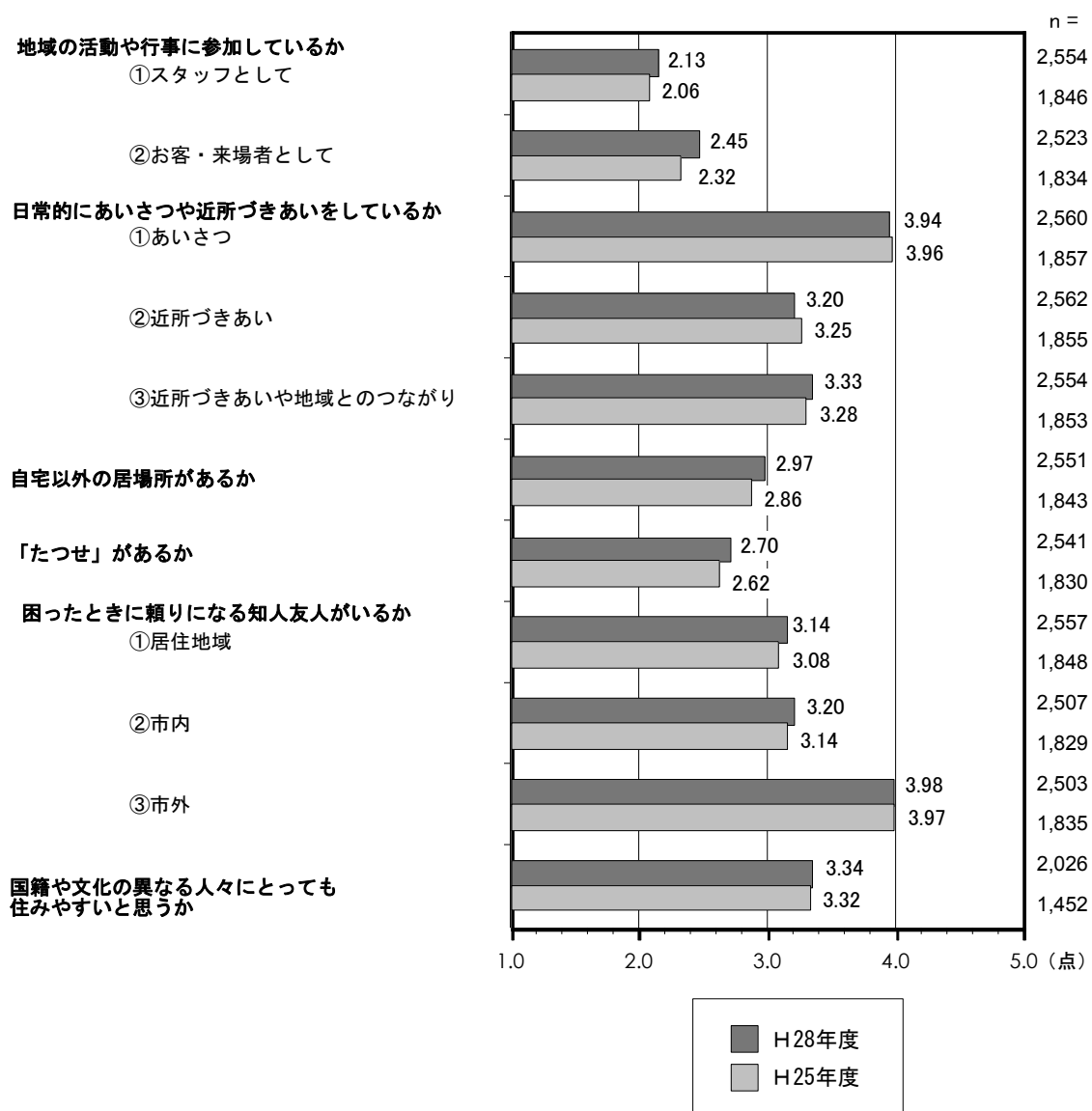
要点

日常的に「あいさつ」をしている人の評点は高いものの、地域を盛り上げていくための「地域の活動や行事に参加しているか」や、「たつせ」があるか」の評点は低く、「人や地域のつながりについて」の分野は、他の分野に比較して全般的に評点が低くなっています。特に、地域活動や行事への参加、近所づきあいについては、20 歳代以下や 30 歳代などの若年層の評点が低くなっています。また、「困ったときに頼りになる友人や知人がいるか」では、「市外」の評点が高くなっています。

全体

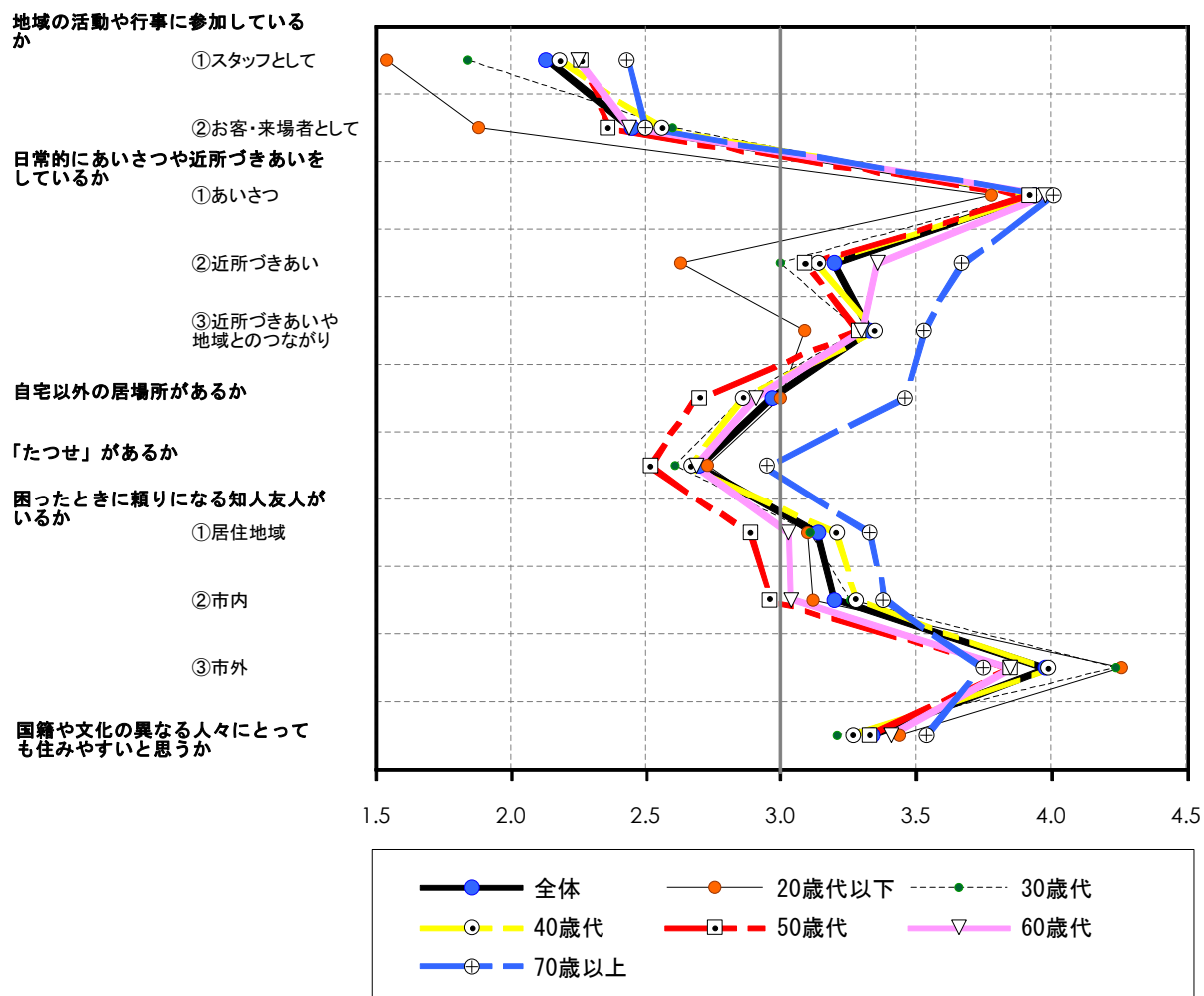
- 他の分野に比べると全般的に評点が低く、特に、「地域の活動や行事に参加しているか」における「スタッフとして」（2.13）や「お客・来場者として」（2.45）、「たつせ」があるか」（2.70）、「自宅以外の居場所がある」（2.97）などの評点が低くなっています。
- 「困ったときに頼りになる友人や知人がいるか」については、「お住まいの地域」や「市内」に比べて「市外」の評点の方が高くなっています。
- 平成 25 年調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-4-1）。

図 4-4-1 人や地域のつながりについて（評点：前回比較）



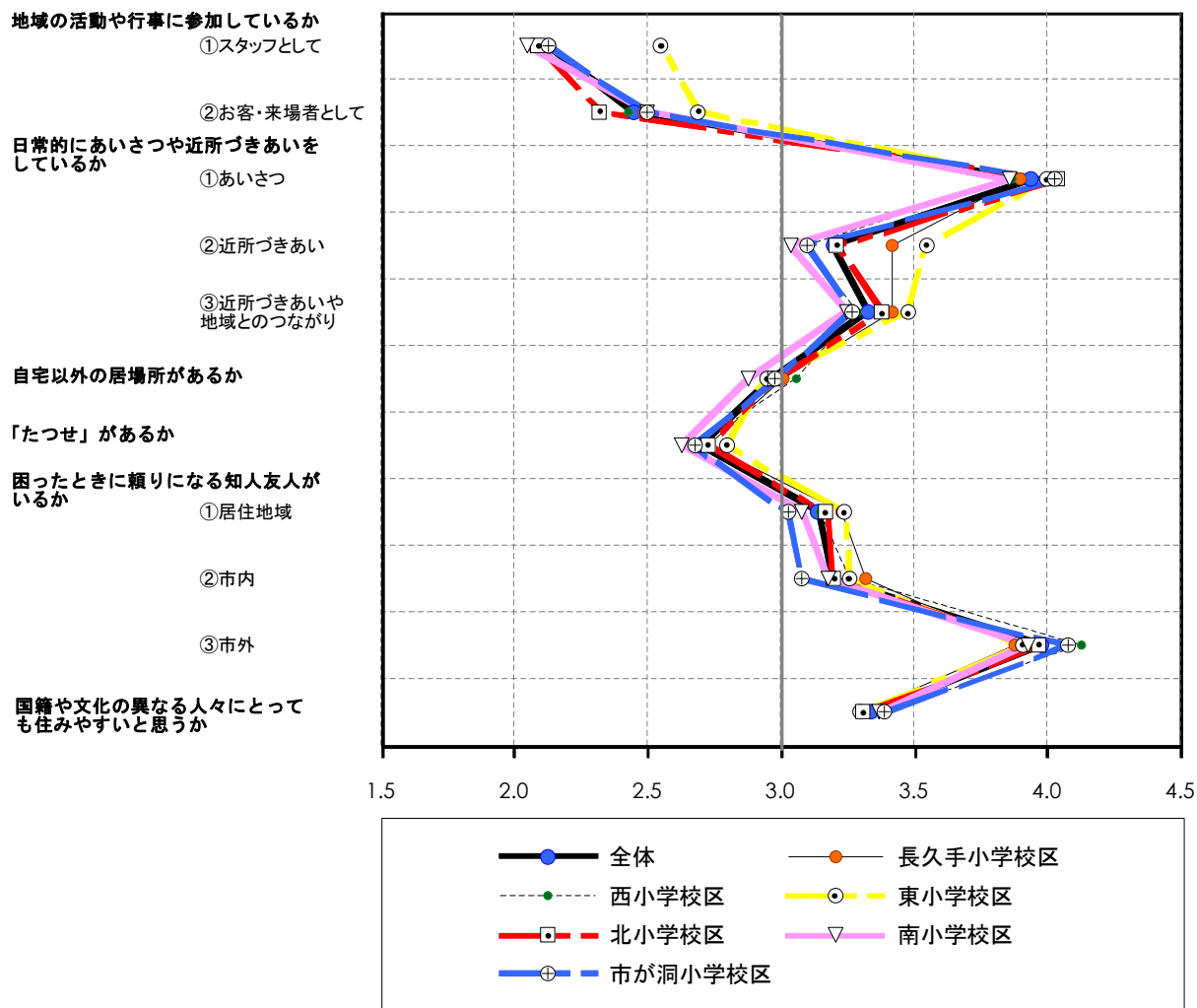
- 「地域の活動や行事に参加しているか」や「近所づきあい」については、20歳代以下や30歳代など若年層よりも60歳代や70歳以上の高齢者層の評点の方が高くなっています。
- 「自宅以外の居場所があるか」、「たつせ」があるか、「困ったときに頼りになる知人友人がいるか」（そのうち「居住地域」と「市内」）については、50歳代の評点が低くなっています（図4-4-2）。

図4-4-2 年齢 「人や地域のつながりについて（評点）」



○東小学校区では、「地域の活動や行事に参加しているか」のうち「スタッフとして」の評点が2.55となっており、他の校区と比較すると高くなっています。また、「日常的にあいさつや近所づきあいをしているか」のうち「近所づきあい」及び「近所づきあいや地域とのつながり」の評点も、他の校区と比較すると高くなっています（図4-4-3）。

図4-4-3 小学校区 「人や地域のつながりについて（評点）」



(1) 地域を盛り上げていく活動や行事への参加－1 (問11 (1) -1)

問11 (1) -1 過去3年以内に、お住まいの地域を良くしたり、地域を盛り上げたりしていくための活動や行事に参加していますか。【〇は1つ】

①スタッフとして

(2) 地域を盛り上げていく活動や行事への参加－2 (問11 (1) -2)

問11 (1) -2 過去3年以内に、お住まいの地域を良くしたり、地域を盛り上げたりしていくための活動や行事に参加していますか。【〇は1つ】

②お客・来場者として

○「地域の活動や行事に参加しているか」について、スタッフとして「参加している」と「まあ参加している」を合わせた割合は22.0%、「参加していない」と「あまり参加していない」の合計は68.1%であり、参加している人の割合は少なくなっています(図4-4-4)。

○お客・来場者として「参加している」と「まあ参加している」を合わせた割合は28.0%となっています(図4-4-5)。

○平成25年度調査結果と比べると、お客・来場者として「参加している」の割合がわずかながら増えていきます。

図4-4-4 地域を盛り上げていく活動や行事への参加－スタッフとして (前回比較)

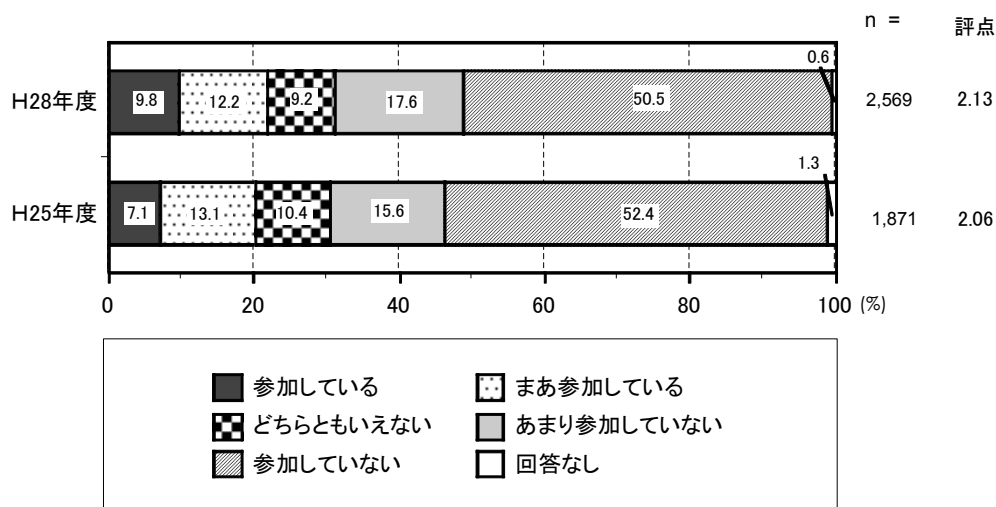
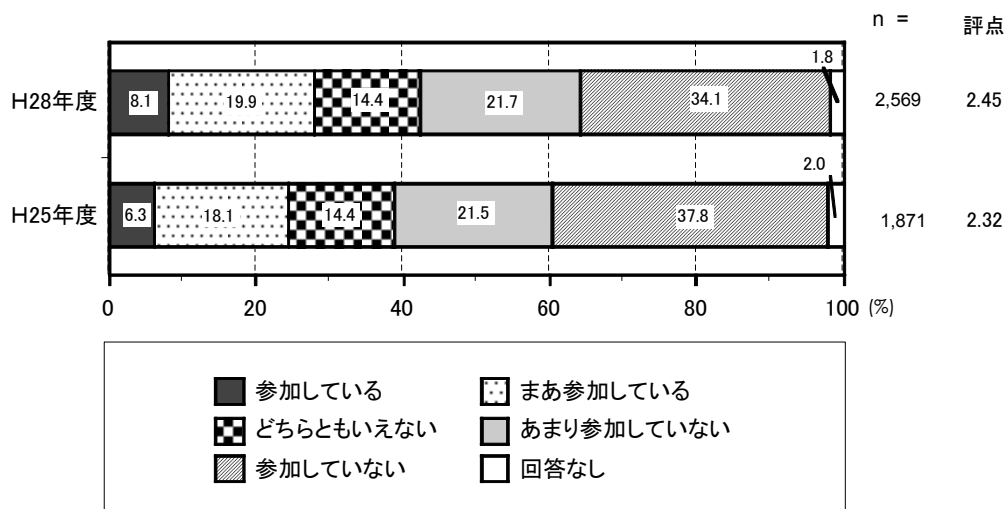


図4-4-5 地域を盛り上げていく活動や行事への参加－お客・来場者として (前回比較)



(3) あいさつや近所づきあい—1 (問11 (2) -1)

問11 (2) -1 日常的にあいさつや近所づきあいをしていますか。また、近所づきあいや地域とのつながりに満足していますか。【○は1つ】

① あいさつ

(4) あいさつや近所づきあい—2 (問11 (2) -2)

問11 (2) -2 日常的にあいさつや近所づきあいをしていますか。また、近所づきあいや地域とのつながりに満足していますか。【○は1つ】

② 近所づきあい

(5) あいさつや近所づきあい—3 (問11 (2) -3)

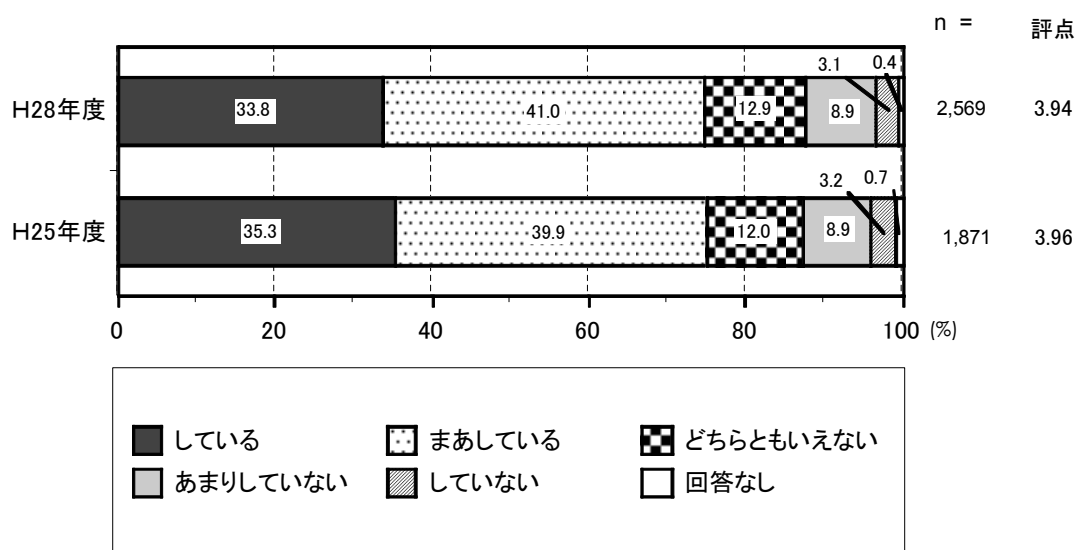
問11 (2) -3 日常的にあいさつや近所づきあいをしていますか。また、近所づきあいや地域とのつながりに満足していますか。【○は1つ】

③ 近所づきあいや地域とのつながり

○日常的な「あいさつ」について、「している」と「まあしている」を合わせると74.8%と多くなっています。

○平成25年度調査結果と比べるとほとんど変化はみられません (図4-4-6)。

図4-4-6 あいさつや近所づきあい—あいさつ (前回比較)



○一方で「近所づきあい」について、「している」と「まあしている」を合わせた割合が47.8%と、ほぼ半数にとどまっています（図4-4-7）。

○また、「近所づきあいや地域とのつながり」の満足度について、「している」は8.0%と少なく、「まあしている」（34.0%）を合わせても42.0%にとどまっています（図4-4-8）。

○どちらも平成25年度調査結果と比べるとほとんど変化はみられません。

図4-4-7 あいさつや近所づきあいー近所づきあい（前回比較）

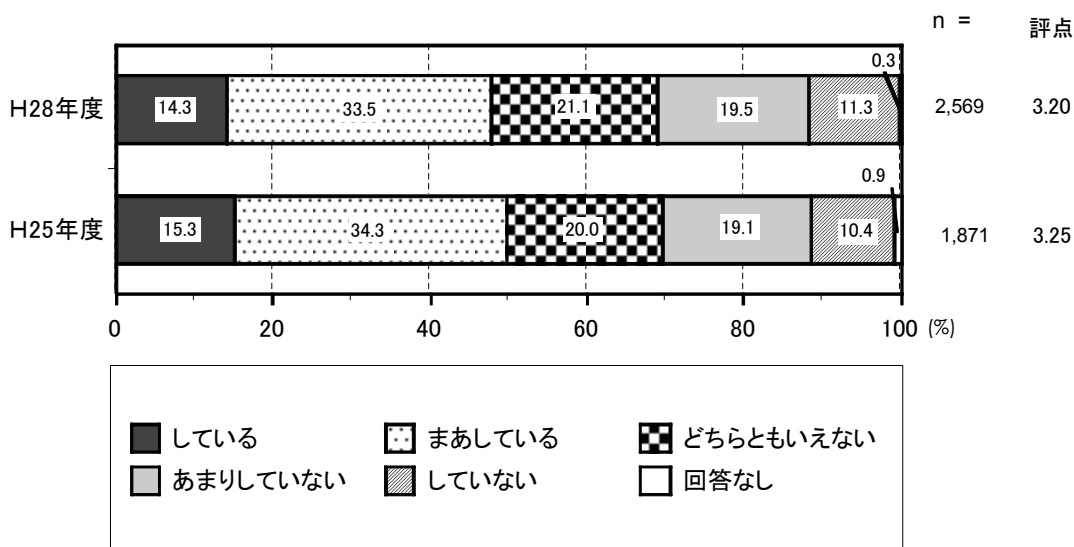
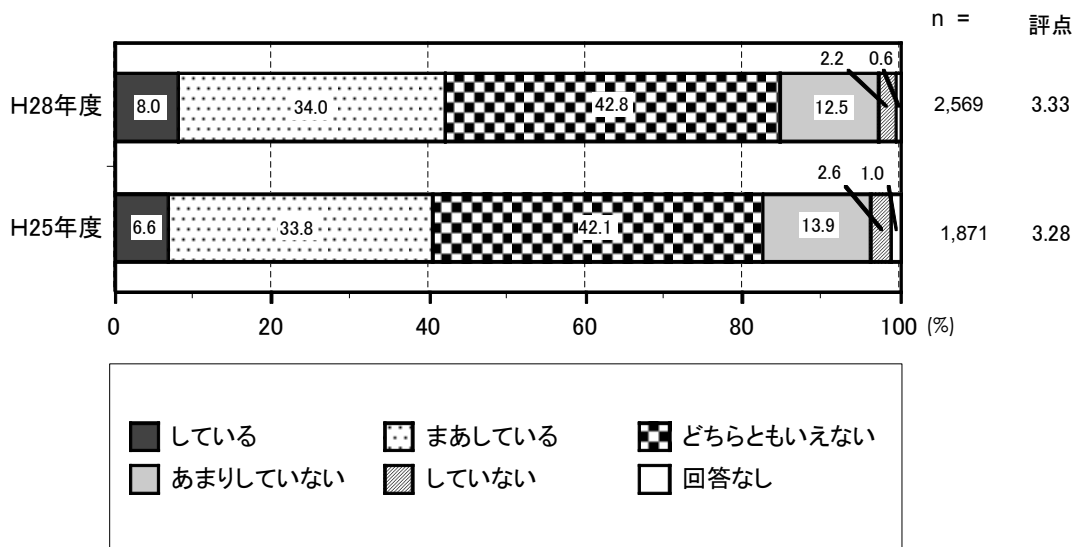


図4-4-8 あいさつや近所づきあいー近所づきあいや地域とのつながり（前回比較）



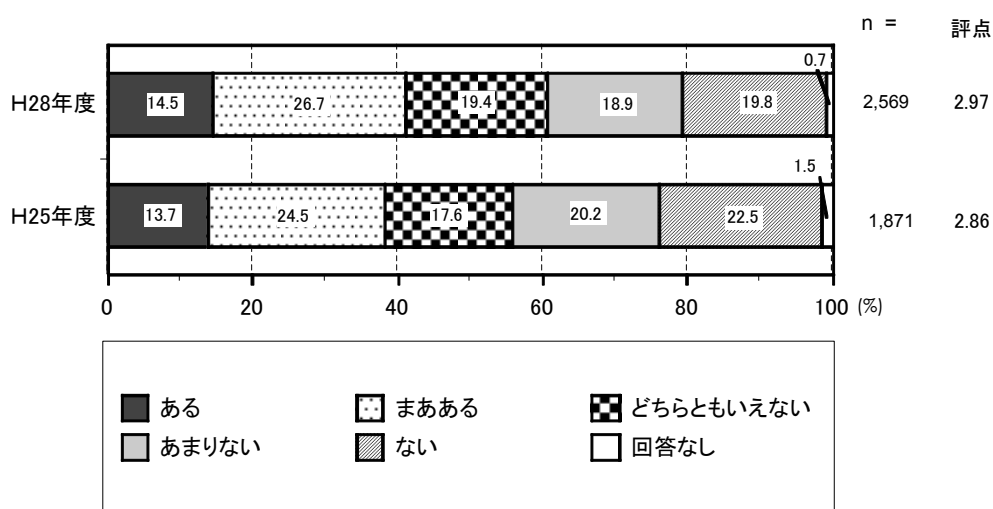
（６）自宅以外の居場所（問 11（３））

問 11（３） お住まいの地域には、自宅以外の居場所がありますか（集える場所、行きつけのお店など）。【○は１つ】

○自宅以外の居場所について、「まあある」26.7%と最も多く、「ある」(14.5%) と合わせると 41.2%の人が自宅以外の地域の居場所があると回答しています。一方で、「あまりない」(18.9%) と「ない」(19.8%) と合わせると 38.7%となっており、自宅以外の居場所があると答えた人とはほぼ同じ割合となっています。

○平成 25 年度調査結果と比べると、わずかながら、自宅以外の居場所がない人が減り、自宅以外の居場所があると答えた人が増えています（図 4-4-9）。

図 4-4-9 自宅以外の居場所（前回比較）



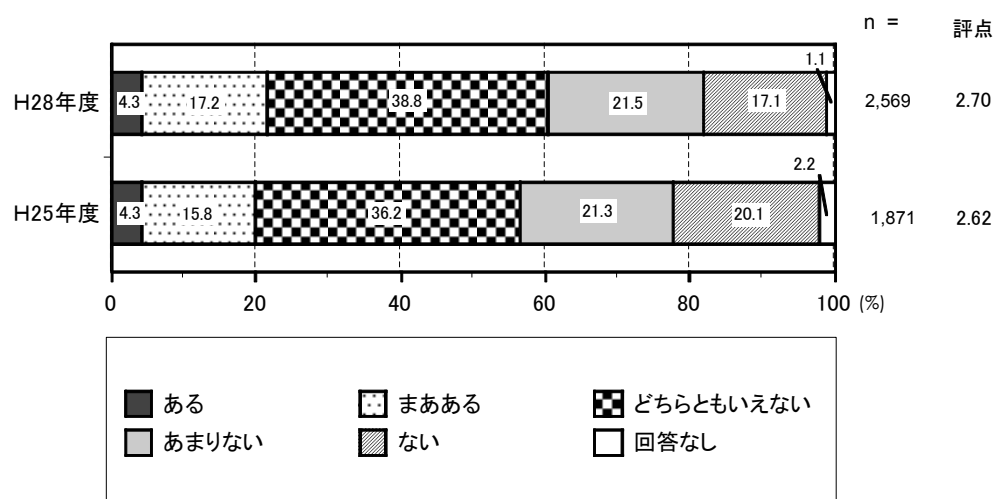
（７）「たつせ」があるか（問 11（４））

問 11（４） お住まいの地域であなたは「たつせ」がありますか。【○は１つ】

○「どちらともいえない」が 38.8%と最も多く、「あまりない」(21.5%) や「ない」(17.1%) と回答した人が多くなっています。

○「ある」は 4.3%と少なく、「まあある」(17.2%) と合わせても 2 割弱にとどまっています（図 4-4-10）。

図 4-4-10 「たつせ」があるか（前回比較）



(8) 困ったときに頼りになる相談相手—1 (問11 (5) -1)

問11 (5) -1 困ったときに頼りになる（悩みを相談したり助けてと言ったりできる）知人・友人はいますか。お住まいの地域、市内、市外それぞれについてお答えください。【○はそれぞれ1つ】

① 住まいの地域

(9) 困ったときに頼りになる相談相手—2 (問11 (5) -2)

問11 (5) -2 困ったときに頼りになる（悩みを相談したり助けてと言ったりできる）知人・友人はいますか。お住まいの地域、市内、市外それぞれについてお答えください。【○はそれぞれ1つ】

② 市内

(10) 困ったときに頼りになる相談相手—3 (問11 (5) -3)

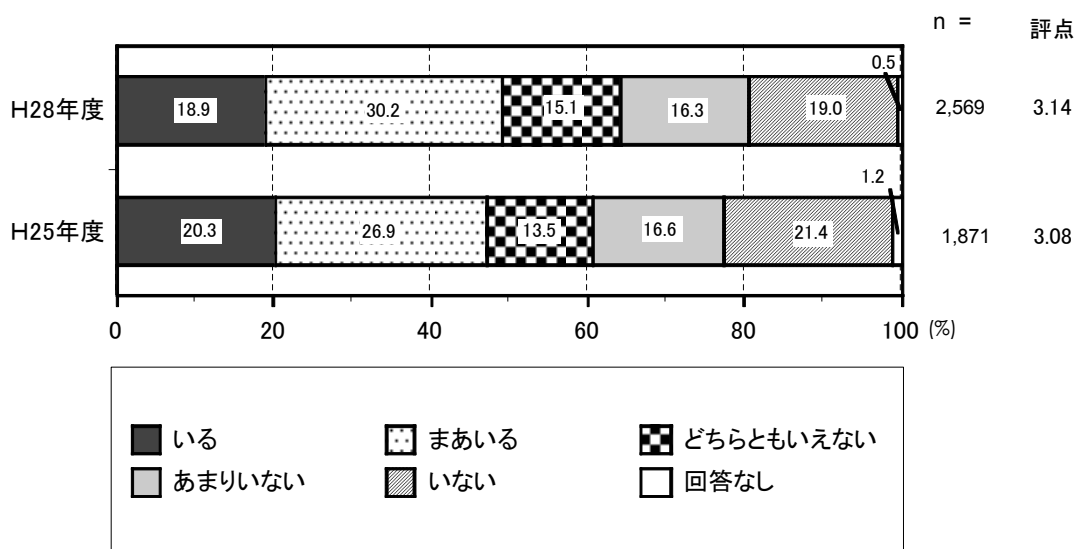
問11 (5) -3 困ったときに頼りになる（悩みを相談したり助けてと言ったりできる）知人・友人はいますか。お住まいの地域、市内、市外それぞれについてお答えください。【○はそれぞれ1つ】

③ 市外

○「困ったときに頼りになる友人や知人がいるか」のうち「お住まいの地域」については、「いる」(18.9%)と「まあいる」(30.2%)の合計が49.1%となっています。

○平成25年度調査と比べるとほとんど変化はみられません(図4-4-11)。

図4-4-11 困ったときに頼りになる相談相手—住まいの地域 (前回比較)



○困ったときに頼りになる友人や知人が「いる」と「まあいる」の合計は、「市内」では49.6%、「市外」では74.0%となっており、「市外」の割合が多くなっています（図4-4-12、図4-4-13）。

○どちらも平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません。

図4-4-12 困ったときに頼りになる相談相手—市内（前回比較）

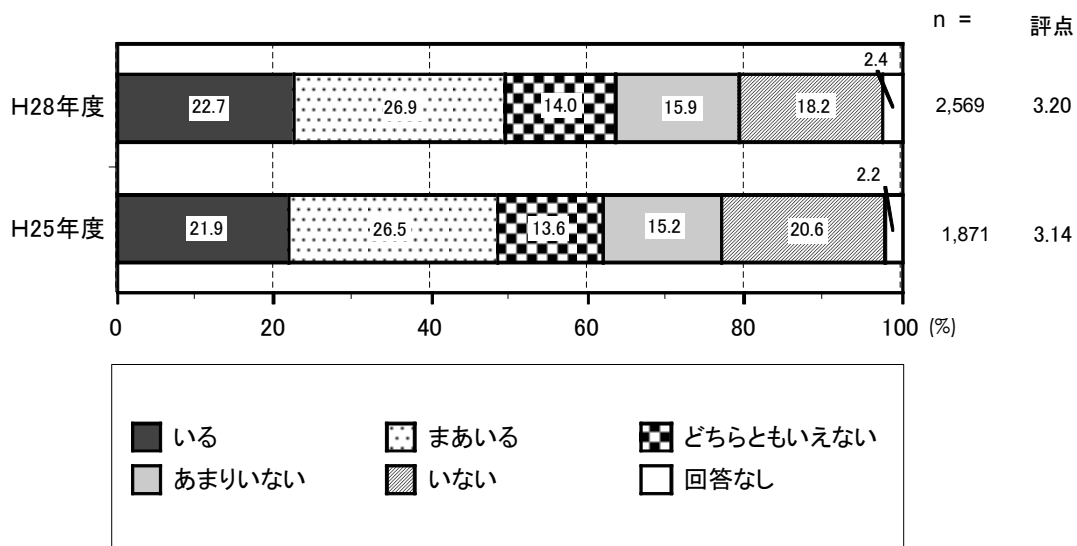
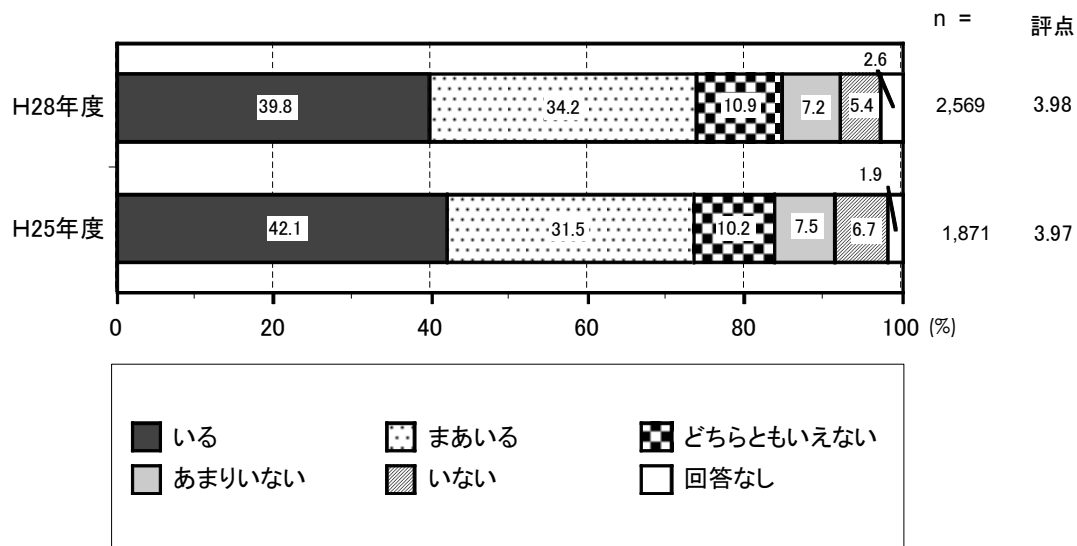


図4-4-13 困ったときに頼りになる相談相手—市外（前回比較）

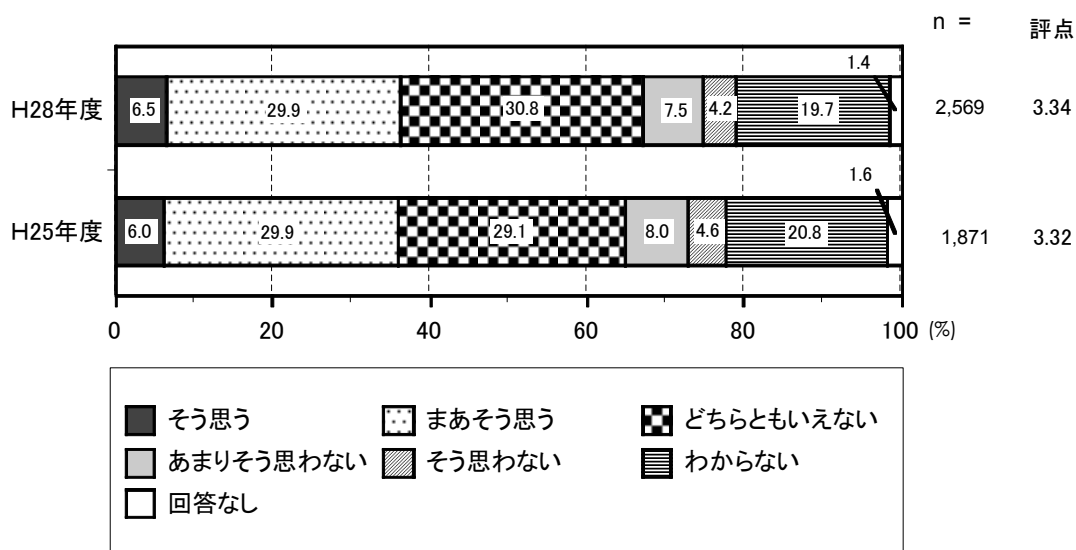


(11) 国籍・文化の異なる人にとっての住みやすさ (問 11 (6))

問 11 (6) 長久手市は、国籍や文化の異なる人々にとっても住みやすいと思いますか。【〇は1つ】

- 「国籍・文化の異なる人にとっての住みやすさ」について、「まあそう思う」が 29.9%と多く、「そう思う」(6.5%) と合わせて 36.4%の人が住みやすいと考えています。
- 一方で、「どちらともいえない」(30.8%) や「わからない」(19.7%) も多く、こうした問題に関する市民の関心や認知度が低いことが考えられます。
- 平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません (図 4-4-14)。

図 4-4-14 国籍・文化の異なる人にとっての住みやすさ (前回比較)



要点

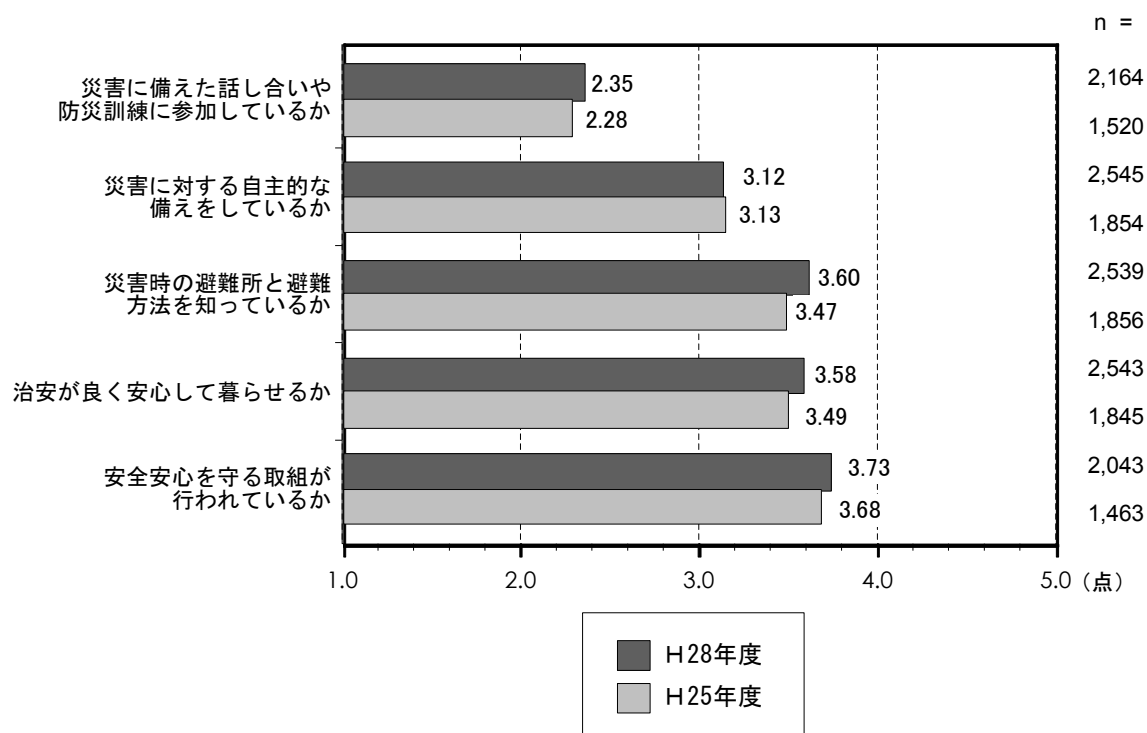
防災・防犯について「安全安心を守る取組が行われているか」の評点が最も高く、そのほかの項目も高い一方で、「災害に備えた話し合いや防災訓練に参加しているか」の評点が、他の項目に比べて低くなっています。

また、「災害時に対する自主的な備えをしているか」や「災害時の避難場所と避難方法を知っているか」では、20 歳代以下の評点が低くなっています。

全体

- 「安全安心な取組が行われているか」の評点が 3.73 と最も高く、次いで「災害時の避難所と避難方法を知っているか」(3.60) や「治安がよく、安心して暮らせるか」(3.58) の順で高くなっています。
- 一方で、「災害に備えた話し合いや防災訓練に参加しているか」の評点が 2.35 と最も低くなっています。
- 平成 25 年度調査結果と比べると、「災害時の避難所と避難方法を知っているか」が 0.13 ポイント上昇している以外は、ほとんど変化はみられません（図 4-5-1）。

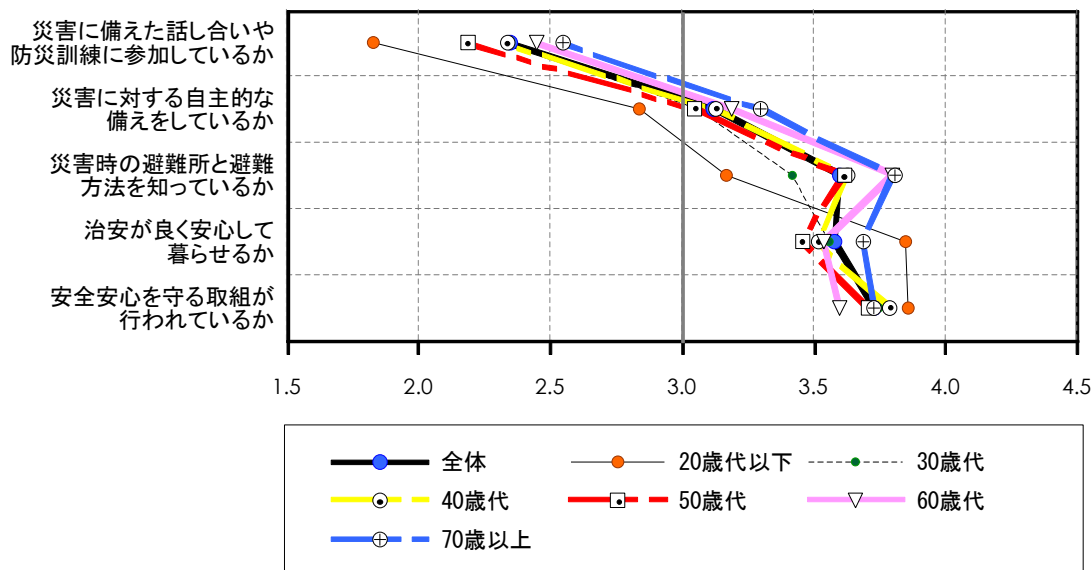
図 4-5-1 防災・防犯について（評点：前回比較）



年齢別

- 防災対策の項目については、年齢が若くなるにつれて評点は低くなっており、特に20歳代以下の評点が低くなっています。具体的には、20歳代以下の評点は、「災害に備えた話し合いや防災訓練に参加しているか」では1.83と極めて低く、そのほか「災害に対する自主的な備えをしているか」では2.84、「災害時の避難所と避難方法を知っているか」では3.17となっています。
- 一方で、「治安が良く安心して暮らせるか」や「安全安心を守る取組が行われているか」については、年齢差はほとんどみられませんが、20歳代以下の評点がやや高くなっています（図4-5-2）。

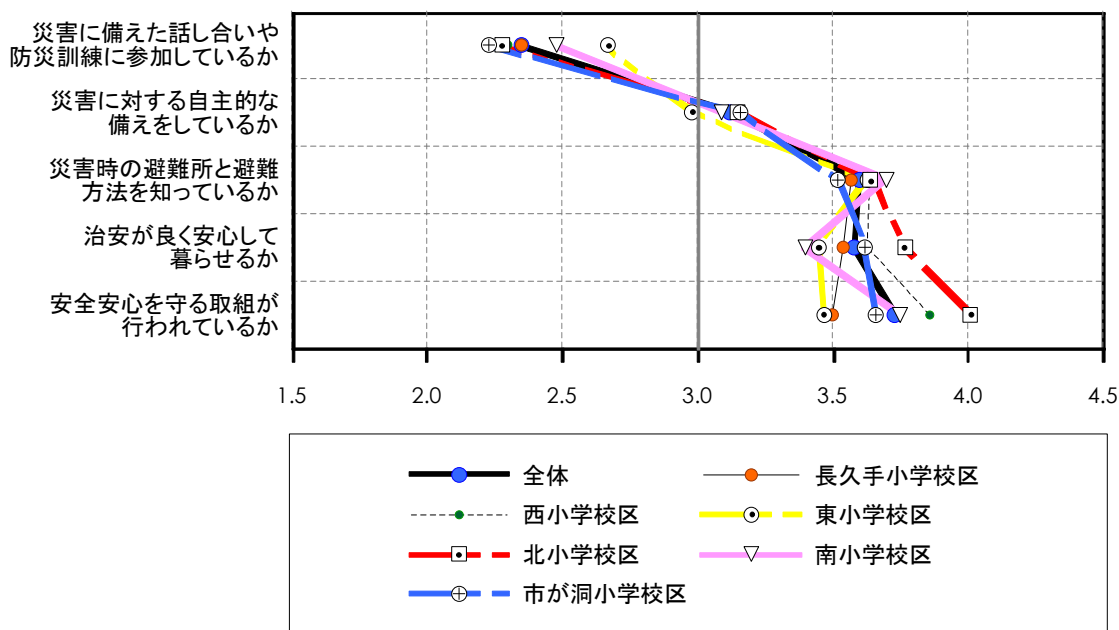
図4-5-2 年齢 「防災・防犯について（評点）」



小学校区別

- 全般的に、小学校区別に大きな違いはみられません。
- ただし、北小学校区では「安全安心を守る取組が行われているか」の評点4.01で、他の小学校区よりも若干高くなっています（図4-5-3）。

図4-5-3 小学校区 「防災・防犯について（評点）」



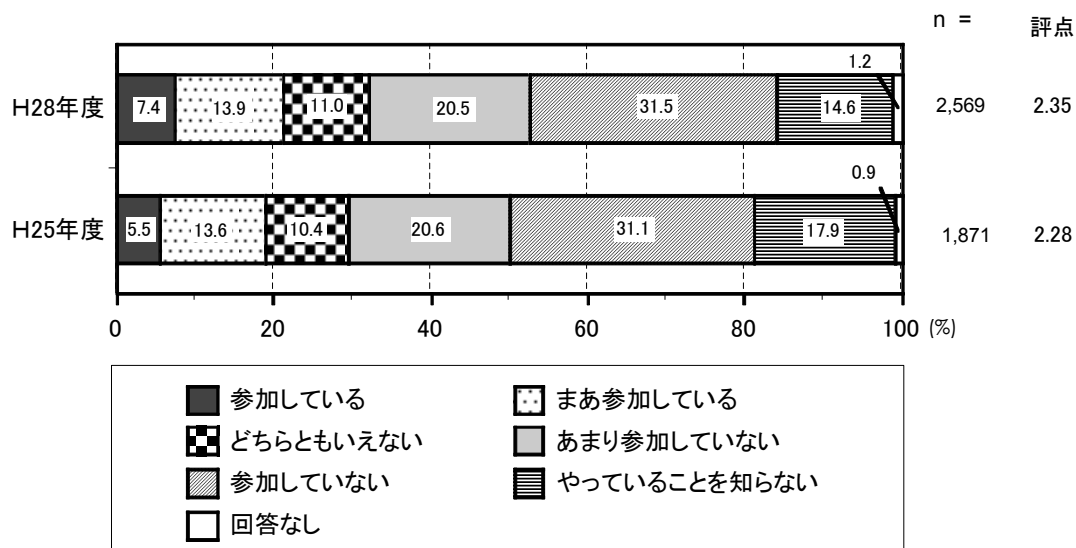
（１）災害に備えた話し合いや防災訓練への参加（問 12（1））

問 12（１） お住まいの地域で災害に備えた話し合いや防災訓練に参加していますか。【○は１つ】

○「参加していない」が 31.5%で最も多く、次いで「あまり参加していない」（20.5%）や「やっていることを知らない」（14.6%）が多くなっている一方で、「参加している」と「まあ参加している」の合計は 21.3%にとどまっています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-5-4）。

図 4-5-4 災害に備えた話し合いや防災訓練への参加（前回比較）



（２）家庭内での災害に対する自主的備え（問 12（２））

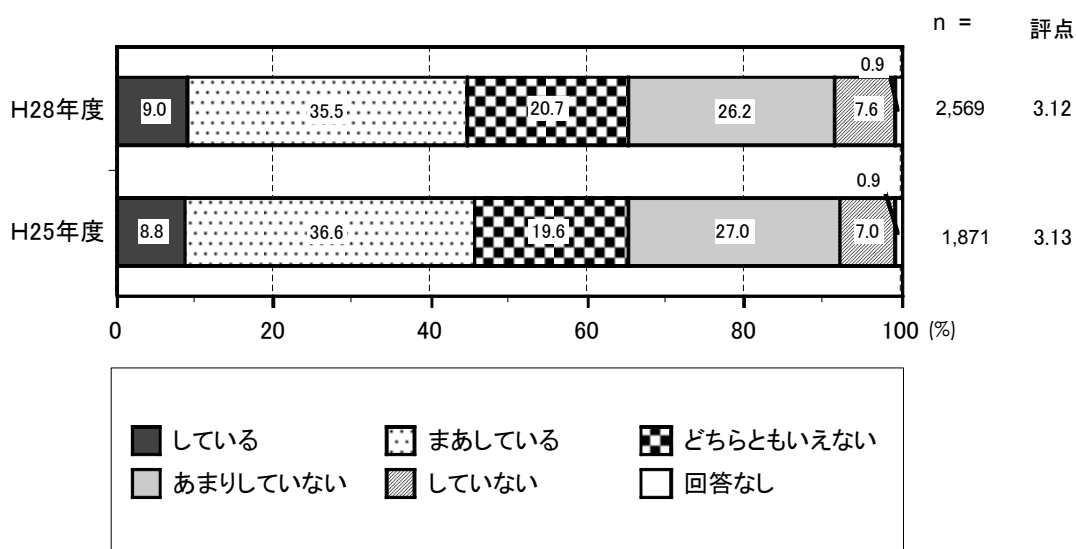
問 12（２） あなたの家庭では、災害に対する自主的な備えをしていますか。【○は 1 つ】

○「まあしている」が 35.5%と最も多く、「している」(9.0%) と合わせて 44.5%が家庭での自主的な災害対策をしていることがわかります。

○一方で、「あまりしていない」(26.2%) と「していない」(7.6%) を合わせると 33.8%あり、「どちらともいえない」も 20.7%あります。今後も、家庭における災害対策の必要性を普及啓発していくことが必要であるといえます。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-5-5）。

図 4-5-5 家庭内での災害に対する自主的備え（前回比較）



(3) 災害時における避難場所、避難方法の周知（問 12 (3)）

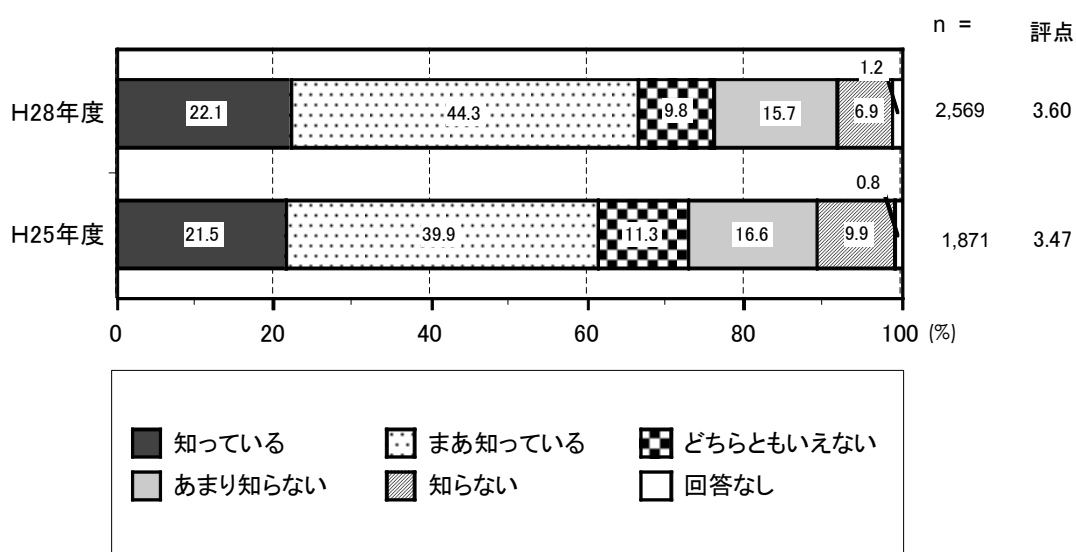
問 12 (3) 災害時の避難所と避難方法を知っていますか。【○は1つ】

○「まあ知っている」が44.3%と最も多く、次いで「知っている」が22.1%となっており、全体の約7割が災害時の避難場所や避難方法を知っていると回答しています。

○一方で、「あまり知らない」(15.7%) や「知らない」(6.9%) を合わせると22.6%となり、全体の約5分の1を占めています。

○前回調査と比較すると、「まあ知っている」が4.4ポイント高くなっており、「知っている」と「まあ知っている」を合わせた割合は、前回調査において61.4%であったのに対して、今回調査では66.4%と5.0ポイント高くなっています（図4-5-6）。

図 4-5-6 災害時における避難場所、避難方法の周知（前回比較）



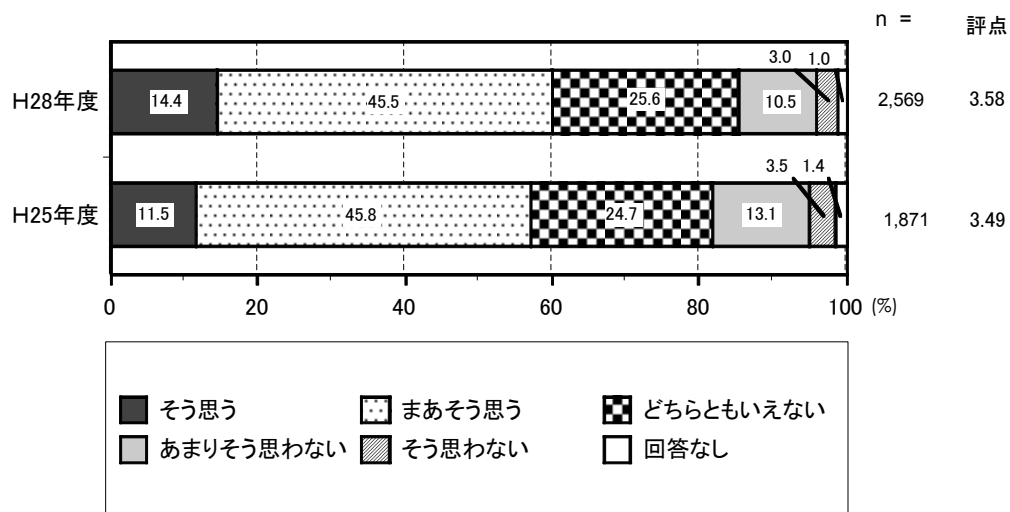
(4) 地域における治安 (問 12 (4))

問 12 (4) お住まいの地域は、治安が良く、安心して暮らせますか。【〇は1つ】

○「まあそう思う」が45.5%と最も多く、「そう思う」(14.4%) と合わせると6割弱の人が治安がよいと感じています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません (図 4-5-7)。

図 4-5-7 地域における治安 (前回比較)



（５）地域における安全安心の取り組み（問 12（５））

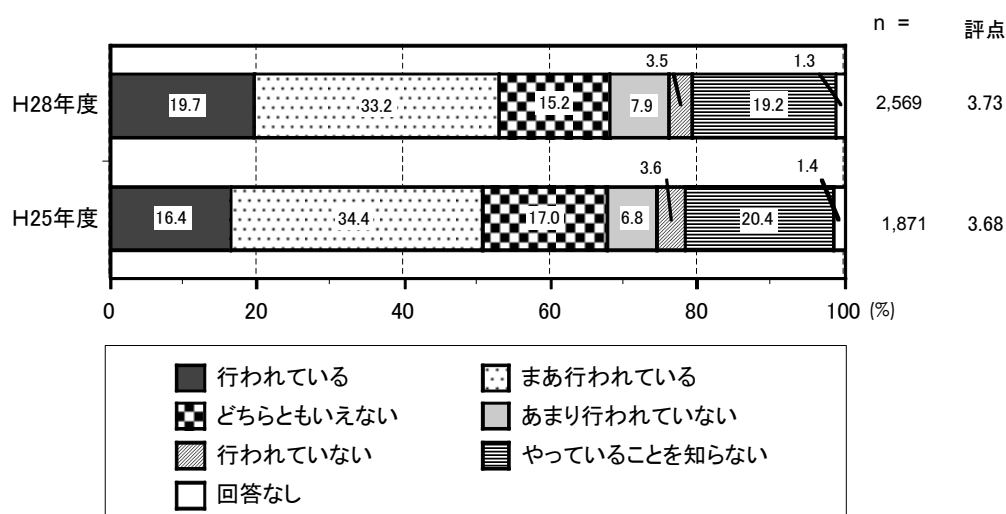
問 12（５） お住まいの地域では、住民による登下校の見守り、夜間パトロールや防犯灯設置など、安全安心を守る取組が行われていますか。【〇は１つ】

○地域における安全安心の取組が「まあ行われている」と考える人の割合が 33.2%で最も多く、「行われている」（19.7%）と合わせると約半数の 52.9%が“行われている”と認識しています。

○一方で「やっていることを知らない」が 19.2%みられます。

○平成 25 年度調査結果と比較すると、「行われている」が 3.3 ポイント高くなっていますが、そのほかほとんど変化はみられません（図 4-5-8）。

図 4-5-8 地域における安全安心の取り組み（前回比較）



4-6 福祉について（問 13）

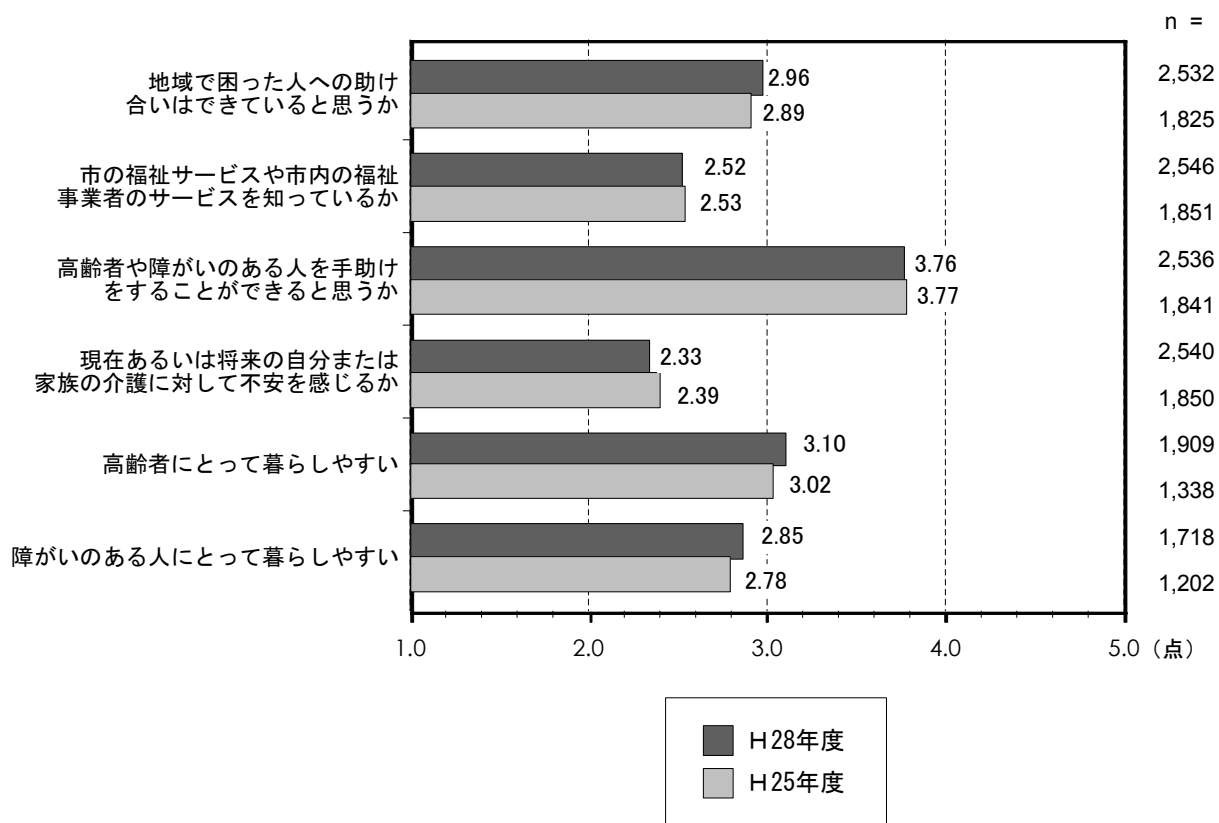
要点

「高齢者や障がいのある人を手助けすることができると思うか」の評点が最も高い一方で、「現在（あるいは将来）自分または家族の介護に対して不安を感じるか」や「市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っているか」は他の項目に比べて低くなっています。福祉サービスに関する認識不足にあることと、介護への不安を感じている人が多いことがわかります。

全体

- 「高齢者や障がいのある人を手助けすることができると思うか」の評点が3.76と最も高い一方で、「地域で困った人への助け合いはできていると思うか」の評点は2.96にとどまっています。
- また、「現在（あるいは将来）自分または家族の介護に対して不安を感じるか」（2.33）や「市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っているか」（2.52）と他の項目に比べて低くなっています。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-6-1）。

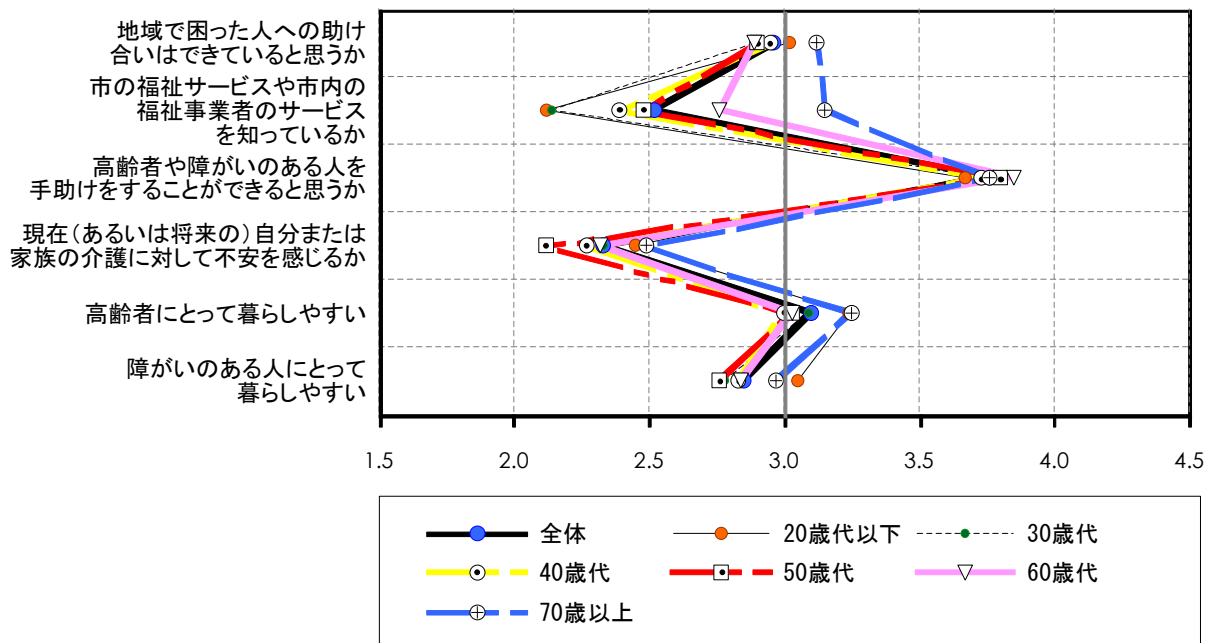
図4-6-1 福祉について（評点：前回比較）



年齢別

- 「市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っているか」において年齢差がみられます。具体的には、20歳代以下（2.12）や30歳代（2.14）といった若い世代の評点が低くなっているのに比べると、70歳代（3.15）の評点が高くなっています（図4-6-2）。

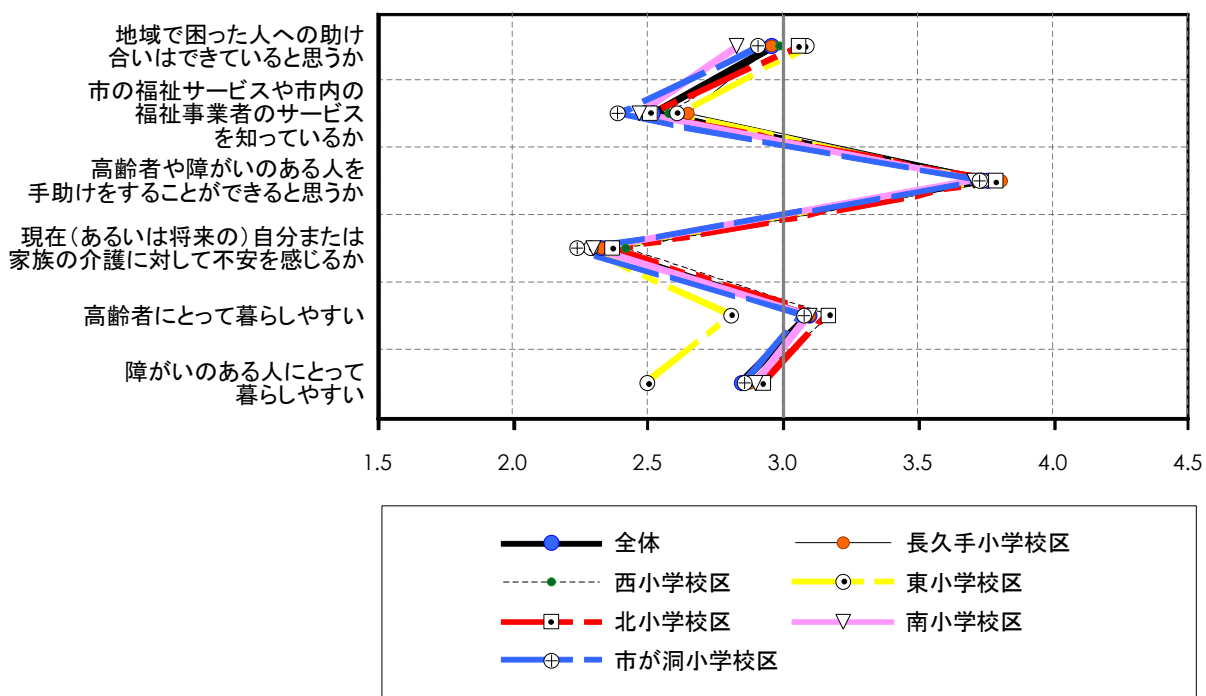
図4-6-2 年齢 「福祉について（評点）」



区別
小学校

- 「高齢者にとって暮らしやすい」と「障がいのある人にとって暮らしやすい」は、どちらも東小学校区の評点が他の小学校区よりも低くなっています（図4-6-3）。

図4-6-3 小学校区「福祉について（評点）」



(1) 地域の助け合い (問 13 (1))

問13 (1) お住まいの地域では、地域で困った人への助け合いはできていると思いますか。

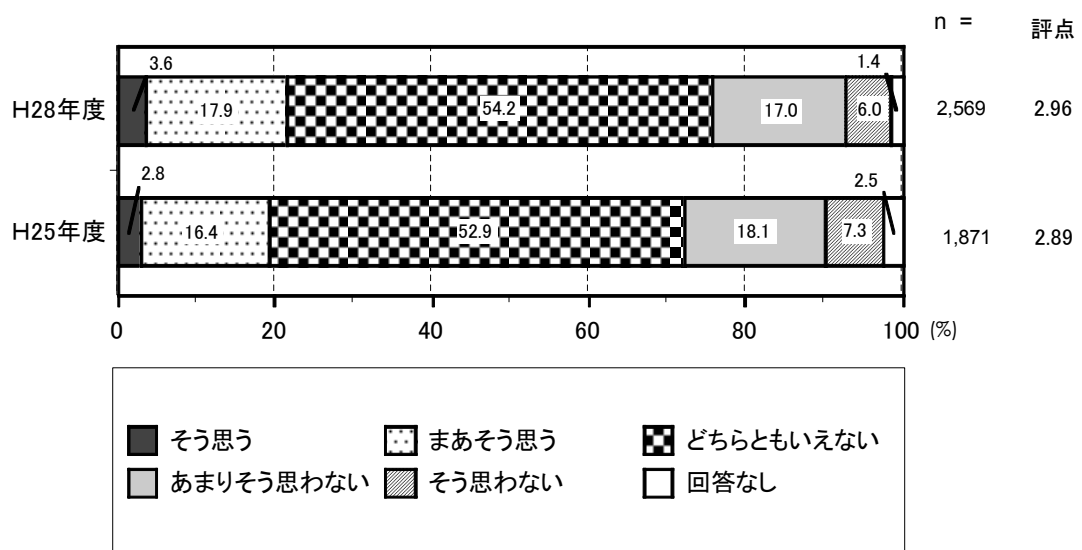
【〇は1つ】

○地域で困った人への助け合いができていると思うかについて、「どちらともいえない」が54.2%と最も多くなっています。

○「そう思う」(3.6%)、「まあそう思う」(17.9%)の合計は21.5%と少なく、「あまりそう思わない」(17.0%)、「そう思わない」(6.0%)の合計が23.0%と、地域での助け合いの意識は積極的であるとはいえない状況にあります。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません (図4-6-4)。

図4-6-4 地域の助け合い (前回比較)



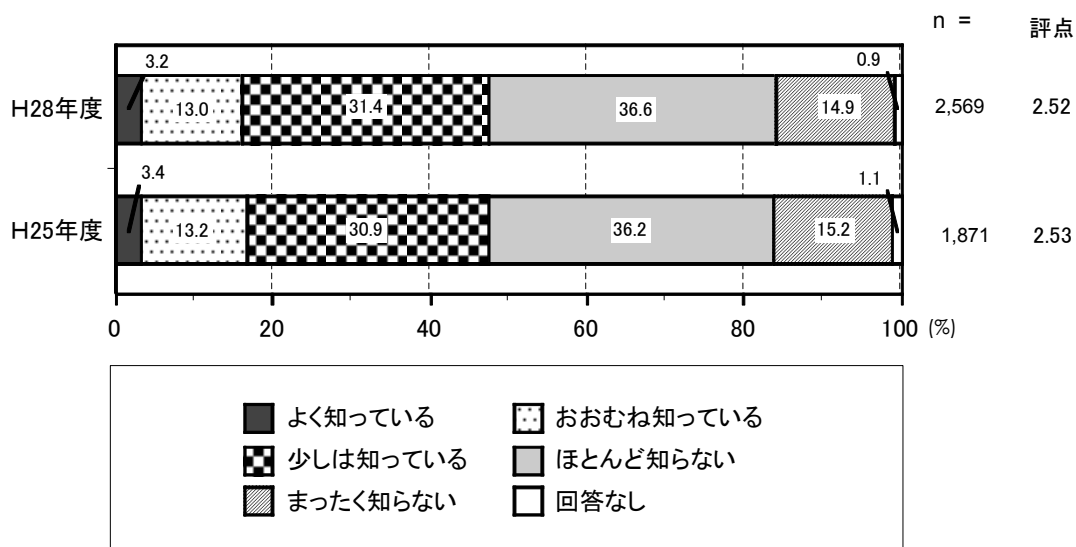
(2) 市・業者による福祉サービスの周知（問 13（2））

問 13（2） 市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っていますか。【○は一つ】

○福祉サービスについて、「よく知っている」（3.2%）、「おおむね知っている」（13.0%）の合計は16.2%にとどまり、「少しは知っている」（31.4%）を合わせても半数弱となります。一方、「まったく知らない」（14.9%）、「ほとんど知らない」（36.6%）の合計は51.5%を占めており、今後も福祉に関する関心を高め、施策やサービスの内容を周知する必要があります。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-6-5）。

図 4-6-5 市・業者による福祉サービスの周知（前回比較）



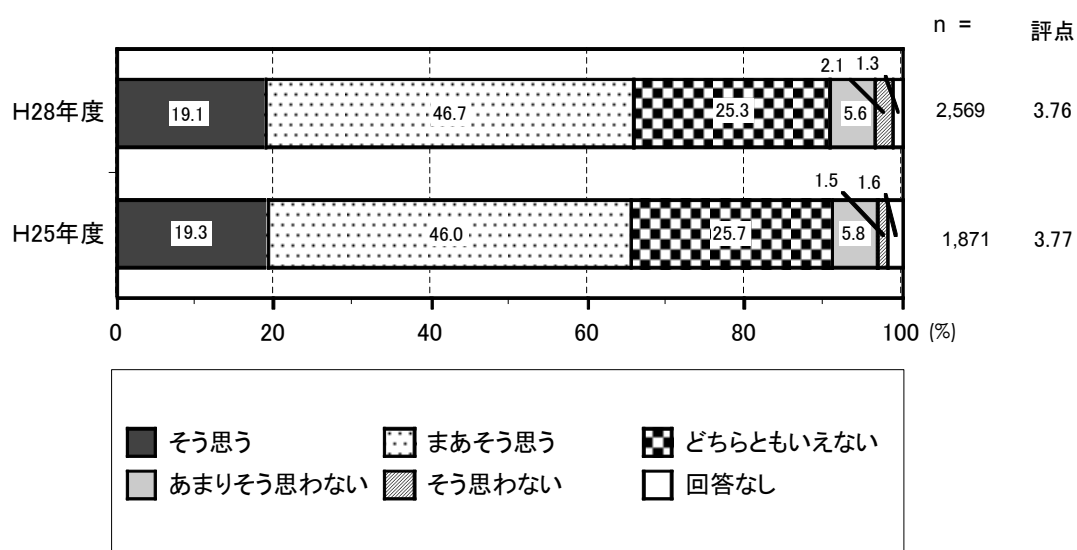
(3) 高齢者や障がい者を手助けできるか（問13 (3)）

問13 (3) 高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人など、まちで困っている人がいるとき、手助けをすることができますか。【○は1つ】

○高齢者や障がい者などまちで困った人を見かけたとき手助けするかについて、「まあそう思う」が46.7%で最も多く、「そう思う」(19.1%)と合わせると65.8%を占めています。「そう思わない」(2.1%)、「あまりそう思わない」(5.6%)を合わせた7.7%を大きく上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-6-6）。

図4-6-6 高齢者や障がい者を手助けできるか（前回比較）



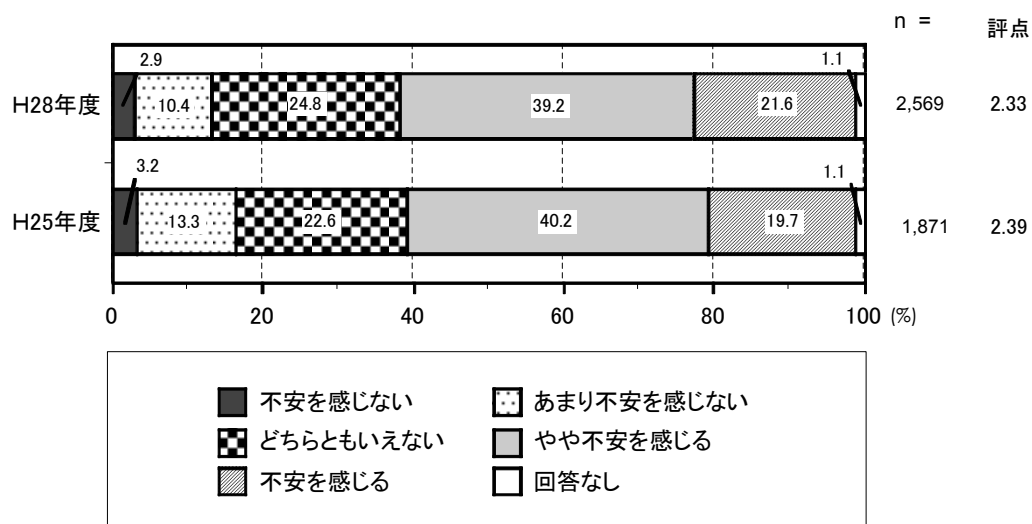
(4) 自分または家族の介護についての不安 (問 13 (4))

問 13 (4) 現在 (あるいは将来の)、自分または家族の介護に対して不安を感じますか。【○は1つ】

○現在 (あるいは将来の) 介護に対する不安の有無について、「やや不安を感じる」が 39.2%と最も多く、「不安を感じる」(21.6%) と合わせると 60.8%と多くなっています。「不安を感じない」(2.9%)、「あまり不安を感じない」(10.4%) の割合は合計で 13.3%にとどまっています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません (図 4-6-7)。

図 4-6-7 自分または家族の介護についての不安 (前回比較)



(5) 地域が高齢者・障がい者にとって暮らしやすいかー1 (問13 (5) -1)

問13 (5) -1 お住まいの地域は、高齢者にとって暮らしやすい地域であると思いますか。障がいのある人にとって暮らしやすい地域であると思いますか。【〇は1つ】

①高齢者にとって暮らしやすい

(6) 地域が高齢者・障がい者にとって暮らしやすいかー2 (問13 (5) -2)

問13 (5) -2 お住まいの地域は、高齢者にとって暮らしやすい地域であると思いますか。障がいのある人にとって暮らしやすい地域であると思いますか。【〇は1つ】

②障がいのある人にとって暮らしやすい

- 「高齢者や障がいのある人にとって暮らしやすい地域であるか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は、高齢者27.2%と少なく、障がい者では15.0%とさらに少ない割合にとどまっています。
- ただし、「該当しない」(高齢者：24.6%、障がい者：31.8%)を除けば、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は、高齢者では36.1%に相当し、障がい者でも22.0%に相当します。
- 同様に「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計は、「該当しない」を除けば、高齢者では24.5%、障がい者で30.2%に相当します。
- したがって、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた割合よりも、高齢者では11.6ポイント上回っていることに相当する一方で、障がい者では8.2ポイント下回っていることに相当することとなります。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-6-8、図4-6-9)。

図4-6-8 地域が高齢者・障がい者にとって暮らしやすいかー高齢者にとって暮らしやすい(前回比較)

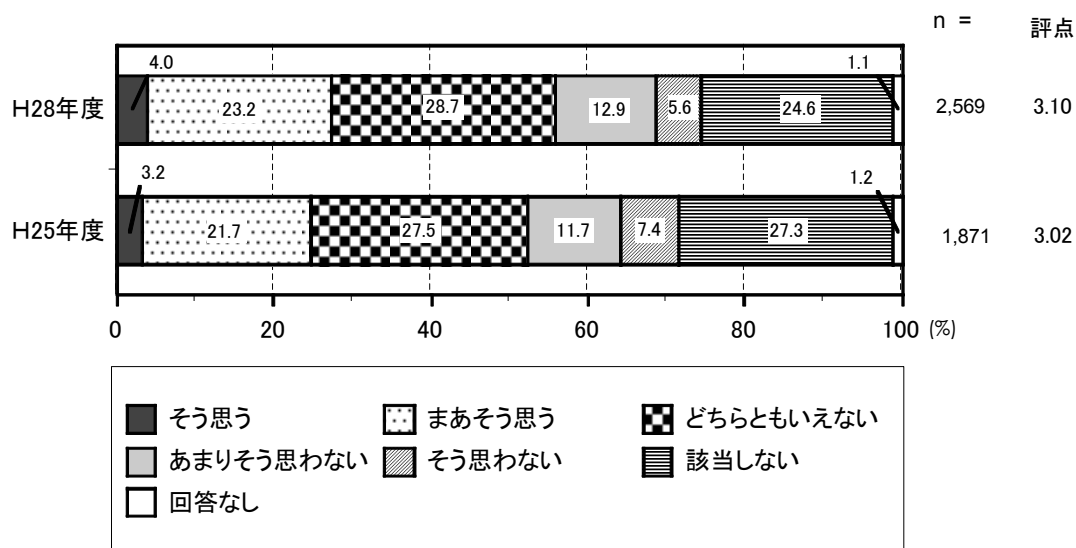
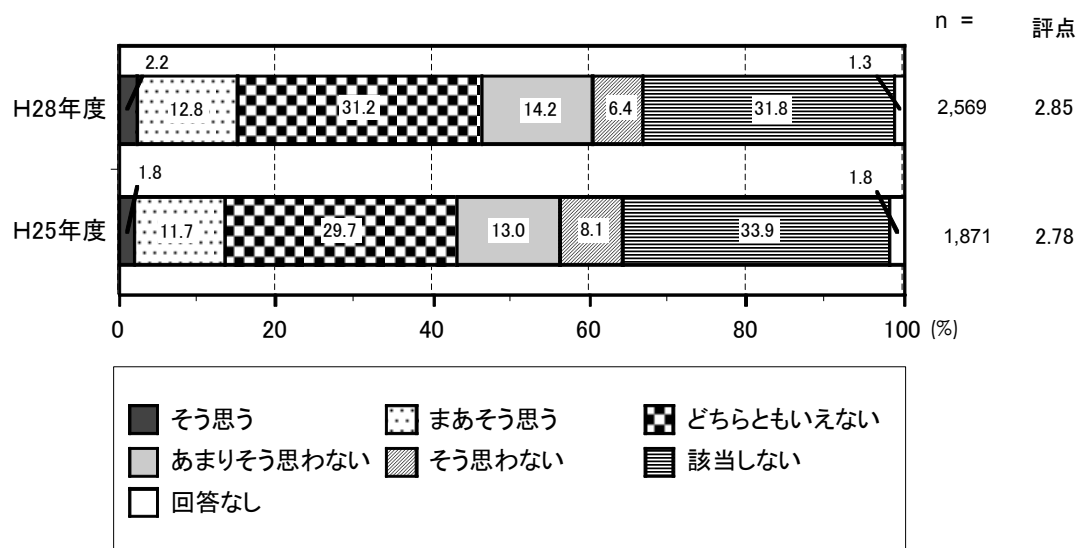


図 4-6-9 地域が高齢者・障がい者にとって暮らしやすいかー障害者にとって暮らしやすい（前回比較）



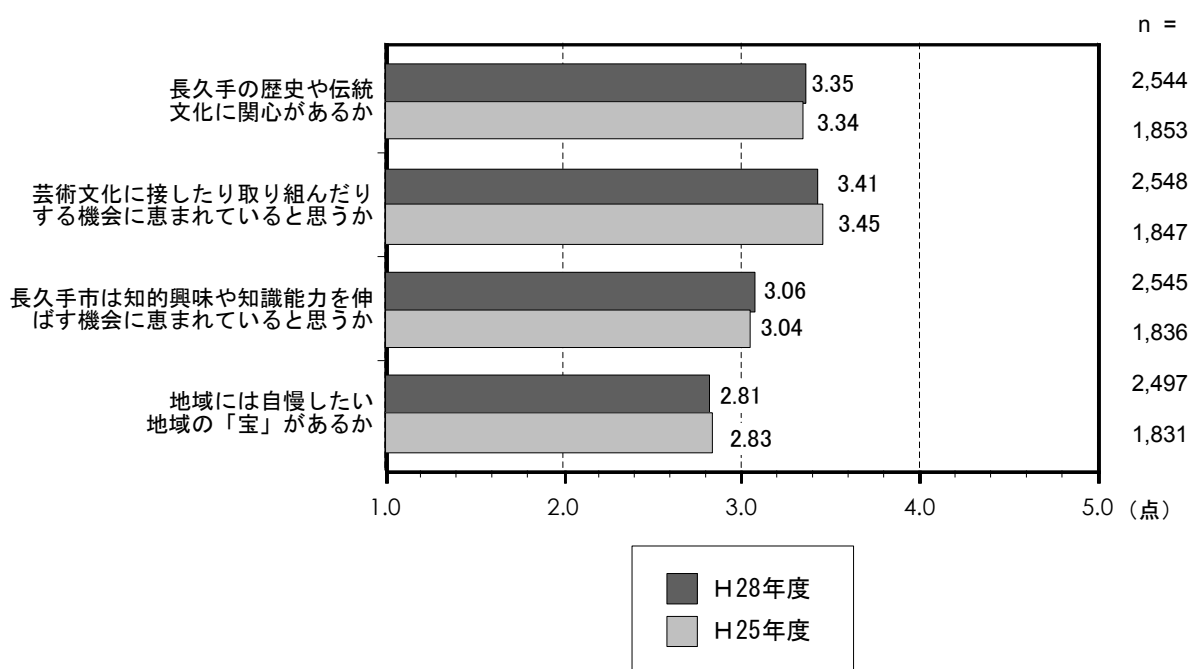
要点

「長久手市は芸術文化に接したり取り組んだりする機会に恵まれていると思うか」の評点が最も高い一方で、「お住まいの地域には、自慢したい「宝」があるか」の評点が他の項目に比べて低くなっています。また、「長久手市はあなたの知的興味や知識、能力を磨いたり伸ばしたりする機会に恵まれていると思うか」の評点は、歴史や伝統文化への関心、芸術文化に親しむ機会と比べて低くなっています。

全体

- 「長久手市は芸術文化に接したり取り組んだりする機会に恵まれていると思うか」の評点が3.41と最も高い一方で、「お住まいの地域には、自慢したい「宝」があるか」の評点が2.81と低くなっています。
- 「長久手市はあなたの知的興味や知識、能力を磨いたり伸ばしたりする機会に恵まれていると思うか」の評点も3.06と他の項目と比べると若干低くなっています。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-7-1）。

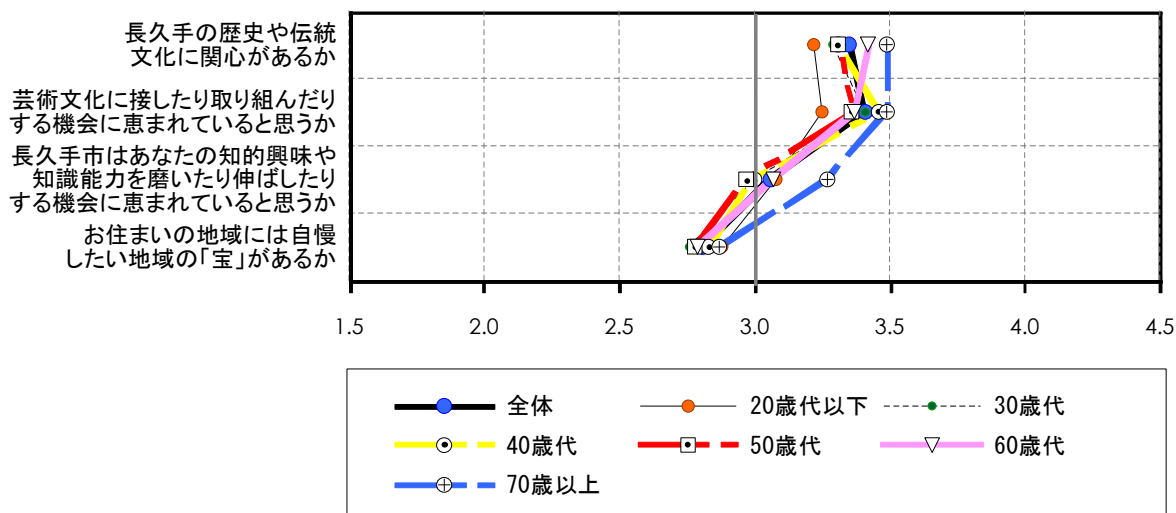
図4-7-1 文化・生涯学習について（評点：前回比較）



年齢別

○70 歳代の評点が全体的に比べて若干高くなっています。また、「長久手の歴史や伝統文化に関心があるか」については、年齢が高くなるにつれて評点が若干高くなる傾向がみられるものの、年齢別による大きな違いはみられません（図 4-7-2）。

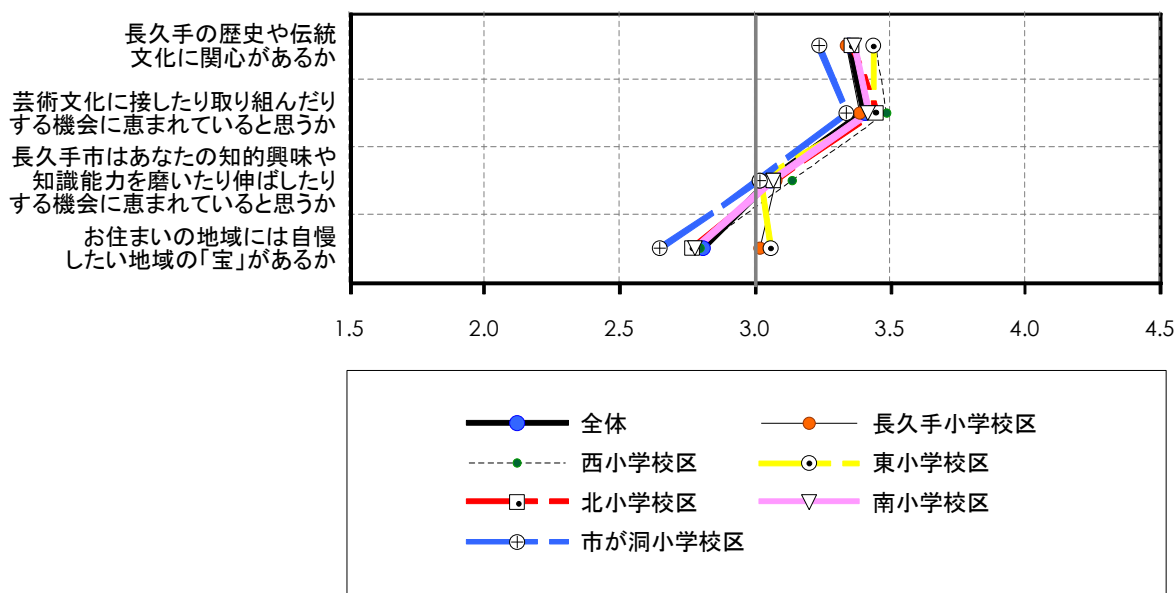
図 4-7-2 年齢 「文化・生涯学習について（評点）」



小学校区別

○「お住まいの地域には自慢したい地域の「宝」があるか」については、東小学校区（3.06）や長久手小学校区（3.02）において評点が高くなっています。
○市が洞小学校区がすべての項目で全体よりも評点が低くなっています（図 4-7-3）。

図 4-7-3 小学校区 「文化・生涯学習について（評点）」



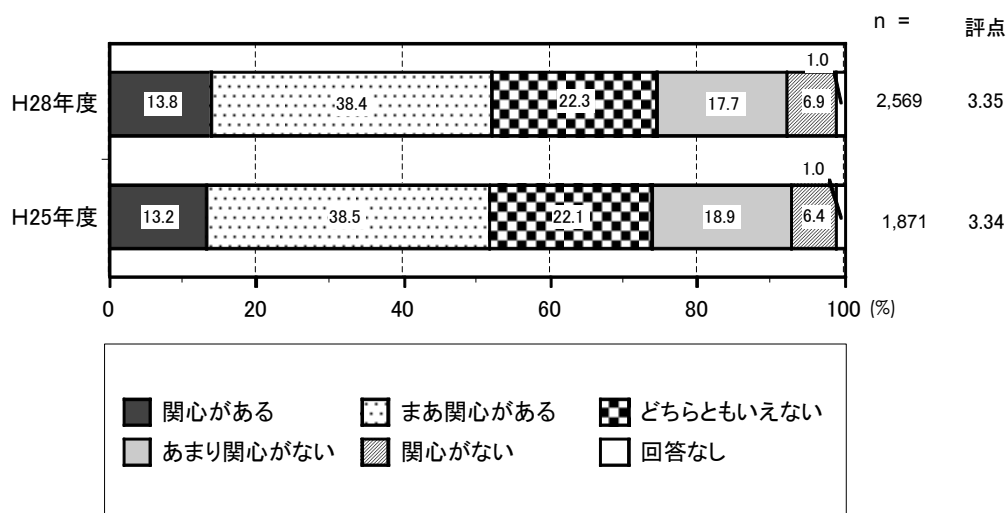
(1) 伝統・文化への関心 (問 14 (1))

問 14 (1) 長久手の歴史や伝統文化(「小牧・長久手の戦い」の地になったことや地域の昔話、棒の手等のお祭りなど)に関心がありますか。【〇は1つ】

○伝統・文化への関心は、「まあ関心がある」が38.4%と最も多く、「関心がある」(13.8%)と合わせた割合は52.2%で、「あまり関心がない」(17.7%)及び「関心がない」(6.9%)を合わせた24.6%より多くなっています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-7-4)。

図4-7-4 伝統・文化への関心(前回比較)



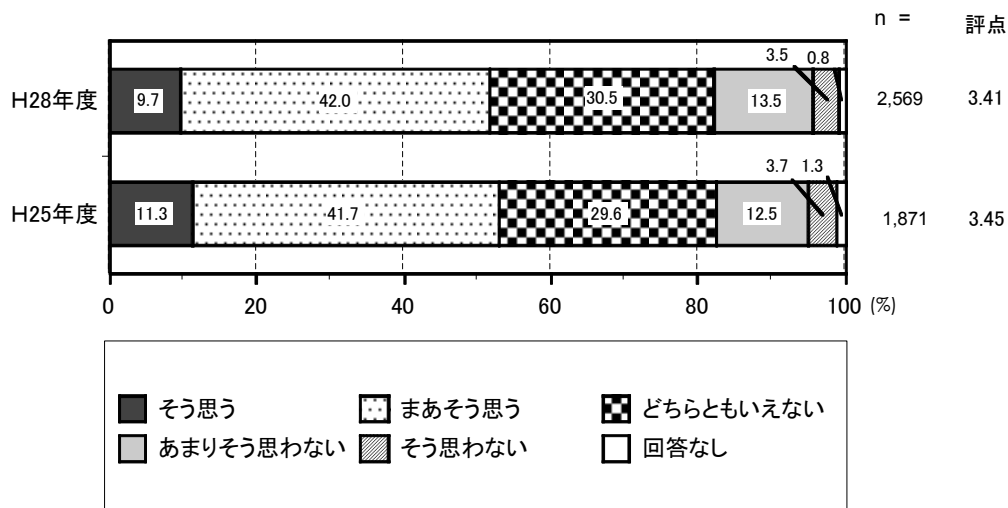
(2) 芸術文化に接する機会(問 14 (2))

問 14 (2) 長久手市は、芸術文化(演劇やコンサート、美術展など)に接したり取り組んだりする機会に恵まれていると思いますか。【〇は1つ】

○「芸術文化に接する機会に恵まれているか」について、「まあそう思う」が42.0%で最も多く、「そう思う」(9.7%)と合わせた割合は51.7%で、「あまりそう思わない」(13.5%)及び「そう思わない」(3.5%)を合わせた17.0%より多くなっています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-7-5)。

図4-7-5 芸術文化に接する機会(前回比較)

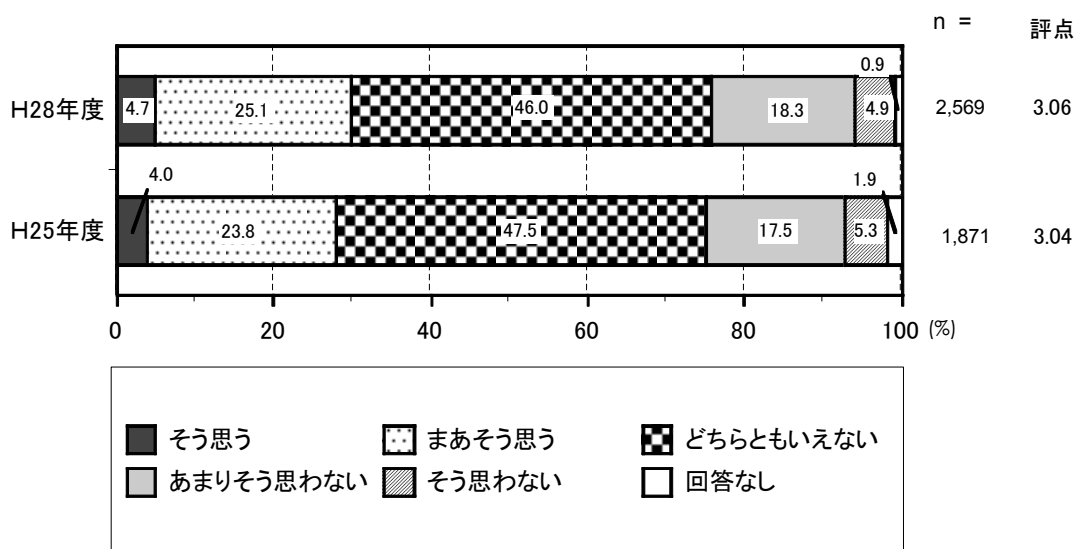


(3) 知識・能力を伸ばす機会 (問 14 (3))

問 14 (3) 長久手市は、あなたの知的興味や知識、能力を磨いたり伸ばしたりする機会（生涯学習活動を行う機会）に恵まれていると思いますか。【○は1つ】

- 「自己の興味や知識・能力を伸ばす機会に恵まれているか」について、「どちらともいえない」の46.0%が最も多くなっています。
- 「そう思う」(4.7%)、「まあそう思う」(25.1%)の合計は29.8%で、「あまりそう思わない」(18.3%)及び「そう思わない」(4.9%)の合計23.2%より若干多くなっています。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-7-6)。

図4-7-6 知識・能力を伸ばす機会 (前回比較)



(4) 地域における自慢すべき「宝」の有無（問 14 (4)）

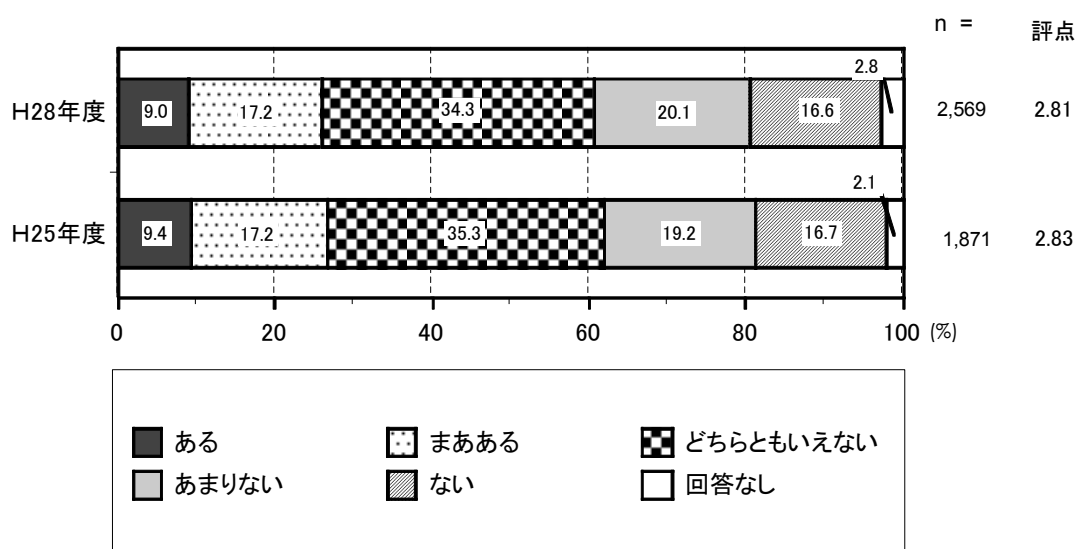
問 14 (4) お住まいの地域には、自慢したい地域の「宝」（風景や産物、文化、行事など）がありますか。【〇は1つ】

○地域における自慢すべき「宝」の有無について、「どちらともいえない」の34.3%が最も多くなっています。

○「ある」（9.0%）、「まあある」（17.2%）の合計は26.2%であり、「あまりない」（20.1%）及び「ない」（16.6%）を合わせた36.7%を大きく下回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-7-7）。

図4-7-7 地域における自慢すべき「宝」の有無（前回比較）



(4) で「1. ある」「2. まあある」に「○」を付けた方は、あなたがお住まいの地域の「宝」であると思うものを、具体的にあげてください。

○モリコロパークや古戦場公園、リニモなどをはじめとした「各種施設・公園」(343 件) が最も多くなっています。

○また、「長湫の警固祭り、岩作のオマント」や「棒の手」をはじめとした「歴史・伝統・文化」(281 件)、「自然・景観」(139 件) や「古戦場」といった「史跡、寺社・仏閣」(102 件) など数多くあげられています。

○さらに、その他にも生活者の視点からバラエティに富んだ地域の「宝」があげられています(表 4-7-1)。

表 4-7-1 地域における自慢すべき「宝」

■1. 歴史・伝統・文化 (281 件) ・長湫の警固祭り、岩作のオマント (122) ・棒の手 (99) ・火縄銃 (13) ・各種祭り (4) ・神楽 (4) ・その他 (39) お月見どろぼう、左義長、山車 子供獅子、太鼓、大黒、歴史 等 ■2. 史跡、寺社・仏閣 (102 件) ・古戦場 (41) ・寺社 (25) 景行天皇社、岩作神社、富士社、安昌寺 多度社 等 ・史跡 (21) ・塚 (9) ・弘法 (3) ・その他 (3) 古窯、地藏、しょうぎ石 ■3. 各種施設・公園 (342 件) ・愛・地球博公園(モリコロパーク) (100) ・リニモ (36) ・古戦場公園 (47) ・各種公園 (15) ・杓ヶ池公園 (21) ・色金山歴史公園 (5) ・血池公園 (5) ・せせらぎの径 (5) ・各種公共施設 (14) 共生ステーション、平成こども塾 等 ・文化の家 (25) ・図書館 (8) ・名都美術館 (4) ・トヨタ博物館 (12) ・あぐりん村・ゴジカラ村 (10) ・長久手温泉ござらっせ (12) ・各種大学 (5) ・イオン・アピタ・イケヤ (7) ・その他 (11) 地下鉄の駅、グリーンロード 映画館、個人の美術館 等	■4. 自然・景観 (139 件) ・自然 (21) ・様々な小動物・昆虫 (3) ホタル、メダカなどの生き物 ・自然景観 (25) 田園風景、自然の風景 等 ・街並み景観 (17) ・田園・田畑 (2) ・緑地 (11) ・山・川 (37) 御嶽山、香流川 等 ・桜 (7) 古戦場公園の桜 等 ・杓ヶ池 (9) ・その他 (7) 愛・地球博記念公園「大観覧車」の風景 リニモのある風景 等 ■5. 行事、イベント (50 件) ・地区等のお祭り (30) 子ども祭り、学区夏祭り 桜祭り、夏祭り 等 ・花火大会 (8) ・その他のイベント (12) シニア会、うまいもの祭り、大学祭 福祉祭り、里山交流行事 等 ■6. その他 (52 件) ・住みやすさ (13) 商業施設 住みやすさ全国ランキング上位 等 ・住民 (7) 若い、親切 等 ・安心安全 (4) 地域のまとまり、消防団 等 ・子ども (3) 子どもが多い、学校が多い 等 ・その他 (25) Nバス、音楽、ケーキ屋、パン屋 等
--	--

要点

「買い物や通院に便利か」の評点が最も高く、次いで「出かける際の移動が便利か」や「出かける際の移動の安全が確保されていると思うか」といった交通基盤や公共交通に関する評点はいずれも高くなっています。一方で、「就業しやすい環境にあると思うか」の評点が低くなっています。

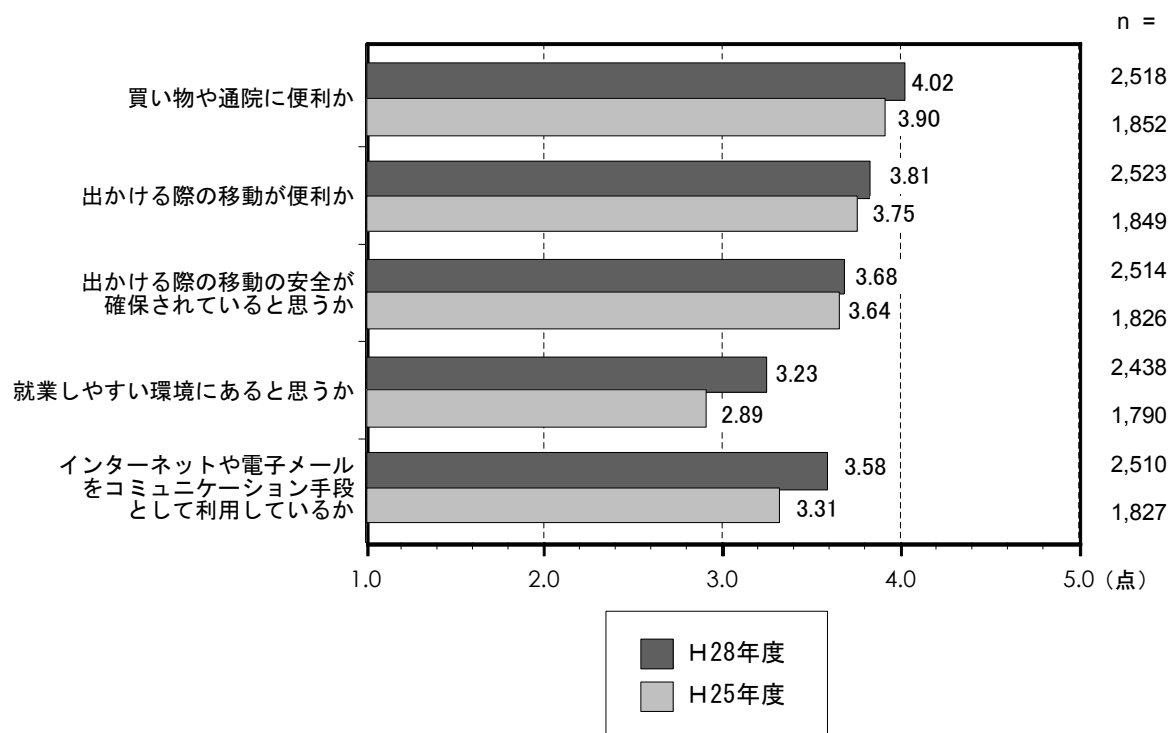
年齢別にみると、「インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているか」については、20歳代以下をはじめとする若い世代の評点が高くなっています。

また、小学校区別にみると移動手段や移動の安全、インターネット利用などについては、東小学校区の評点が低くなっています。

全体

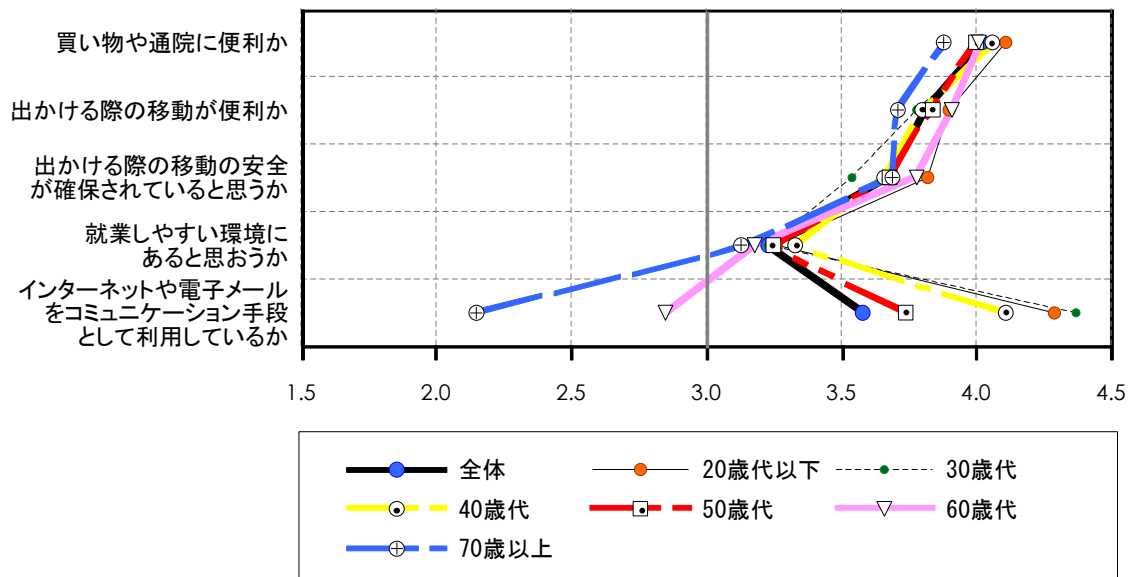
- 「買い物や通院に便利か」の評点が4.02と最も高くなっています。また、「出かける際の移動が便利か」（3.81）や「出かける際の移動の安全が確保されていると思うか」（3.68）などの評点も高くなっています。一方で、「就業しやすい環境にあると思うか」の評点が3.23と低くなっています。
- 前回調査と比較すると、「就業しやすい環境にあると思うか」と「インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているか」については、前回調査よりも評点が高くなっています（図4-8-1）。

図4-8-1 生活インフラについて（評点：前回比較）



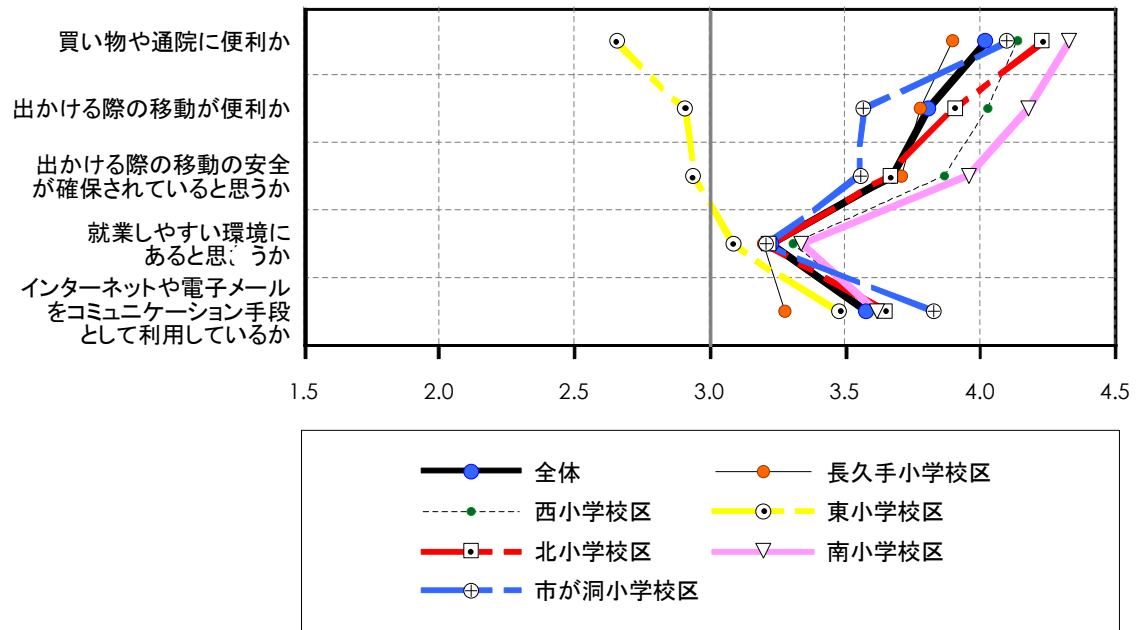
○「インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているか」では大きな年齢差がみられます。具体的には、70歳以上（2.15）や60歳代（2.85）の評点が全体を大きく下回る一方で、30歳代（4.37）をはじめ、20歳代以下（4.29）や40歳代（4.11）といった若い世代の評点が高くなっています（図4-8-2）。

図4-8-2 年齢 「生活インフラについて（評点）」



- 「買い物や通院に便利か」については、東小学校区の評点が2.66と極端に低い一方で、西小学校区（4.14）や北小学校区（4.23）、南小学校区（4.33）では、他の小学校区よりも評点が高くなっています。
- 東小学校区では、「インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているか」以外の4項目において他の小学校区よりも評点が低くなっています（図4-8-3）。

図4-8-3 小学校区 「生活インフラについて（評点）」



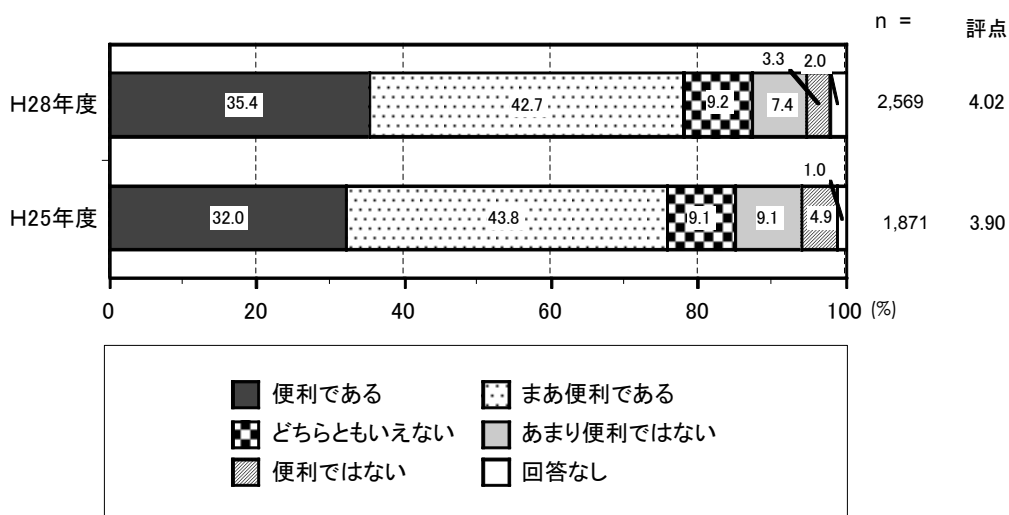
(1) 買い物、通院の便 (問 15 (1))

問 15 (1) お住まいの地域は、買い物や通院に便利ですか。【〇は1つ】

○買い物や通院の利便性について、「まあ便利である」が42.7%で最も多く、「便利である」(35.4%)と合わせた割合は78.1%で、「便利でない」(3.3%)及び「あまり便利でない」(7.4%)の合計10.7%を大きく上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-8-4)。

図4-8-4 買い物、通院の便 (前回比較)



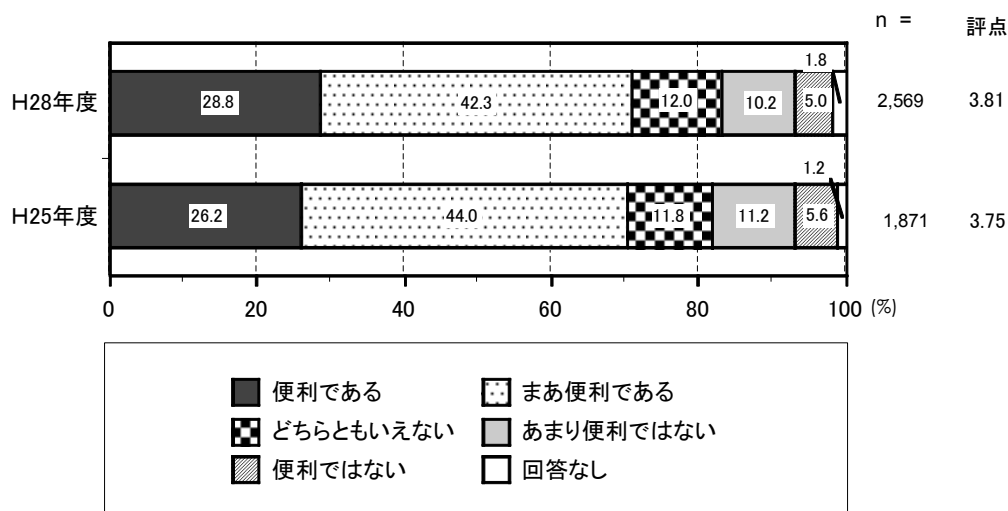
(2) 出かける際の移動の便 (問 15 (2))

問 15 (2) お住まいの地域は、出かける際の移動が便利ですか。【〇は1つ】

○出かける際の移動が便利かについて、「まあ便利である」が42.3%で最も多く、「便利である」(28.8%)と合わせた割合は71.1%で、「便利でない」(5.0%)及び「あまり便利でない」(10.2%)の合計15.2%を大きく上回っています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-8-5)。

図4-8-5 出かける際の移動の便 (前回比較)



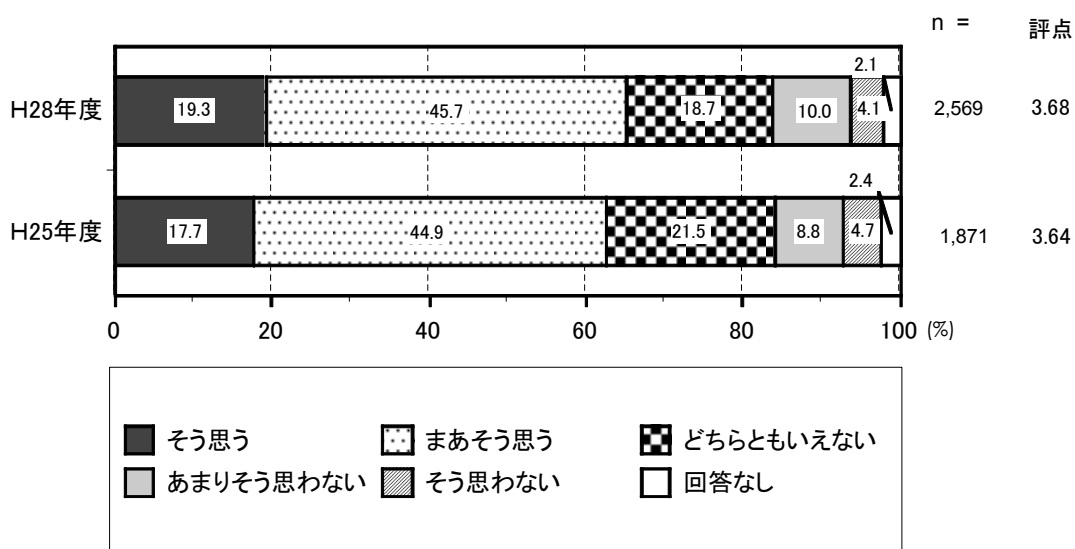
(3) 出かける際の移動の安全 (問 15 (3))

問 15 (3) お住まいの地域は、出かける際の移動の安全が確保されていると思いますか。【〇は1つ】

○出かける際の移動の安全について、「まあそう思う」が45.7%で最も多く、「そう思う」(19.3%) と合わせた割合は65.0%で、「そう思わない」(4.1%) 及び「あまりそう思わない」(10.0%) の合計14.1%を大きく上回っています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません (図 4-8-6)。

図 4-8-6 出かける際の移動の安全 (前回比較)

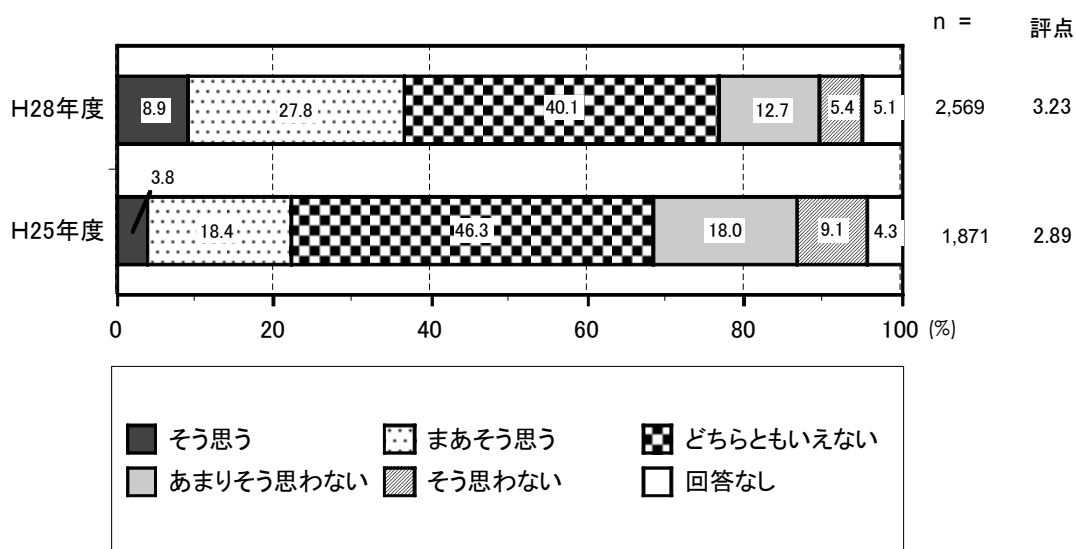


(4) 就業環境 (問 15 (4))

問 15 (4) お住まいの地域（長久手市及びその周辺地域）では、仕事が見つかりやすく就業しやすい環境（パート労働も含む）にあると思いますか。【〇は1つ】

- 住まいの地域が就業しやすい環境にあると思うかについて、「どちらともいえない」が40.1%と最も多くなっていますが、「そう思う」及び「まあそう思う」を合わせた割合も36.7%と多く、「そう思わない」及び「あまりそう思わない」の合計（18.1%）と比べて18.6ポイント高くなっています。
- 平成25年度調査結果と比べると、「そう思う」が5.1ポイント、「まあそう思う」が9.4ポイント高くなっており、就業しやすい環境だと評価する人が多くなっています（図4-8-7）

図4-8-7 就業環境（前回比較）



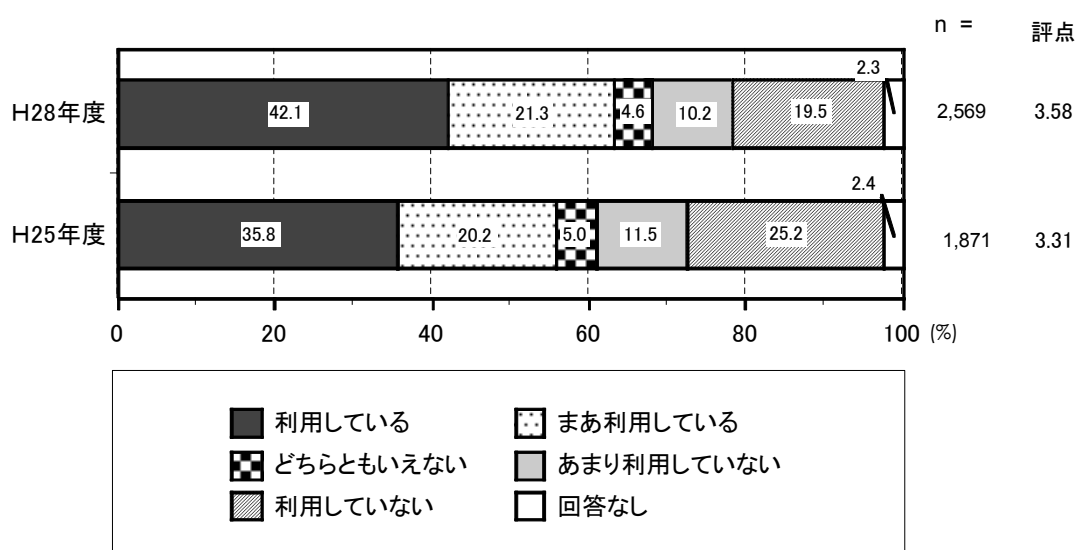
(5) インターネットや電子メールの利用 (問 15 (5))

問 15 (5) インターネット (ツイッターやフェイスブック、ライン等も含む) や電子メールをコミュニケーション手段として利用していますか。【○は1つ】

○インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているかについて、「利用している」が42.1%で最も多く、「まあ利用している」(21.3%) と合わせた割合は63.4%あり、半数以上がインターネット等を利用しています。

○平成 25 年度調査結果よりも「利用している」が6.3 ポイント高くなっており、インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用している人は7.4 ポイント高くなっています (図 4-8-8)。

図 4-8-8 インターネットや電子メールの利用 (前回比較)



要点

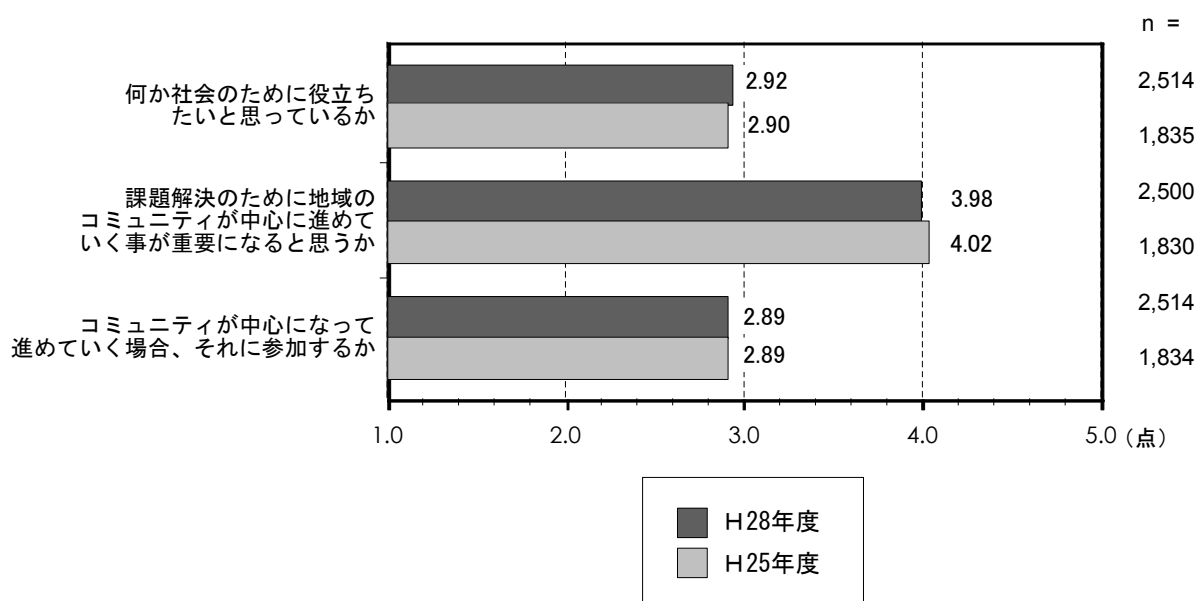
「課題解決のために地域のコミュニティが中心に進めていく事が重要になると思うか」の評点が最も高い一方で、「何か社会のために役立ちたいと思っているか」や「コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加するか」の評点が低い水準にとどまっています。地域が主体となったコミュニティ活動の重要性への理解に比べて、自らが地域づくりの担い手として役割を持ち活動に参加するという意識は低い状況にあることがうかがえます。

また、この結果は前回調査とほぼ同様の結果となっています。

全体

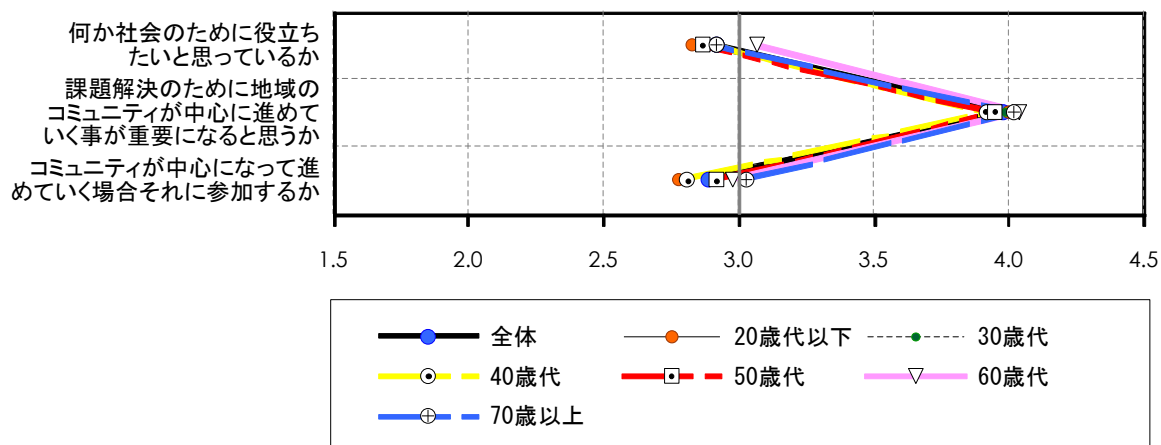
- 「課題解決のために地域のコミュニティが中心に進めていく事が重要になると思うか」の評点が3.98に比べて、「コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加するか」の評点が2.89と低く、また「何か社会のために役立ちたいと思っているか」の評点も2.92と低くなっています。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図4-9-1）。

図4-9-1 まちづくりにおける地域の役割について（評点：前回比較）



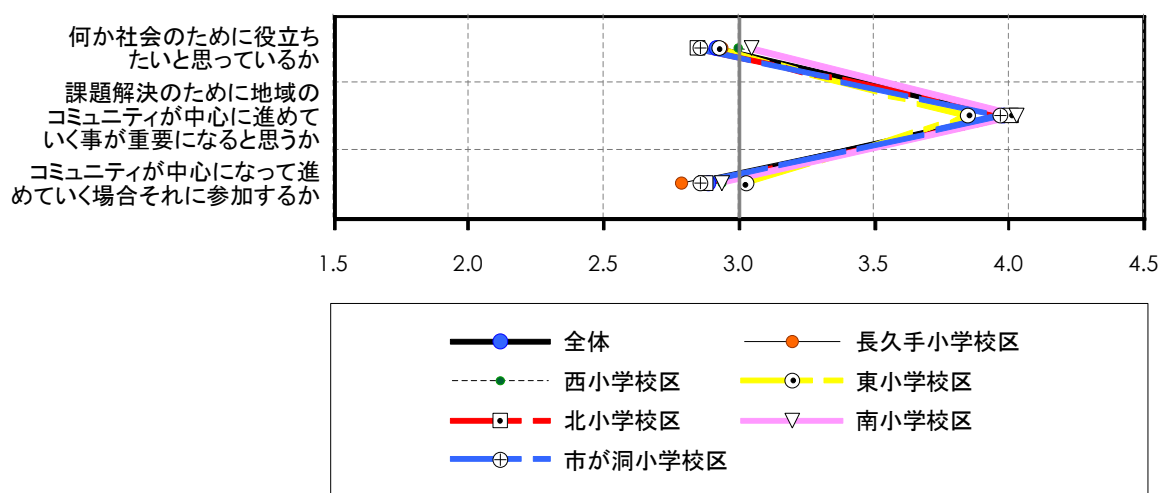
- 「何か社会のために役立ちたいと思っているか」については、60 歳代（3.07）の評点が若干高くなっていますが、年齢別による大きな違いはみられません。
- 「コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加するか」については、大きな違いはみられませんが、若干年齢が高くなるにつれて評点が高くなっており、70 歳代以上で3.03 となっています（図 4-9-2）。

図 4-9-2 年齢 「まちづくりにおける地域の役割について（評点）」



- 小学校区別に見ても、全体平均と比べて大きな違いはみられません（図 4-9-3）。

図 4-9-3 小学校区 「まちづくりにおける地域の役割について（評点）」



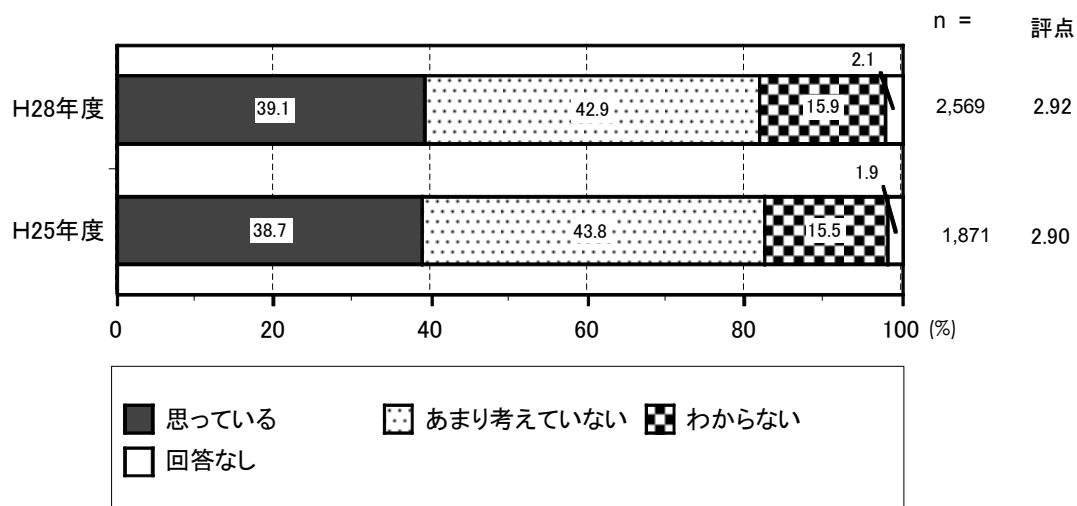
（１）地域における社会貢献の意思（問 16）

問 16 あなたは、日ごろ地域社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。【○は1つ】

○社会のために役立ちたいと思っているかについて、「あまり考えていない」が42.9%と最も多く、「思っている」(39.1%)を3.8ポイント上回っています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-9-4）。

図 4-9-4 地域における社会貢献の意思（前回比較）



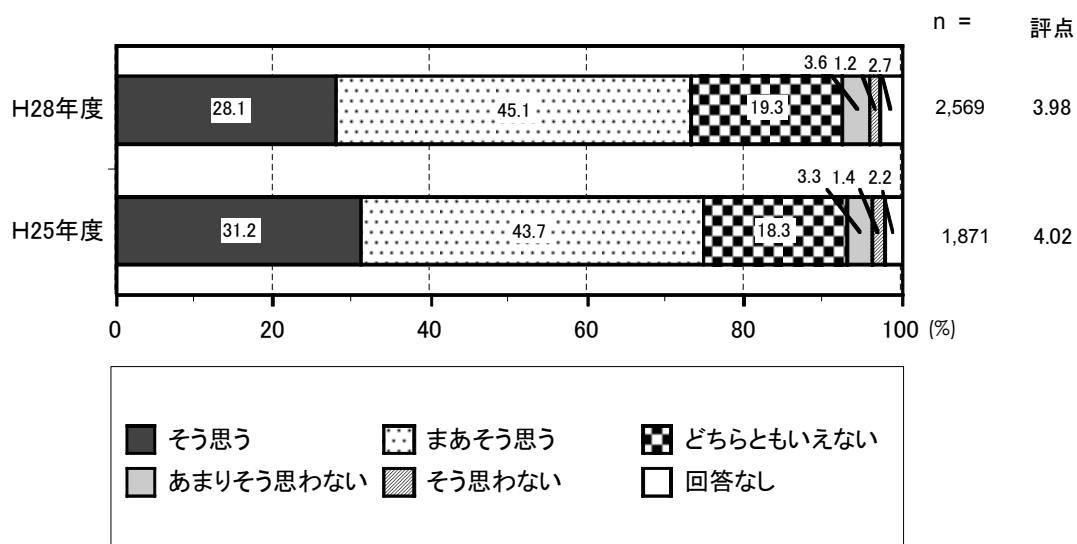
（２）課題解決におけるコミュニティの重要性（問 17）

問 17 地域にはさまざまな課題があると思われますが、このような課題を解決していくためには、地域のコミュニティが中心になって進めていくことが今後ますます重要になると思いますか。【○は1つ】

○地域の課題解決のためにコミュニティの役割が重要かについて、「まあそう思う」が45.1%で最も多く、「そう思う」(28.1%)との合計は73.2%で、多くの人が地域コミュニティの重要性を認識しています。

○平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 4-9-5）。

図 4-9-5 課題解決におけるコミュニティの重要性（前回比較）



(3) 地域コミュニティへの参加の意思 (問18)

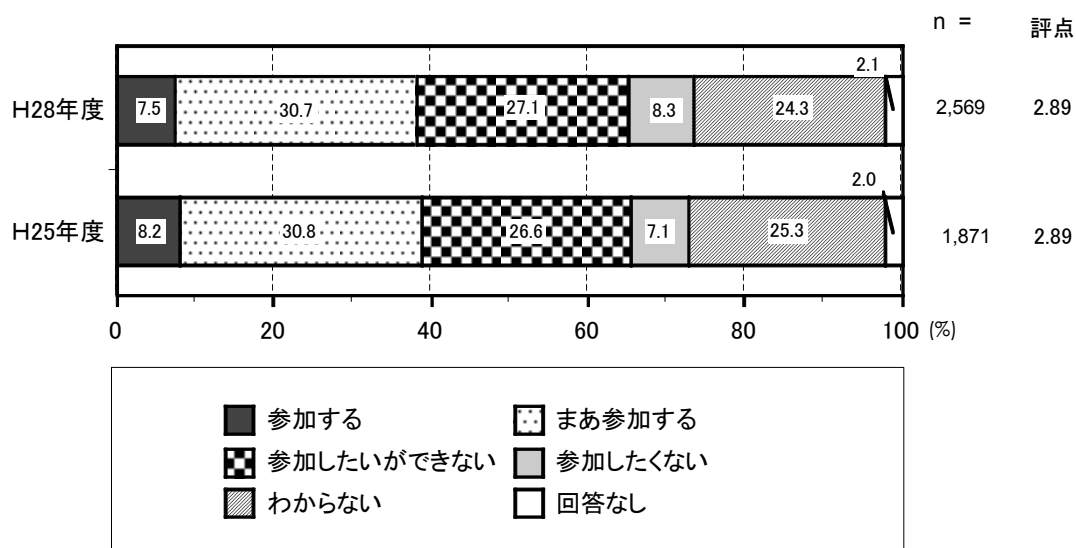
問18 問17のような取組などを地域コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加しますか。
【〇は1つ】

○地域コミュニティへの参加の意思について、「まあ参加する」が30.7%で最も多く、「参加する」(7.5%)と合わせた割合は38.2%となっています。さらに、「参加したいができない」の27.1%を加えると、全体の65.3%が参加の意向を示しています。問17の結果でみたように、多くの市民がコミュニティの重要性を感じていながらも、実際はなかなか参加できない状況にある市民が少なくない状況にあります。

○「参加したくない」は8.3%にとどまっています。

○平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図4-9-6)。

図4-9-6 地域コミュニティへの参加の意思 (前回比較)



問18で「3. 参加したいができない」「4. 参加したくない」に「○」を付けた方は、その理由をご記入ください。

○「仕事で忙しい」という理由が280件と最も多くあげられています。これも含めて、「子育てで忙しい」(58件)や「とにかく時間がない」(77件)など、忙しさを理由としてあげる市民が多い状況です。

○また、「健康上の理由」(77件)や「高齢のため」(66件)など健康面や加齢による体力の衰えなどを理由としてあげる市民も少なくありません。

○問17の結果でみたように多くの市民がコミュニティの重要性を感じていながらもその一方で、「ご近所づきあいが煩わしく面倒」(22件)や「自分や家族のことを優先」(32件)、「苦手、自信がない」(28件)という理由をあげる市民もみられます。また、「(参加の)きっかけや機会がない、わからない」(35件)というコミュニティ推進の施策的課題につながるような理由もみられます(図4-9-7)。

図4-9-7 地域コミュニティの活動に「参加したいができない」「参加したくない」理由

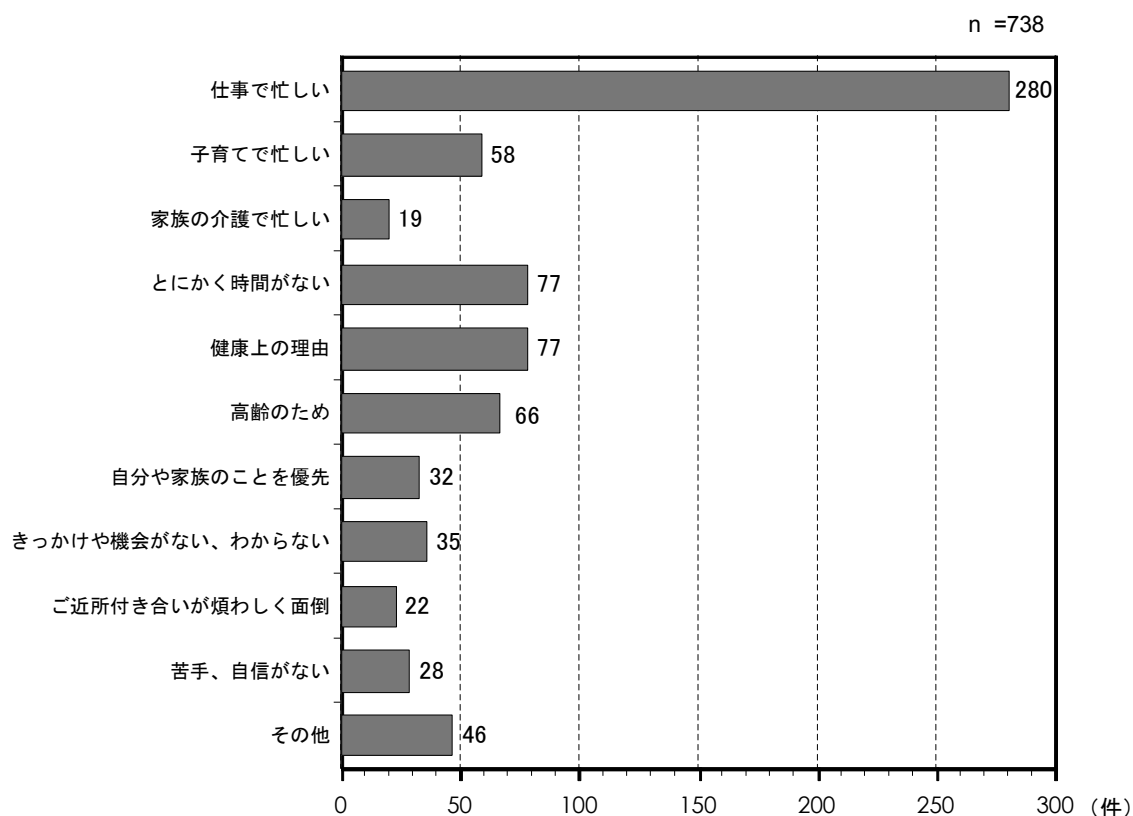


表4-9-1 地域コミュニティの活動に「参加したいができない」「参加したくない」主な理由(抜粋)

分類	主なご意見(抜粋)
1: 仕事で忙しい	・ 仕事が忙しいため。 ・ 仕事と育児があるため。 ・ 就業中のため、体力的に無理。 ・ 単身赴任のため。 ・ 仕事が土日関係なく入るため。土日出勤、平日休みなど。 ・ フルタイムで夫婦共働きのため。
2: 子育てで忙しい	・ 子どもが小さいため。 ・ 育児があるため。 ・ 子どもがまだ小さく、仕事もあり時間的に余裕がない。 ・ 子どもがまだ小さい。移動する手段がない。 ・ 子連れだとむずかしい。預け先が確保できない。 ・ 子育て、家事で時間が取れない。

分類	主なご意見（抜粋）
3：家族の介護で忙しい	・介護があるため。 ・夫が2年半ほど病院に入っている。時間に余裕がない。 ・介護が必要な主人がいるのもっと自由な時間が欲しい。 ・遠距離で両親の介護をしているため。 ・義母を静岡市内まで主人と交代で介護に出かけている。 ・認知症の主人がいるため。
4：とにかく時間がない	・時間をつくれない。 ・時間がない。 ・忙しいので。 ・余裕がない。 ・日時的に予定があり、合わない事が多い。 ・ほとんど家にいないため。
5：健康上の理由	・健康上の理由から。 ・障がい者なので。 ・自分の身体に自信がない。 ・体力的に無理があるため。 ・身体がしんどくなる。 ・歩行が困難なため。
6：高齢のため	・高齢のため。 ・年齢的に無理。 ・高齢となり体力的に動けなく他人に迷惑をかける。 ・96歳の老齢にて参加したいができないと思う。 ・高齢のためあまり役に立つとも思われない。 ・高齢なので足でまといになるから。
7：自分や家族のことを優先	・現在、娘夫婦の孫の面倒をみているため。 ・自分の生活で手いっぱい。余裕がない。 ・旅行をしていることが多いため。 ・家を空けるのがむずかしい。 ・自分と家族の健康面のため。 ・家族に高齢者がいるから。
8：参加のきっかけや機会、必要な情報が不足	・地域コミュニティ内容とか活動状態を知らないため。 ・参加したことがないので、その輪に入りにくい。 ・ご近所等お付き合いもなく参加しづらい。 ・どこで何をしているのかわからない。 ・地域の人はほとんど知らないため。 ・溶け込みにくい。
9：ご近所づきあいが煩わしく面倒	・面倒。 ・自分が人から干渉されるのが好きではないので。 ・マンションに住んでいるので、マンション内だけで良い。 ・声の大きな人が幅をきかせているから。 ・人と交わるのがおっくう。 ・他人と話しをしたくない。
10：苦手、自信がない	・人付き合いが苦手。 ・人とのコミュニケーションが苦手。 ・人に迷惑をかけるのは嫌い。かけられるのも嫌い。 ・一緒に参加する人がいないので、一人では不安。 ・他人に対して協調性がない。 ・参加する勇気がない。
11：その他	・独り暮らしのため。 ・興味がない。 ・本来は市が行うべきだと思うので。 ・将来的に転出する予定だから。 ・常時住んでいないので。 ・関わりたくない。